

**躁擾** [名] さわがしきこと  
**操縦** [名] あやつること  
**櫻狩** [名] 山野に櫻を尋ねて見て遊ぶこと  
**探足** [名] 足にて探りつつ歩むこと  
**歎歎** [自] 聲をひきて泣く  
**索然** [副] 趣味の乏しきさまに  
**作病** [名] つくりやまひ  
**策略** [名] はかりごと  
**錯謬** [名] あやまり  
**様様** [副] くざくざに、いろいろに

**提刀** [名] 刀を手に提げて行くこと  
**下戻** [名] 官へ差上たるものをその儘本人へ戻すこと  
**亘返** [形] 甚ださえてあり  
**先潜** [名] つよく返ゆ  
**先達** [名] 人より先に密に事をなすこと  
**先走** [副] さきごろ  
**先拂** [自] 人より先に走り出づ。人より先に物を受取らぬ先に代價を拂ふこと  
**咲亂** [自] 花さかりに開く  
**咲残** [名] さきのころること

**咲揃** [自] 花悉く開く  
**潜然** [副] 涙を流して泣き入る状態にふ語  
**差當** [副] まのあたり。さしむき  
**差送** [他] 送りやる  
**差抑** [他] おさふ。さしとどむ  
**差押** [名] 法律の語財産を封じて自由財産をせぬこと  
**差支** [名] さしつかふること。ささばり  
**差荷** [名] 棒に結びつけて二人にてかつぎ行くこと  
**差扣** [名] さしひかふること  
**差響** [名] さしひびくこと

【上】

**差向** [名] 二人向ひて居ること  
**災難除** [名] 災難をよくする方法  
**裁判所** [名] 裁判の事を司る官府  
**財産刑** [名] 人民の財産に關したる刑罰  
**財産権** [名] 法律の語、價し得べき私権  
**逆事** [名] 道理に逆ふこと。人の死ぬること  
**逆磔** [名] 罪人を逆に吊して行ふはりつけ  
**盃事** [名] いはひごと  
**沙汰限** [名] 理非の分別以外なること

**雑種税** [名] きたきたと種々の税  
**殺風景** [名] 興の有様をたつやうにけい  
**三角形** [名] 三つの直線たる形  
**三三九度** [名] 婚禮の三度つ盃をとりにかばすこと  
**参事會** [名] その管轄内する事  
**詐欺取財** [名] 人を欺の財を奪ふこと  
**再三再四** [副] いくた  
**祭政一致** [名] 祭事とて行はるること

**想像力** [名] 想像する心のはたらき  
**遮莫** [句] どうであらうともままよ  
**生** [接] 物の人工を加へぬ原粹などの意を示す  
**氣** [名] 好み。かんがへ。お  
**忌** [名] いむこと  
**記** [名] 文章の一體、ありし事をしるすもの  
**紀** [名] 本紀。十二年を一期とする稱  
**季** [名] 年月を分ち數ふるに用ふる語  
**奇** [名] 不思議。奇妙

機 [名] 事の起り、又は變る際。なり。はづみ

期 [名] 限りたる時

鬼 [名] おに

騎 [接] 馬へ乗りたる人を數へる語

基 [接] 据ゑてあるものを數へる語

義 [名] 五常の一、行ひ正しく道に叶へること。

儀 [名] のり。儀式。ことから

議 [名] かたらふこと。相談

技 [名] わざ

際 [名] はし。はて。かぎり。り。とき。さかひ。ほとり。を

吉 [名] 易の語、うらかたのよきこと

切 [名] 切るること。絶ゆること。切りはし

切 [名] 事さみ。くぎり。物事の終り。かぎり

切 [名] つづきを放ち分つ。終ふ。したむ。断つ

斬 [他] 又物を動物に當つ

截 [他] 又物を用ひて分つ

鑽 [他] 鑿石に鐵を打ちつけて火を取る

着 [他] 肌にまとふ。受く。被むる

虚 [名] むなしきこと。備へなきこと。そらごと

裾 [名] ころものすそ

居 [名] すまひ。すみか

御 [接] あがめ尊ぶ意を示すに用ふる語

段 [名] わかち。切れ目。きさみ。だん

吃 [名] どもること

金 [接] 金錢の高を記する時冠する語

斤 [接] 物の重さを量るに用ふる語

禁 [名] 戒めのおきて

聞 [他] 聲を耳に承く。うけひく。問ひただす

利 [自] 用に叶ふ。働きをなす。ききめあり

君 [代] 對稱に用ふる語

極 [名] さだめ

疵 [名] 斬り又は撃たれたる處。こはれ

舊 [名] ふるきこと

歸 [自] 一處に寄る

記 [自] 書き留む。しるす

期 [他] 時を限りて約束す

議 [他] 互に謀りあふ

議 [他] 互に謀りあふ

擬 [他] 殆んどその物事の如くなす。なぞらふ

奇異 [名] あやしく不思議なること

奇利 [名] めづらしき利益

奇事 [名] ふしぎなること

貴意 [名] 他人の意見の敬稱

貴下 [代] 同輩に對していふ語

貴地 [名] 他人の住める地の稱敬

歸路 [名] 歸途(キト)かへりみち

騎馬 [名] 馬に乗りたること

規模 [名] 正しき例。手本。かた

規矩 [名] おきて。のり

喜怒 [名] よろこびといかりと

嬉戲 [名] 遊び戯るること

企圖 [名] くはだてはかること

危地 [名] あぶなき土地

危懼 [名] 危み懼るること

危坐 [名] 正しくすわること

危機 [名] あやふききざし

義理 [名] 人の盡すべき筋道。わけ。意味

義務 [名] 身の分限に應じて務めざるべからざる義理

義氣 [名] 義に富みたる心

机下 [名] 机の下。手紙の宛名の脇付にしるす語

幾何 [名] 數學の一種  
 幾微 [名] すこしなること  
 饑餓 [名] ううること  
 毀譽 [名] そしるとほむる  
 基礎 [名] もとぬ。どたい  
 起訴 [名] 訴を起すこと  
 稀疎 [名] まばらに稀なる  
 浮垢 [名] 水面に油など浮  
 綺羅 [名] 装ひ飾ること。  
 綺語 [名] 言葉を飾ること

氣宇 [名] 人の心の寛きこ  
 氣味 [名] 香と味と。心も  
 器具 [名] うつはもの  
 寄附 [名] その事を助くる  
 寄語 [名] 先の人にいひ送  
 忌諱 [名] いみさくること  
 忌避 [名] いみ嫌ひ避くる  
 機宜 [名] 機を見てよきに  
 肌理 [名] 物のほだの細か  
 記事 [名] ありしままの事  
 を記したる文

疑似 [名] 疑はしきほど似  
 疑字 [名] 疑はしき文字  
 議事 [名] 評議する事柄  
 極 [名] きはむること。推し  
 黄 [名] 少し黄色になる  
 競 [名] 負けじと勇む。張り  
 淨 [名] きよむること  
 清 [名] 穢れなし。残るとこ  
 御 [名] 馬をあつかふ。上に  
 興 [名] おもしろみ。たのし

凶 [名] 易の語、うらかたの  
 京 [名] みやこ  
 行 [名] 物の數多く列り並ぶ  
 曲 [名] まがれること。歌の  
 局 [名] 官省の中の小さき區分  
 極 [名] きはまり。はて  
 來 [名] こなたへ近くなる  
 鍛 [名] きたふるること  
 強 [名] 甚し。きびし。つよ  
 嫌 [名] きらふこと。忌みて  
 避くべきこと

切 [名] たやす。種なしにす  
 禁 [名] いましむ。とどむ  
 吟 [名] 詩歌をうたふ  
 噤 [名] 口を閉づ。つぐむ  
 脚 [名] 脚ある器を數ふるに  
 逆 [名] 物事のさかさまなる  
 虐 [名] おこり  
 極 [名] きまること。さだま  
 聞 [名] きこゆること。うは  
 聞 [名] 聲、人の耳に知らる  
 なる  
 理明かなり。名高く

樵 [名] 薪柴を切る  
 刻 [名] きざむこと。細かに  
 兆 [名] 起らんとすること。  
 築 [名] 土石を固めて積み作  
 喫 [名] 食ふ。飲む。吸ふ  
 軋 [名] しぶりて滑かなら  
 嚴 [名] おごそかなり。ゆる  
 黄色 [名] 黄なる色  
 起因 [名] 起端(キタン)お  
 起算 [名] 計算を始むること

起おき臥ふし [名] おきふし  
 起おき源げん [名] 事の起り  
 起おき伏ふく [名] おきふし。たかひく  
 起おき立りつ [名] 立つこと  
 起おき居きよ [名] たちぬふるまひ  
 起おき工こう [名] 工事を起すこと  
 起おき稿かう [名] 原稿を書き始むること  
 起おき隱いん [名] 官より退きて郷里に歸り隱居すること  
 歸き省せい [名] 故郷に歸りて父母の安否を問ふこと  
 歸き帆はん [名] 歸路に赴く船

歸き任にん [名] 任地に歸ること  
 歸き宅たく [名] わが家に歸ること  
 歸き村そん [名] わが村に歸ること  
 歸き装さう [名] かへりじたく  
 歸き草そう [名] 草稿を書き始むること  
 歸き洛らく [名] 京に歸ること  
 歸き來らい [名] 歸り來ること  
 歸き納なふ [名] 返し納むること  
 歸き農のう [名] 官を辭して民間に下ること  
 歸き化くわ [名] 外國人の歸服して我國の人民となること

歸き結けつ [名] おちつくこと  
 歸き服ふく [名] つきしたがふこと  
 歸き國こく [名] 本國へ歸ること  
 歸き航かう [名] 船を漕ぎ戻すこと  
 歸き山さん [名] 僧侶のわが寺に歸ること  
 歸き參さん [名] 再び舊主の家に歸り仕ふること  
 氣き韻いん [名] きぐらひ  
 氣き張はり [名] きばること  
 氣き早はや [名] 性質のきばやきこと  
 氣き配はい [名] きくばり。けはひ

氣き發はつ [名] 液體蒸發して氣體に變化すること  
 氣き骨ほね [名] 心づかひ  
 氣き取とる [自] 感づく。氣づく。容子を銜ふこと  
 氣き脫だつ [名] 精神の身にそはすとすること  
 氣き折をれ [名] 心の挫くこと  
 氣き落おち [名] 望を失ひなどして力を落すこと  
 氣き重おも [名] 氣力の引立たぬこと  
 氣き輕かる [名] 心のうちとけたること  
 氣き兼かね [名] 氣をかぬること  
 氣き慨がい [名] いきほひ。いきぐみ

氣き體たい [名] 物理學の語、空形をもたぬもの  
 氣き立たて [名] 心のもちやう。  
 氣き息そく [名] いき  
 氣き付つけ [名] 氣をつけさすこと  
 氣き長なが [名] おちつきてゆうゆうとする  
 氣き無なし [名] 思ひやりのなきこと  
 氣き樂らく [名] 心に苦勞なきこと  
 氣き受うけ [名] 他人の己れに對する感情  
 氣き鬱うつ [名] 氣分のふさぐこと  
 氣き乘のり [名] 面白味を覺えて進むこと

氣き病やみ [名] 思ひ鬱したるよ  
 氣き儘まま [名] わがままに振舞ふこと  
 氣き忠ちゆう實じつ [名] 心のまめなること  
 氣き前まへ [名] こころだて。きまへ  
 氣き風ふう [名] こころだて  
 氣き分ぶん [名] こころもち  
 氣き込こみ [名] 精神を込むること  
 氣き焰えん [名] わがいきほひ  
 氣き轉てん [名] 心のはたらき。目先の智慧  
 氣き壓あつ [名] 空氣の物を壓する力

**氣合** [名] 氣持(キモチ)心もち  
**氣先** [名] 氣の向ふところ  
**氣速** [名] 性質の快活にして打解けたるを  
**氣勢** [名] いきほひ。意氣  
**氣絶** [名] 急に驚きなどして氣息の絶ゆと  
**議院** [名] 議員の集りて事を議するところ  
**議論** [名] 互に己が意見を述べ鬭はすこと  
**議題** [名] 評議すべき問題  
**議決** [名] 議論して定むる  
**議定** [名] 評議して定むる

**議案** [名] 評議すべきしたる  
**記録** [名] 後世に遺さんため書付けおく  
**記憶** [名] 物事を心に留めおきて忘れぬと  
**記號** [名] しるし  
**記載** [名] かきのすること  
**奇拔** [名] すぐれてぬきん  
**奇謀** [名] ふしぎなる謀  
**奇僻** [名] 常にかはりたる  
**奇特** [名] 人の善行をほむる語

**奇談** [名] めづらしく面白き話  
**奇想** [名] 奇なる考  
**奇遇** [名] 思ひ掛けなく遇ふこと  
**奇貨** [名] めづらしきたるもの  
**奇禍** [名] 思ひがけなき禍  
**奇計** [名] 奇妙なる計  
**奇驗** [名] 不思議に妙なるしるし  
**奇聞** [名] 奇妙なる風聞  
**奇效** [名] ふしぎなるしるし  
**奇行** [名] 常の人に變りたる行

**奇縁** [名] 不思議なる縁  
**奇才** [名] 珍らしき才  
**稀薄** [名] うすきこと  
**偽版** [名] にせに作れる版  
**偽物** [名] にせもの  
**偽作** [名] にせて作ること  
**偽造** [名] にせてつくること  
**偽名** [名] いっぱりの名  
**偽書** [名] にせて作りたる書籍  
**偽筆** [名] 他の手蹟ににせて書きたるもの

**偽善** [名] にせの善事  
**羈絆** [名] ほだし。きづな  
**羈寓** [名] 旅すまひ  
**軌範** [名] てほん。のり  
**忌日** [名] 忌辰(キシン)めい  
**忌服** [名] 喪にもり居る間の稱  
**忌引** [名] 忌中にて勤めを休みて引籠り居ること  
**詭謀** [名] いっぱりの謀  
**希望** [名] 企望。のぞみ。  
**希世** [名] 世にまれなること

**既報** [名] 既に報したること  
**既決** [名] 疾くに決定したること  
**既婚** [名] 既に結婚したること  
**既定** [名] 既に定まれること  
**既刊** [名] 既に刊行したること  
**既往** [名] 過ぎにし方  
**既製** [名] 既に作りあげたること  
**既成** [名] 既に出来上りたること  
**既設** [名] 既に設けたること  
**貴邦** [名] 他に對してその本國の敬稱

**貴方** [名] 他に對してその居所の敬稱

**貴答** [名] 貴報(キハツ)他の答の敬稱

**貴覽** [名] 他の見ることの敬稱

**貴顯** [名] 官位の高き人

**貴様** [代] 貴下に同じ、今ものを呼ぶ語

**貴命** [名] 他の命令の敬稱

**貴所** [名] 他のすまひの敬稱

**貴書** [名] 他の手紙の敬稱

**基本** [名] もとゝ。どだい

**機變** [名] 場合に應じて事を處すること

**機軸** [名] 新に創むる物事の基

**機械** [名] 種類の仕掛によりて物を造り出す道具の稱

**機運** [名] 時世のめぐりあはせ

**機嫌** [名] こころ。たちゝ。

**機密** [名] 政事、軍事上の秘密

**祈禱** [名] 神佛にいのること

**祈誓** [名] 神佛に祈りてちかひを立つること

**祈念** [名] いのること

**危篤** [名] 病重りて命の危きこと

**危難** [名] あやふきわざはひ

**吉事** [名] めでたきこと

**切目** [名] きりくち。くぎり

**着類** [名] 身にまとふもの

**着替** [他] 着てゐる着物を替へて着る

**着初** [名] 新らしき着物を始めて着ること

**着付** [名] 着なれたること

**着馴** [自] 常に着てなる

**着成** [名] 着物をきたるままなること

**着振** [名] 着物を着たる容子

**着込** [他] 衣の下に着る。衣を重ねて着る

**巍峨** [副] 山の高大なるさまにふ語

**器械** [名] うつは。だうぐ

**器用** [名] 人の才能の世の役にたつこと。轉じて藝能に巧なること

**飢渴** [名] 腹のへると咽のかはくと

**饑寒** [名] うゑと寒さと

**龜鑑** [名] かがみ。てほん

**饑饉** [名] 旱洪水等にて米穀買はず人民饑うること

**期年** [名] 満一ケ年のこと

**期間** [名] 法律の語、行爲をなし又はある効力を起さしむる迄の間

**期待** [名] あてにするること

**規諫** [名] いさむること

**規則** [名] のり。おきて。さだめ

**規約** [名] 規則の定めたる約定

**規定** [名] おきて。さだめ

**御意** [名] 他の心の敬稱

**怯懦** [名] 臆病なること

**禦侮** [名] 他のあなどりを禦ぐこと

**居多** [名] 多きこと

**虚字** [名] 漢文に實體のない文字

**虚位** [名] 空しくあきたる場所

**虚威** [名] 威光あるやうに見せかくること

**虚偽** [名] いつはり

**虚無** [名] 何もなきこと

**漁歌** [名] 漁夫のうたふ歌

**許多** [名] あまた

**許與** [名] ゆるすこと

**許可** [名] ききとどけ。ゆるし

**許嫁** [名] いひなづけ

**舉止** [名] 舉措(キョソ)たちふるまひ

舉家 [名] 家内残らずのもの

歛歛 [名] すすりなき事

巨利 [名] 多くの利益

距離 [名] へだたり

危殆 [名] あやふきこと

寄托 [名] 物を他にあづかること

寄贈 [名] 贈りて寄附すること

寄稿 [名] 原稿を寄贈すること

寄港 [名] 船の港に寄ること

寄書 [名] 他より寄せ贈る文書

寄進 [名] 神社佛閣に金銭物品を奉ること

疑問 [名] うたがひとふこと

疑團 [名] うたがひのかたまり

疑心 [名] 疑念(ギン)うたがふ心

綺麗 [名] うるばしきこと

毀損 [名] こはるること

急度 [副] かならず。相違なく

譎詐 [名] いっぱること

紀念 [名] かたみ

紀元 [名] 建國の第一に數へ始むる歳

金子 [名] ぜに。かれ

金利 [名] 貸金の利子

禁止 [名] 差止むること

禁錮 [名] 刑の名、期限を定めて入監せしむること

勤務 [名] 公のつとめ

勤惰 [名] つとむるとおこたると

勤仕 [名] つとめ仕ふること

近古 [名] 近むかし

欣喜 [名] よろこぶこと

欣慕 [名] よろこび慕ふこと

技能 [名] うでまへ

技藝 [名] わざ

木遣 [名] 材木等を多人數にて運搬すること

木振 [名] 立木のやうす

剗刷 [名] 版木に刻ること

戲言 [名] たばむれのこと

喜劇 [名] 人を笑はしめるやうに仕組める芝居

喜捨 [名] 貧人に物をめぐみ與ふること

喜悅 [名] よろこぶこと

跛行 [名] すべて足ありて行くものの稱

揮毫 [名] 書畫をかくこと

棄捐 [名] おのがものをすてて他に恵み與ふること

義捐 [名] 他を恵み施すこと

義舉 [名] 義のため、企つること

義勇 [名] 義によりて勇むこと

義絶 [名] 義を立てんがため、縁をきる

儀典 [名] 儀式につきてのさだめ

几案 [名] つくゑ

利目 [名] しるし。效能

杞憂 [名] あるまじき事を想像して心配すること

嬉遊 [名] あそびたのしみ

岸邊 [名] 岸のほとり

犠牲 [名] いけにへ

擬製 [名] にせて作る

機業 [名] はたを織ること

起業 [名] 事業を起すこと

急場 [名] 急に迫りたるを急に訴ふること

急事 [名] にはかなる事柄

急務 [名] いそぎ行ふべきわざ

給與 [名] 物をあてがふこと

給資 [名] 資本を給すること

給費 [名] 費用を給すること

休意 [名] 心を休むること

休暇 [名] 暇をたまはりて休むこと

舊話 [名] ふるき話

舊里 [名] ふるさと

舊派 [名] ふるき方の派

舊規 [名] ふるきおきて

舊誼 [名] ふるきよしみ

舊故 [名] ふるきなじみ

舊都 [名] もとの都

舊地 [名] 舊土(キツド)もとの土地

灸治 [名] 灸をすゑて療治すること

仇視 [名] 仇の如く思ひて憎むこと

救護 [名] すくひまもること

久離 [名] 永く子弟などの縁をたつこと

義侠 [名] 男だて

極 [副] 甚だ。この上もなく

極 [名] きはまるところ。はて。終り

興 [自] 面白しと思ふ

響 [他] もてなす。馳走す

供 [他] そなふ。用に當る

穢 [形] けがれたり。清からずあり

窮 [自] せんかたなくなる。貧乏になる

際立 [自] いちじるしくなる。めだつ

際疾 [形] 眞際に近くて危し

際物 [名] 入用の眞際に賣り出す商品

氣晴 [形] 心の鬱を晴すこと

氣入 [名] 心に適ふ

氣懸 [名] 心にかく

氣向 [名] 心にむかふ

氣丈 [名] 心のなをしきこと

氣後 [名] 畏れてひるむこと

氣掛 [名] 心がかかり

氣遣 [名] きづかふこと

氣疲 [名] 心のつかれ

氣強 [形] 心づよし。人に對してつれなし

氣詰 [名] 氣がちまること

氣長 [形] 心ゆるやかなり

氣配 [名] つくれこれと心を

氣位 [名] その人に備はる人格

氣任 [名] 思ふままにする

氣紛 [名] 心の變り易きこと

氣儘 [副] 心のままに

氣塞 [名] 心持のほればれ

氣障 [名] 心に不快を感ずること

氣性 [名] 生れつきたる心だて

氣色 [名] 顔いろ。心もち

氣急 [形] 心いそがはし

記簿法 [名] 金銭の勘定す法

記述 [名] 記し述ぶること

記事文 [名] 記事の文章

着通 [名] 同じ着物を常に身に着てゐると

着心 [名] 着心地(キゴコ)チ)着たる心持

着馴 [他] 衣服などを身に付けてならす

着飾 [他] 美しき衣物を着る



着流きながし [名] 小袖のみ着て袴をはかぬこと  
 着舊きふるす [他] 久しく着て古くす  
 吉瑞きさい [名] めでたきしるし  
 吉例きれい [名] めでたきためし  
 歸着きやく [名] 歸つて到着する  
 歸還きわん [名] かへること  
 歸郷きやう [名] 故郷に歸ること  
 歸京ききやう [名] みやこに歸ること  
 忌中きちゆう [名] いみにこもりてゐる間  
 議場ぎやう [名] 事を評議する會場

議定ぎぢやう [名] 評議して定むること  
 議會ぎかい [名] 議員の會議  
 切上きりあが [他] やめにつく。一段落をつく  
 切合きりあひ [名] 互に及物にて切り合ふこと  
 切入きりい [自] 刀をふりて襲ひかふる  
 切賣きりうり [名] 少しづつ切りさきて賣ること  
 切替きりかひ [他] 彼と此と取り替ふ  
 切金きりきん [名] 貸金を割にて受納むること  
 切切きりきり [名] この上なきこと取り詰めたる事  
 切口きりくち [名] 物を切りたる端

切捨きりすて [名] 切り捨つること  
 切賃きりちん [名] 兩替手数料  
 切繼きりつぎ [名] 物と物とを切りつぎ合ふこと  
 切取きりとり [他] 切り取る  
 切抜きりぬき [名] きりぬくこと  
 切割きりわり [他] 切りて二つに割る  
 義理立ぎりだて [名] 義理を固く守ること  
 義理盡ぎりづく [名] 義理のほり  
 義塾ぎじゆく [名] その郡村などに設けたる塾  
 器量きりやう [名] 物の用に立つ才能。顔かたち

伎倆ぎりやう [名] わざまへ。うでまへ  
 絹織きぬおり [名] 絹物(キヌモノ)の織物  
 幾何學きかかく [名] 數學の一種  
 魚類ぎよるる [名] 魚のたぐひ  
 漁火ぎよくわ [名] いさりび  
 恐懼きようく [名] 恐怖(キヨウフ)おそるること  
 共議きようぎ [名] 共に相談すること  
 凶事きようじ [名] めでたからぬこと  
 凶夢きようむ [名] めでたからぬ夢

鞏固きようこ [名] かたきこと  
 興味きようみ [名] おもしろみ  
 御慶ぎよげい [名] およろこび  
 虚耗きよまう [名] むなしくつひゆること  
 虚言きよごん [名] そらごと  
 虚實きよじつ [名] そらごととまこと  
 虚心きよしん [名] 心に何も思はぬこと  
 虚勢きよせい [名] からいばり  
 虚説きよせつ [名] そらごとのうば  
 虚傳きよでん [名] 虚聞(キヨブン)いつぱりの傳へ

虚名きよめい [名] 實力に添はぬ評判  
 虚勞きよらう [名] 病氣等にて身體疲れ精氣衰ふこと  
 虚聲きよせい [名] 根もなきうばさ  
 虚禮きよれい [名] 實のなき禮式  
 虚文きよぶん [名] 實のなきむだなる文章  
 曲事きよくじ [名] 正しからぬこと法に違ひたること  
 虚榮きよえい [名] いっぱりのさかえ。みえ  
 曲庇きよくひ [名] 隠しと知りながらかばふこと  
 去來きよらい [名] ゆききをするこ  
 居所きよしょ [名] むばしよ

許容 [名] ゆゆるすこと

許諾 [名] 聞き入るること

巨萬 [名] 莫大なる數

巨大 [名] 甚だ大なること

巨細 [名] 大なると細かなること

馭民 [名] 人民を統御すること

舉動 [名] ふるまひ

舉國 [名] 國をこぞりてのこと

拒絶 [名] こばむこと

醵金 [名] 金を募り集むること

倨傲 [名] おごりたかぶること

仰慕 [名] なつかしく思ふこと

郷里 [名] むらさと

凝視 [名] じつとして視ること

凝固 [名] こりかたまること

凝議 [名] とくと相談すること

狂氣 [名] きちがひ

驚怖 [名] おどろきおそること

行爲 [名] おこなひ

行儀 [名] たらぬの作法

競技 [名] 技を競ふこと

強記 [名] 物覚えのよきこと

喫飯 [名] 飯を食ふこと

喫烟 [名] 烟草をすふこと

拮抗 [名] はりあふこと

詰問 [名] 責めなじりて問ひたすこと

屹立 [名] 眞直に聳え立つこと

金高 [名] 金錢を勘定したるかさ

金額 [名] きんだか

金言 [名] 貴き言葉。鑑とすべき言葉

金策 [名] 金子の調達

金創 [名] きりきず

金屬 [名] かねの類の總稱

金談 [名] 金子調達の話

金鐵 [名] 物の堅固なるを形容していふ語

金納 [名] 租税を金錢にて納むること

禁物 [名] 忌み止めたる物を轉じて好まぬ物

禁戒 [名] いましめのおきて

禁讀 [名] 音讀するを止むること

禁獄 [名] 獄中にとどめお

禁制 [名] 政府より差止めたるおきて

禁足 [名] 外出をとどむること

禁酒 [名] 酒をのむことを止むること

禁烟 [名] 烟草を吸ふことをとどむること

禁令 [名] 法律の語、行爲を禁ずる法令

吟詠 [名] 詩歌などをよみうたふこと

吟聲 [名] 詩歌をうたふ聲

吟行 [名] 詩を吟じながら行くこと

近在 [名] 近郷(キンガウ)の在所

近近 [副] ちかぢかに。ほどなく

近火 [名] 近きあたりに起りたる火事

近體 [名] 近頃行はるる體裁

近來 [名] ちかごろ。このごろ

近隣 [名] 近きとなり

近信 [名] ちかごろのたよ

近代 [名] 近き世

緊急 [名] 最も肝要にて急に行ふべきこと

緊要 [名] 最も肝要なること

緊密 [名] 極めて密なること

勤續 [名] 引續きて勤むること

勤學 [名] 學問をつとむること  
 勤儉 [名] 家業をよくつとめ、め儉約を守ること  
 勤勉 [名] つとむること  
 勤怠 [名] 勤むると怠ると  
 勤勞 [名] つとめたるほねなり  
 勤王 [名] 朝廷のため忠義をつくすこと  
 謹誠 [名] つつしみいましむること  
 謹恪 [名] つつしむこと  
 謹厚 [名] 情厚くて行を謹むこと  
 謹言 [名] 謹みて申す

謹慎 [名] かしこみ謹むこと  
 謹守 [名] つつしみ守ること  
 僅少 [名] すこし  
 欣悅 [名] 炊拵(キンベン)よろこぶこと  
 欣躍 [名] よろこびをどる  
 窘迫 [名] こまりはつること  
 窘困 [名] こまること  
 均一 [名] ひとしきこと  
 均霑 [名] 均しくそのめぐみを受くること  
 均等 [名] ひとしきこと

木登 [名] 木に攀ち登ること  
 鞠問 [名] 罪人の罪状を責めただすこと  
 鞠育 [名] 養ひそだつること  
 奇怪 [名] 不思議にて怪しきこと  
 奇觀 [名] めづらしきみもの  
 機會 [名] 場合のめぐり合せなり。はづみ  
 機關 [名] 用て我爲にするもの。からくり  
 企畫 [名] くはだつること  
 貴官 [名] 官吏に對していふ  
 祈願 [名] 神佛に祈り願ふこと

花車 [名] 容の美しきこと  
 逆意 [名] 謀叛の心  
 虐使 [名] むごく使ふこと  
 却下 [名] 願ひ出でたることを下げ戻すこと  
 不快 [名] 心よからずあり  
 消入 [名] なげきに沈む。絶え入る。死ぬ  
 消果 [名] 残りなく消ゆ  
 來合 [名] 來て落ちあふ。來て相逢ふ  
 聞忌 [名] 親族の遠國にて死にたるを聞き受くる忌  
 聞入 [名] うけひく

聞置 [名] 聞き覚えておく  
 聞落 [名] 聞き落すこと  
 聞書 [名] 他の話を聞きながら書きとる  
 聞捨 [名] 聞き捨つること  
 聞付 [名] 聞き傳へて知る  
 聞繼 [名] 次第に傳へて知る  
 聞取 [名] 聞きて心に留む  
 聞惚 [名] 一心になりて聞く  
 聞馴 [名] 聞くことに馴る  
 聞耳 [名] 世人の耳に聞ゆること

聞物 [名] 聞く甲斐あるもの  
 聞分 [名] 聞きわくること  
 棄却 [名] すつること  
 氣早 [名] 心早り易し。短氣にて落つかす  
 窮理 [名] 物事の道理を窮め知る  
 窮苦 [名] くるしみ  
 寄食 [名] 他の家を身をよせて養はるること  
 寄宿 [名] 他の家を假りに生ふこと  
 寄留地 [名] 寄留して居る土地  
 起請 [名] 誓を立て其事の由を記したる者

巍然 [副] 山の高き状にいふ語

毅然 [副] 心の強き状にいふ語

鳩集 [名] あつむること

久留 [名] 久しく留まること

久安 [名] 世の久しく泰平なること

久遠 [名] 久しく遠ざかること

舊態 [名] もとのありさま

舊形 [名] もとのかたち

舊惡 [名] ふるき惡事

舊恩 [名] 昔受けたる恩

舊交 [名] ふるき交り

舊好 [名] ふるきよしみ

舊式 [名] ふるきかた

舊識 [名] ふるきしりあひ

舊習 [名] ふるきならはし

舊跡 [名] 古物事のありし地

舊俗 [名] 昔の風俗

舊弊 [名] 舊來の惡しきならはし

舊來 [副] ふるくより

舊臘 [名] 去年の十二月

舊例 [名] 昔よりのためし

舊怨 [名] ふるきうらみ

舊制 [名] ふるきおきて

舊債 [名] ふるき借財

舊勳 [名] ふるき手柄

牛痘 [名] うまばうさう

休刊 [名] 印刷を休むこと

休業 [名] 業を休むこと

休戚 [名] 喜びと憂ひと

休憩 [名] 休息(キウツク) 休みいふこと

休泊 [名] 休息すると。宿泊すると

休養 [名] 休みて保養すること

球形 [名] まりの如き形

九原 [名] 九泉(キウセン) よみぢ

九拜 [名] 古の最敬禮の稱

糾察 [名] 糾明(キウメイ) 糾し明らかにむる

糾合 [名] とりあつむること

救世 [名] 世を救ふこと

救濟 [名] 救助(キウジウ) すくひ助くること

救援 [名] 加勢して助くること

給金 [名] 雇人などの勤めのしるに與ふ金

給水 [名] 水を與ふること

給料 [名] 給金に同じ

給分 [名] 給料の高

急電 [名] いそぎの電報

急行 [名] 急ぎて行くこと

急激 [名] 急にてはげしきこと

急性 [名] 急激なる性質

急速 [名] 急に速かなること

急難 [名] 急に起れる災難

急報 [名] にはかのしらせ

急迫 [名] 急にさし迫ること

急便 [名] 急信(キフシン) 急ぎの便

急變 [名] 急に起りたる惡事

急用 [名] 急ぎの用事

急遽 [名] あはただしきこと

急進 [名] 俄かに進むこと

及第 [名] 學問の試験を受けて合格すること

泣血 [名] ちのなみだ

泣涕 [名] 涙を流して泣くこと

**吸収** [名] すひとること

**吸入** [名] すひ入るること

**穢** [形] きたなきさまなり

**氣働** [名] 心の敏く働らくこと

**氣耻** [形] 心耻かしく感じてあり

**氣丈夫** [名] 心安全にて危みを抱かぬこと

**氣慰** [名] 心を慰むること

**氣遣** [形] 氣遣ふべくあり心もとなし

**弓道** [名] 弓矢の道

**際際** [名] きばやかなり。際立って見ゆ

**基本金** [名] もとでとして用ふる金

**既得權** [名] 法律の語、人より先に所有してある權

**吉祥** [名] めでたこと

**吉上** [名] 上なく吉なること

**切掛** [他] 刀を振り擧げて切りてかかる

**切碎** [他] すたすたにきる

**切離** [他] 切りて離れさす

**切捲** [他] 烈しく切り込みて追ひまくる

**切廻** [他] 物事のやりくりを巧にす

**切破** [他] 切りてこはす

**曲乘** [名] 馬に乗り乍ら種々の藝をなすこと

**逸興** [自] おもしろがる

**京焼** [名] 京都より産出する陶器の總稱

**京染** [名] 京都より染出す染物の稱

**境界** [名] 境域(キヤウイキ)さかひ

**境涯** [名] 身のおきどころ

**境遇** [名] 身のしあはせ

**行幸** [名] みゆき

**行啓** [名] 皇后、東宮のみゆき

**行装** [名] 外出する時のいでたち

**行政** [名] 政事を行ふこと

**行水** [名] 湯を盥に盛り身體の汗を洗ふこと

**行年** [名] としげへ。よばひ

**行列** [名] 多人數の正しく列をなして行くこと

**狂言** [名] すべてしくみて行ふこと

**狂暴** [名] 狂氣めきて亂暴なること

**狂悖** [名] 心くるひて理になすこと

**狂亂** [名] くるひ亂るること

**狂奔** [名] 狂氣じみて奔走すること

**狂態** [名] 狂氣じみたる様子

**驚愕** [名] 驚駭(キヤウガイ)おどろくこと

**驚歎** [名] 驚きて感服すること

**強行** [名] 強ひて行ふこと

**强健** [名] 身體のすこやかなること

**強辨** [名] しひて辨すること

**強硬** [名] つよきこと

**強制** [名] しひておさへつくること

**強迫** [名] むりに迫ること

**強襲** [名] しひて襲ふこと

**競争** [名] きそひ争ふこと

**競賣** [名] せりうり

**競走** [名] 走りくらべ

**競漕** [名] 船をこぎくらぶること

**仰天** [名] 甚だしく驚くこと

**仰望** [名] あふぎ望むこと

**共有** [名] 一つの物を衆人に共有すること

**共用** [名] 衆と共に用ふること

**共通** [名] 彼此共に通じて同様なること

**共同** [名] 衆人共に物事をなすこと

共犯 [名] 衆人共共に罪を犯すこと

共謀 [名] 衆人共共にはかりたくむこと

恐悦 [名] かしこみよること

恐赫 [名] おどすこと

恐察 [名] 人の事を推察するにふ語

胸臆 [名] 腹のうち。もの覚え

胸痛 [名] 胸の痛むこと

兇險 [名] 心のおしきこと

兇行 [名] 悪事を行ふこと

兇暴 [名] 心あしくてあらぶること

凶年 [名] 穀菜の乏らぬ年

凶作 [名] 穀菜の實のりあしきこと

凶報 [名] めでたからぬしらせ

凝集 [名] こり固まりて集まること

凝滯 [名] とどこほり進まぬこと

凝結 [名] こりかたまること

饗饌 [名] 饗宴(キヤウエン)馳走のこと

饗應 [名] もてなし

向後 [名] 今よりのち

形装 [名] やうす。すがた

匡濟 [名] ただしつくふこと

匡正 [名] ただすこと

嚮導 [名] みちびき。あんない

享年 [名] 世にながらへたる間の年

誑惑 [名] たばかり欺くこと

拱手 [名] 手をまねくこと

玉音 [名] 玉の如くうるはしき聲

曲藝 [名] 種類の面白き藝

曲折 [名] まがりくねること

曲論 [名] 理に曲りたる論

極言 [名] 言葉を盡して諫むること

極所 [名] おしつまること

極端 [名] 一番のはし

極點 [名] ゆきつまり

跼蹐 [名] せぐくまり。拔き足すること

居常 [副] ひごろ

虚飾 [名] うはへの飾

虚弱 [名] 身體のすこやかならぬこと

恭謙 [名] うやうやしくてへりくだること

恭敬 [名] うやまひつつしむこと

供託 [名] あづくること

供給 [名] 他の必要に應じて物を作ること

供御 [名] そなふること

舉證 [名] 證據を舉ぐること

釀出 [名] 費用を出しあふこと

規則立 [名] 規則正しく亂れずあり

屹然 [副] 山の高き状にいふ語

喫驚 [名] 驚くこと

祈年祭 [名] としごひのまつり

紀念祭 [名] 前に目出度月日にあひて行ふ祭

焦臭 [形] 紙綿などの焦ぐる臭あり

煌煌 [形] 光りかがやきてあり

端麗 [形] おごそかにうるはし

欣欣 [副] 欣然(キンセン)喜ぶ状にいふ語

金力 [名] かれのちから

近况 [名] 近情(キンツヤウ)近頃の様子

近着 [名] その物の近頃到着したること

謹敕 [名] 身を謹みて振舞ふこと

謹聽 [名] 謹みて聞くこと

琴曲 [名] 琴の曲の總稱

**客止** (名) 興行場などにて大入の時客を止めること

**客待** (名) 客の来るを待ち受くること

**客分** (名) 客の身分として取扱ふこと

**客來** (名) 客の訪ひ來れること

**逆撃** (名) 敵を迎へて撃つこと

**逆心** (名) 謀反の心

**虐待** (名) むごくもてなすこと

**機嫌取** (名) 人の心を受持つこと

**刻足** (名) 足の運びの細かにて早きこと

**聞召** (他) 聞くの敬語

**聞合** (他) これかれを聞き合はせ考ふ

**聞出** (他) 隠事を探り聞きて知る

**聞落** (他) 聞くべきことを洩らして聞かず

**聞覺** (名) 聞き取りて覺えること

**聞及** (他) 聞傳へて知る

**聞嚙** (他) 少し聞く

**聞苦** (形) 聞惡(キキニクシ)聞くにふか

**聞定** (他) たしかに聞く

**聞傳** (他) 人づてに聞く

**聞咎** (他) 聞きてとがむ

**聞處** (名) 聞くべき要點

**聞届** (他) 申立を承諾す

**聞流** (他) 聞きたるままに心止めず

**聞直** (名) 改めて聞く

**聞忘** (他) 聞くべきことを忘る。聞きたることを忘る

**饑饉年** (名) 饑饉のある年

**貴金屬** (名) 價の高き金屬

**窮屈** (名) 窮困(キニウコ)自由自在ならぬこと

**窮策** (名) 苦しまぎれに考へ出せる策

**窮達** (名) おちぶるゝと立身すること

**窮迫** (名) 難儀に陥りて困ること

**窮厄** (名) 災害にあひて難儀すること

**窮乏** (名) 貧しくなりて難儀すること

**汲汲** (副) 一意専心その事にのみかかづらふにふ語

**岌岌** (副) 危き状にいふ語

**翕然** (副) 物の集まる状にいふ語

**休會** (名) 會議を休むこと

**休職** (名) 職を休むこと

**久潤** (名) 久しぶり

**九春** (名) 春季九十日の間

**九重** (名) ここのへ

**舊懷** (名) もとの事を思ひ慕ふこと

**舊觀** (名) もとのみえ

**舊慣** (名) ふるきならばし

**舊情** (名) 昔のなさけ

**救荒** (名) 饑饉の時に施し救ふこと

**救恤** (名) めぐみたすくること

**急病** (名) 俄かに起りたる病氣

**寄留籍** (名) 寄留してゐる人の戸籍

**記憶法** (名) 物事を便利に記憶せらるる法

**几帳面** (名) 行の折目正しきこと

**切口上** (名) 物言ひのきり目きり目

**切細裂** (他) 細かに剪み切る

**器量望** (名) 求縁の時容貌の麗はしきを擇ぶこと

**記憶力** (名) 物事を記憶する能力

**仰仰** (名) 仰山なり

**仰山** (副) 甚だ多く。たいそうおほげさに

**恟恟** (副) 恐れ騒ぐさまに  
**兢兢** (副) 懼れ慎む状にいふ語  
**行状** (名) おこなひ  
**郷關** (名) 郷里の境  
**恐惶** (名) おそれかしこむこと  
**恐縮** (名) おそれてちぢむこと  
**凝塊** (名) かたまり  
**供述** (名) 事實を申述ぶること  
**恭順** (名) 慎み深くおとなしきこと  
**曲直** (名) まがれるとなほまがらざること

**極力** (名) 力の限りを盡すこと  
**虚心平氣** (名) 心を虚しくし、氣を平かにすること  
**虚榮心** (名) ほまれを得んと願ふ心  
**居中調停** (名) 双方の間に仲直りさせること  
**詰屈聲牙** (名) 辭句のみにて解しがたきこと  
**金婚式** (名) 夫婦結婚の五十周年目に行ふ祝賀の式  
**銀婚式** (名) 夫婦結婚の二十五年目に行ふ祝賀の式  
**着身着儘** (名) 着用せしままの他着替なきこと

**逆戻** (名) 前に進みたるも後に戻ると  
**逆上** (名) のぼせ  
**逆境** (名) 順ならぬ位置、困難なる位置  
**脚色** (名) 狂言又は小説など、どのしくみ  
**機嫌伺** (名) 人の安否を問ふこと  
**奇奇妙妙** (名) 奇妙を強めていふ語  
**危機一髮** (名) 極めて迫れること  
**休息所** (名) 休憩所(キヨク) 休息する場所  
**休泊所** (名) 休泊する所

**九死一生** (名) 死せんばかりに身の危きこと  
**窮状** (名) 困難するやうす  
**窮極** (名) きはむること  
**窮境** (名) 困難なる境  
**窮竟** (名) つまるところ  
**奇妙奇代** (名) 不思議なること  
**起死回生** (名) 死したる人を生き回すこと  
**【ゆ】**  
**揺** (自) ゆらゆらとうごくこと

**燂** (他) 熱湯に入れて煮又は蒸す  
**行** (自) 志す方に向ひ進む。あゆむ。おこなはる  
**逝** (自) 死ぬ  
**適** (自) よめいる。とつぐ  
**結** (他) 折りまげて締む。むすぶ  
**故** (名) 事の起れる理由。わけ  
**衲** (名) 衣服の脊縫より袖口までの長さ  
**夢** (名) 睡れる中に現の如く種種の事柄を見るとき  
**湯場** (名) 温泉のあるところ  
**湯煮** (名) 湯にて煮ること

**諭旨** (名) その旨をさすとす  
**緩** (他) ゆるやかにす。ゆるむ。ゆるむやうにする。薄く溶く  
**緩** (形) きびしからず。溶けて薄し  
**許** (名) ゆるすこと  
**縱** (他) ゆるくなす。ゆるくす  
**宥** (他) 禁を解く。自由にせさす  
**赦** (他) 所刑を釋く  
**聽** (他) うべなふ。承知す  
**歪** (名) ゆがむこと  
**縁** (名) よるべ。しるべ



懐 [形] 何となく慕はし。何となくその實を知ら

委 [他] 己が事を他に行はしむ。まかす

讓 [他] 己れ退きて他に與ふ己れ捨てて他に授く

故 [副] このわけにて

搖 [名] 強談して金錢を強請する

濯 [他] あらひきよむ

湯搔 [他] あくなどを去るために沸湯に暫

湯熨 [名] 布帛の皺などを湯にぬらして熨す

湯浴 [名] 湯をあみて垢を洗ひ去ること

湯冷 [名] 浴後に身體の俄かに冷ゆること

湯錢 [名] 銭 浴する料に拂ふ

油斷 [名] 心のおこたり

輸贏 [名] かつとまくると

輸送 [名] 送ること

輸入 [名] 外國よりその産物を内國に入る

由來 [名] 事のおこり

由縁 [名] ゆかり。ちなみ

由由 [形] 甚だし。容易ならすあり

勇氣 [名] いさましき心

勇武 [名] いさましくたげ

雄圖 [名] すぐれたるばかりごと

雄資 [名] すぐれたるうま

融和 [名] とけあふこと

行手 [名] 行き向ふ方

行方 [名] 行くべき方

所以 [名] 故の音便

遊山 [名] すべて外に出て遊ぶこと

雪見 [名] 雪の景を眺め賞

雪氣 [名] 雪の降らんとす

往來 [名] ゆくとくると

夢見 [名] ゆめみること

結目 [名] むすびめ

四言

緩 [副] ゆるやかに

豐 [副] 満足して。ゆるやかに

遺言 [名] 遺言として戒む

唯一 [名] ただひとつなる

由緒 [名] 傳へ來し事柄。由來したる言

湯上 [名] 浴より出でたる時

勇健 [名] やいさましくすこ

勇斷 [名] 猶豫せず決斷す

勇猛 [名] いさましくたげ

勇悍 [名] いさましくきづ

勇力 [名] いさましき力

勇壯 [名] いさましくさか

雄辯 [名] まどみなき辯舌

裕福 [名] ゆたかに富める

行行 [副] ゆきながら。ゆ

行先 [名] ゆくすゑ

行末 [名] 今後の成り行

行合 [名] 互に行きて出あ

行方 [名] 出で行きたる方

行交 [名] 彼れゆきこれ來

行過 [名] 行きすぎるること

行立 [名] 物事進みて成り

行着 [名] 目的の場所に到

行道 [名] ゆくさきの道。使

愉快 [名] たのしくこころ

夕景 [名] 夕方の景色

夕風 [名] 風波の夕方にな

夕焼 [名] 夕日の空に映じて赤く輝くこと

雪空 [名] 雪氣の空合

雪融 [名] 積りたる雪の融くること

雪降 [名] 雪の降ること

輸出 [名] 内國の産物を他國へ送り出すこと

指差 [名] ゆびさすこと

結納 [名] 婚約の證として贈りかへすもの

忽 [副] おろそかに。なほさゆるがせに

緩 [副] くつろぎて。きびしからず

寛 [副] ゆるやかに

揺動 [自] ゆらゆらとうご

揺返 [名] ゆりかへすこと

揺揺 [副] あなたこなたへゆらぐ状にいふ

緩緩 [副] くつろぎて。いそがずに

夕涼 [名] 夕方すむこと

夕景色 [名] 夕方の景色

雪明 [名] 闇夜に積れる雪の爲に明るきと

雪景色 [名] 雪の降りたる風景

行通 [名] ゆきき

行倒 [名] 路を行きながら倒れて死ぬること

行違 [名] ゆき違ふこと。物の事の齟齬する

行詰 [自] はてまで行く。他に言破られて答辯に窮す

行届 [自] 手落なくゆきわたる

行止 [名] 行きはてたるところ

行成 [副] 物事の成り行くままに。突然と

行渡 [自] 萬事に行き届く

往返 [名] 往くと返ると

夢現 [名] 眠りたる時と覺りて居る時と

由緒書 [名] 由緒を書きたるもの

【め】

目 [名] それと目に知らるるる場合(人事門を見よ)

目 [接] 物事の次第順序程合等を示すに用ふる語

名 [名] 名高き勝れたる等の意を示す語

銘 [名] 製造物につくる名。作者の器物に己が名を刻むこと

命 [名] いのち。めぐりあはせ。おほせ。いひつけ

減 [自] 少くなる。へる

愛 [他] 思ひ慕ひていつくしむ。かはゆがる

面 [接] 平たき物を數ふるに用ふる語

免 [名] ゆるすこと

召 [名] 召すこと。招くこと

召 [他] 食ふ、飲む、着る等の敬語

目途 [名] めざすところ。めあて

惠 [他] いとしとして助けいたる。なまげをかく。物を與ふ

廻 [名] めぐること。まはる

萌 [自] 草木の芽出づ

盲 [名] 目の見る力を失へること

免 [他] ゆるす。放つ。職をと

減 [自] ほろぶ。つぶる

命 [他] いひつく。おほす

名家 [名] 世に名ある家筋

名句 [名] 文章詩歌などのすぐれたる句

名義 [名] 名として立つる

名詞 [名] 文法上の語、すべてを物事の名

名譽 [名] よき評判。ほま

名利 [名] 名譽と利益と

**明媚** [名] あざやかにしてうつくしきこと

**明記** [名] あきらかにしるすこと

**目端** [名] 物事の場合を見ること。の氣轉

**目張** [名] 物の隙を紙にて貼り塞ぐこと

**目欲** [形] 一際目立ちて見ゆるさまなり。いちじろし

**目扱** [名] の。ぬきいでたるもの。めぼしき物

**目掛** [他] 目をつけて望むれらふ

**目方** [名] 秤にてはかるもの。の。輕重の量

**目角** [名] 眼のするどく物を見ること

**目廉** [名] 物事の條をしかと認むること

**目付** [名] 目の物を見る様子

**目馴** [自] 常に見て馴る

**目當** [名] 目をあてて見るところ。れらひあてど

**目先** [名] 目のまへ

**目差** [他] みあてを定む。れらふ

**目覺** [目] 眠が覺む

**目見** [名] 貴人に會ふこと。特に奉公人の始て主人にあふこと

**目盛** [名] 物を目分量にて盛りつくること

**目立** [自] 殊に目につく

**鑒識** [名] 物の形状性質を考へ定むること

**艶飾** [他] みなりを裝ひ飾る

**滅金** [名] 金屬に金銀などをやきつくと

**免訴** [名] 法律の語、證據不十分にて放免せらるること

**免租** [名] 租税を免ずること

**面部** [名] かほのあたり

**萎靡** [自] 挫けそこなふ。

**眩暈** [名] 目のくるめくこと

四言

**瞬** [名] 目をしばたたくこと

**廻** [他] めぐるやうにす働かして用ふ

**陶** [名] 目つきにて知らすこと

**珍** [形] 世にまれなり。世の常ならずあり

**妻** [他] 配して妻となす

**名案** [名] よきかんがへ

**名作** [名] すぐれたる造物

**名産** [名] 名高き産物

**名所** [名] 景色などの世に名高き處

**名數** [名] 世に名あるものを數ふること

**名望** [名] 世上のよき評判

**名法** [名] よき方法

**名筆** [名] よき筆。巧なる筆跡

**名分** [名] 名義の分際

**名聲** [名] 評判

**名教** [名] 道德のをしへ

**名流** [名] 名高き人のなかま

**銘肝** [名] 心に刻みつけて忘れぬこと

**銘銘** [副] おのおの

**命運** [名] しあはせ。うん

**命數** [名] いのちのかぎり。運命のなりゆき

**命令** [名] いひつけ

**明鑒** [名] 見ぬきたるめき

**明斷** [名] さとき決斷

**明白** [名] あきらかにて疑ひなきこと

**明敏** [名] かしこくすばやきこと

**明察** [名] あきらかに見とほすこと

**明瞭** [名] あきらかなること

**明爽** [名] さわやかなること

**明確** [名] あきらかにたしかなること

**明晰** [名] あきらかなること  
**明辯** [名] あきらかなる辯舌  
**盟約** [名] 盟誓(メイセイ)ちかひ  
**鳴動** [名] なりうごくこと  
**鳴謝** [名] 禮をのぶること  
**迷妄** [名] まよひ。まどひ  
**迷信** [名] 迷ひて信ずること  
**迷惑** [名] まよひまどふこと  
**瞑助** [名] 神のたすけ  
**瞑眩** [名] 目のくらむこと

**瞑目** [名] 目を塞ぐこと。  
**酩酊** [名] 甚しく酒に酔へること  
**目早** [形] 見ること早し  
**目通** [名] 目のまへ。目さゆること  
**目違** [名] 見あやまり  
**目遣** [名] 目のはたらき  
**目潰** [名] 灰砂などを敵の目に打付けて目をくらますこと  
**目移** [名] 見る目の種類の物に移り變ること  
**目前** [名] みてあるまへ。まのあたり

**目配** [名] あちらこちらに目をつかふこと  
**目聰** [形] 見つゝること早し。目を覺すこと敏し  
**目障** [名] 見るにさわること  
**目覺** [形] 事の状意外にて目も醒むるばかりなり  
**目出度** [形] いばふべし。悦ぶべし  
**召寄** [他] ヨビヨスに同じ  
**減込** [自] 深くめる。壓されて中に凹陥する  
**減多** [副] みだりに。メツパフ  
**減相** [副] 方外に。なみはづれに

**滅亡** [名] ほろぶること  
**滅盡** [名] ほろびつくること  
**滅失** [名] 滅没(メツボツ)亡びなくなること  
**滅裂** [名] きれきれになること  
**妙算** [名] 巧なる心づもり  
**妙策** [名] 妙計(メウケイ)巧なる計  
**妙法** [名] すぐれたる道  
**妙用** [名] はたらきのたくみなること  
**妙驗** [名] わかきとし  
**面面** [副] おのおの。それぞれ

**面體** [名] 面貌(メンバウ)かほかたち  
**面倒** [名] なすに厭はしきこと  
**面談** [名] 相會ひて話すること  
**面目** [名] 世の人に會する顔。ほまれ  
**面妖** [名] あやしきこと  
**面謁** [他] めみえ  
**面相** [名] 顔の容子。かほつき  
**面識** [名] 相知ること。しりあひ  
**面折** [名] まのあたり諫め責むること  
**面前** [名] まのあたり。め

**面積** [名] 物の表面を測れる廣狹の距離  
**面謝** [名] 會ひて謝すること  
**面縛** [名] うしろ手にしばらること  
**面陳** [名] 會ひて述ぶること  
**免許** [名] 官より其事を行ふを許さるること  
**免除** [名] ゆるしいぞること  
**綿密** [名] くばしくこまやかなること  
**召上** [他] 官に取りあぐ  
**召捕** [他] 官の命によりて捕ふ

**召物** [名] 貴人の飲食、衣服などの敬稱

**眩** [自] 目のまわるやうに感

**明明** [副] あきらかなるさまにいふ

**名状** [名] 物の状貌等を口に言ひ現はすと

**名稱** [名] となへ。よびな

**名譽刑** [名] 法律の語人に關して受くる刑

**命中** [名] 矢彈丸などの狙ふ星にあたること

**目切** [副] 俄かにきはだち

**目安書** [名] めやすに書くこと

**目子算** [名] 算盤などを用ひず目に見て數ふること

**滅却** [名] ほろぶること

**面會** [名] 相會ふこと

**面色** [名] かほいろ

**免官** [名] その役をやめらるること

**免職** [名] その職を免ぜらるること

**盲打** [名] むやみに打ちす

**盲判** [名] その情實を極めずに捺印すること

**惠金** [名] 貧人などに惠み施す金

**運合** [自] 廻りあるきて出で逢ふ

**召出** [他] 官へ召す。よびいだす

**召抱** [他] 召し出して家來とす

**召使** [他] 召しよせて使ふ

**食上** [他] 食ふの敬語

**目八分** [副] 目と同じ高さをいふ語

**目分量** [名] 目に見てその物の重量をはかること

**滅多無性** [副] やたらむやみに

**盲搜** [名] くらやみにて物をさがすこと

**運合** [名] 吉凶の事に思ひ設けず出であふ

【み】

**身** [代] おのれ。われ

**御** [接] 尊ぶ意を示すに用ふる語

**味** [接] 飲食物を數ふるに用ふる語

**道** [名] 路の字をも用ふ。地上に人の往來すべき拓きたるところ

**見** [他] 看、視、觀などの字をも用ふ。物の形を眼に映せしめて知ること

**見** [名] よそめの飾

**満** [自] 一杯になる。あふるるばかりになる

**密** [名] こまかなること。すまなきこと

**皆** [副] ことごとく。すべて

**見場** [名] 外より見ゆるさま

**見目** [名] 人の顔つき

**見人** [名] 見る人

**御世** [名] 天皇の治めさせ給ふ世

**刀背** [名] 刀の刃の脊

**磨** [他] すりて光らす。つく

**満** [他] 満たすやうになす

**亂** [自] 順序正しからずなるしくなる

**淫** [名] 男女の間の行の正しからぬこと

**實** [自] 實成る。實を結ぶ

**操** [名] 固く志を守りて變へぬこと

**砌** [名] をり。ころ

**見入** [自] 深く見る

**見張** [他] 目を開きて見る

**見映** [名] 見てはえあること

**見本** [名] 數ある物の中よりに一つを示し他は之に同じと知らしむる物

**見惚** [自] 餘念なく見耽る

**見抜** [他] 見とほす。よく見る

見取 [他] 見て悟る。看病  
見分 [他] 見て區別す  
見掛 [他] 眼にチョツト見  
見掛 [名] みば。みつき  
見變 [他] 見て他の物に變  
見様 [名] 見るさま  
見出 [名] 見て求め出すこ  
の事を見出すに便するもの  
見立 [他] 見送るに同じ  
見初 [他] 始めて見る。始  
見逸 [他] 嘗て見し人を忘

見付 [名] 物の外より見た  
見付 [名] 見つけること。  
て見張ること  
見付 [他] 見馴ふ  
見繼 [名] みつぐこと（給  
見詰 [他] 目を放さずして  
見馴 [自] 常に見て目に馴  
見做 [他] 見てそれと心得  
見向 [自] その方に向ひて  
見遣 [他] 遠く見る。見わ  
見舞 [他] おとづる。とぶ

見込 [他] よく目をつく。  
見越 [名] 隔てたる物の上  
見合 [名] みあはすること  
互に會すること  
見當 [名] 目ざすところ。  
見上 [他] 上を見る  
見醒 [名] 見る目に興の醒  
見立 [名] みたつること  
見下 [他] 劣れる物として  
見切 [他] みすつ。みかぎ  
減じて賣る

見知 [他] 見て知る。交り  
見物 [名] 目ざましく見ゆ  
見棄 [他] 棄てて顧みず。  
見過 [名] すきはひ。よわ  
實入 [名] 實の結ぶこと。  
實生 [名] 草木の實より生  
未滿 [名] その數に漏たぬ  
未發 [名] まだおこらぬこ  
未來 [名] まだ來らぬ時  
未決 [名] まだ決定せぬこ

未婚 [名] 未だ結婚せぬこ  
未定 [名] 未だ定まらぬこ  
未開 [名] まだひらけぬこ  
未練 [名] 思ひ切れぬこと  
未濟 [名] 未だ金銭の支拂  
未明 [名] 夜の未だ明けぬ  
未進 [名] 年貢などの未だ  
未聞 [名] まだ聞かぬこと  
未然 [名] 未だ然らざるこ  
未設 [名] まだ設けぬこと

未遂 [名] 未だ事をしとげ  
微塵 [名] 極めて細かなる  
めて細かなること  
身方 [名] おのが方の人  
身輕 [名] 身の輕きこと。  
身輕 [名] 身の働きの自由  
身柄 [名] 身の程。身分  
身寄 [名] みうち。うから  
身投 [名] 自から水に飛び  
身形 [名] 衣服のきさま。  
身請 [名] 娼妓などの身を  
金を返して我方へ引取るこ

身賣 [名] 代金を取りて身を賣ること  
 身毛 [名] 皮膚の毛穴  
 身儘 [名] わが身の思ひのままなること  
 身振 [名] 身の容子  
 身分 [名] 身のほど。ぶん  
 身持 [名] 身のふるまい。おこなひ  
 身許 [名] みのうへ。素性  
 身銭 [名] 己が貯へ持てる銭  
 水氣 [名] 水のうるほひ  
 水屑 [名] 水底にある塵芥

密議 [名] 内内の評議  
 密旨 [名] ひそかに下す命令  
 密使 [名] 密かにつかはす使者  
 密事 [名] 他人の知らぬ事柄  
 密夫 [名] かくしなとこ。まなとこ  
 密婦 [名] かくしをんな  
 密通 [名] 極めて側に近づくこと  
 密語 [名] 内内のはなし  
 密輸 [名] ひそかに送ること  
 民家 [名] 人民の家

民事 [名] 民の生産に係ること  
 民費 [名] 人民の出す費用  
 民意 [名] 人民の心  
 土産 [名] その土地に産する物を携へ歸りて家人に贈るもの  
 都雅 [名] 優に貴き風に見ゆ。風流に見ゆ  
 宮居 [名] 宮のあるところ  
 行幸 [名] 天皇の外に出て行き給ふこと  
 未曾有 [名] 未だ曾てあつたこと  
 導 [名] 路の案内をなす。すべて案内し教ふ  
 妄 [名] 漫の字、猥の字をも用ふ。取り締りなく。むやみに

白 [他] おのれ。われ  
 漲 [自] 水勢盛にして満ち溢るるばかりになる  
 短 [形] 長からず。せはし。性急なり  
 見出 [他] 探し出す。見つ  
 見放 [他] 目をかけぬやうにす。見捨つ  
 見晴 [他] 廣く遠く見渡す  
 見悪 [形] 分けわろし。見  
 見咎 [他] 見てとがむ  
 見所 [名] 好しと認むること  
 見届 [名] みとどくること

見通 [名] 未然を察すること  
 見違 [名] みそこなひ  
 見見 [副] みるがうちに  
 見收 [名] 見ることに限り  
 見送 [名] みおくること  
 見落 [他] 見て行く内に誤り洩らす  
 見劣 [名] 見れば見る程次第に劣りて見ゆ  
 見覺 [名] 嘗て見て覺えてあること  
 見下 [他] 俯して見る  
 見及 [他] そのところに到り見る

見渡 [他] 遠く見やる  
 見忘 [他] 嘗て見たるを忘る  
 見限 [他] これまでなりと見すつ  
 見兼 [自] 見るに忍びす  
 見交 [自] 互に見る  
 見返 [他] 見られたる返報をなす。後の方を見る  
 見倒 [他] 劣れるものとし  
 見積 [他] 目に見て大略を測る  
 見習 [他] 傍より見て習ひ  
 見直 [他] 改めて見る

見流 みな (他) みます  
見下 みくだす (他) 侮り見る  
見較 みくらべ (他) 較べて異同を見  
見苦 みぐるし (名) 見る目苦し。み  
見廻 みまはり (他) こなたかなたを  
見事 みごと (副) てぎはよく。う  
見貶 みこなす (他) みおとす。みく  
見殺 みころし (名) 他の死ぬるを見  
見透 みえぞく (自) 底まで見え通る  
見合 みあはせ (名) 控へて居ること

見合 みあはす (他) 互に見る。對照  
見掛 みかけ (他) うはべのみを善  
見澄 みすます (他) 目をつけてよく  
見過 みすす (他) 見のがす  
道程 みちのり (名) 路のへだたり  
道行 みちゆき (名) 路を行くこと。  
路草 みちぐさ (名) 路を行きながら  
路連 みちづれ (名) 連れ立ちて路を  
身上 みのかみ (名) わが身にかゝり  
身の運命 みのかみ

身構 みかまへ (名) 敵に向ふ支度を  
身代 みしろ (名) 他人の身になり  
身動 みぶる (名) 身を動かすこと  
身代 みしろ (名) 人身を賣買する  
身罷 みまかる (自) なき人となる。  
身振 みぶる (名) 寒さ又は恐れに  
身籠 みこもる (自) はらむ  
冥加 みやうが (名) 神佛のたすけ  
冥利 みやうり (名) 神佛の冥加と利  
名字 みやうじ (名) 苗字とも書す姓  
の名字と取て家名となすと

名利 みやうり (名) 名聞と、利慾と  
水揚 みづあげ (名) 船積み荷を陸  
水浴 みづあび (名) 水をあぶること  
水音 みづおと (名) 水の流るる音  
水嵩 みづかさ (名) 水のたたひたる  
水切 みづぎれ (名) 水の濁れてなく  
水汲 みづくみ (名) 水を汲むこと  
水先 みづさき (名) 水の流れ向ふ方  
水の水路 みづのすいりく  
水攻 みづせめ (名) 敵の城を水浸し  
水責 みづせめ (名) 水をあびせて罪  
人を拷問すること

水手 みづのて (名) 城、砦などの飲  
水張 みづはり (名) 布帛を糊を用ひ  
水腫 みづはれ (名) 水氣を含みて腫  
水撒 みづまき (名) 砂塵の起らぬや  
水筋 みづすぢ (名) 水の流るる筋  
密獵 みつれう (名) ひそかに獵をな  
密告 みつこく (名) ひそかに告ぐる  
密室 みつしつ (名) 妄に他人を出入  
密書 みつしよ (名) 秘密な書面  
密接 みつせつ (名) ひたと着くこと

密奏 みつそう (名) ひそかに奏聞す  
密談 みつだん (名) ひそかにた  
密通 みつつう (名) 男女ひそかに相  
密賣 みつばい (名) 禁制を犯して窃  
密封 みつふう (名) かく封すること  
密閉 みつぺい (名) すきまなく閉づ  
密詔 みつせう (名) 内内のみことの  
密策 みつさく (名) 内内の計  
密謀 みつぼう (名) 内内の謀。密計  
密造 みつぞう (名) ひそかに造ると



**密行** [名] ひそかに行くこと  
**密航** [名] ひそかに船に乗って渡ること  
**民間** [名] 人民の間  
**民権** [名] 人民の身體財産等を保つ権利  
**民有** [名] 人民の所有  
**民心** [名] 人民の心  
**民業** [名] 人民のなすわざ  
**民選** [名] 人民の自から選ぶこと  
**民望** [名] 人民ののぞみ  
**民族** [名] 一味の人民。同類の人民

**民庶** [名] 多くの人民  
**民謠** [名] 民間にて行はるるはやりうた  
**看破** [他] 隠れたるを見あはらす  
**耳打** [名] 人の耳に口寄せしてひそかに打ち語ること  
**耳立** [自] 耳ざばりになる言葉。かどだつ感ずること  
**耳鳴** [名] 逆上などして耳の中の鳴る様に感ずること  
**未詳** [名] 未だ詳かならぬこと  
**未熟** [名] 事のよくしなれぬこと  
**懲戒** [名] 例を見せて後を懲らすこと  
**身支度** [名] 身の用意

**身仕舞** [名] 男女の身の化粧  
**身不知** [名] 自から身のまへぬこと  
**見計** [他] 見て程を計る。みつくるふ  
**見損** [他] 見違ふ。見あやまる  
**身拵** [名] 衣服を改めて装ふこと  
**見隠** [名] 或は見え或はかくるること  
**見飾** [名] よそめを飾ること  
**見誤** [他] みそこなふ。みちがふ  
**見顯** [他] 探し出す  
**路續** [名] 道路のつづき

**途次** [副] 路を歩みながら  
**名跡** [名] 名高きあとをうけつぐこと  
**名代** [名] 人の代りに立つこと  
**名目** [名] 物事のとなへ  
**名聞** [名] 世のきこえ。ほまれ  
**冥感** [名] 人知す神佛の加護に感應すること  
**冥助** [名] 神佛のたすけ  
**冥罰** [名] 神佛の降す罰  
**冥福** [名] 來世のさいはひ  
**冥慮** [名] 神佛のおぼしめし

**亂焼** [名] 刀の焼及のあやむら  
**水遊** [名] 水中にてのあそび  
**水中** [名] 水を飲みたるに中られて痛むこと  
**水潜** [名] 水の中にくぐり入ること  
**水臭** [名] 情薄し。よそよそし  
**水烟** [名] 水面に立つ霧。水は打ち上がりてぼとぼとほしるもの  
**水溜** [名] 地上の凹みたる處に水の溜りてあるもの  
**水漬** [名] 水中に漬すこと  
**水脹** [名] 皮膚のはれて水腫を醸せるもの

**貢物** [名] みつぎにたてまつる品物  
**瑞瑞** [形] 肥えてつやあり  
**密密** [副] しのびやかに  
**密救** [名] 内内のみことのり  
**密會** [名] 他人にかくれ出て會ふこと  
**密着** [名] ひたと附き合ふこと。隙間無きこと  
**民情** [名] 民心に同じ  
**宮仕** [名] 宮中に仕へまつこと  
**脈搏** [名] 體中に通する動脈の時を定めてくりにあはすはたらき  
**耳擦** [名] ミミウチに同じ

**店飾** [名] 店に品物を並べ飾ること

**道普請** [名] 道路をつくらふこと

**水不入** [名] 思ひ人と二人のみにてさし向ひてあること

**水仕事** [名] 臺所にて水を使ふこと

**三道具** [名] つくぼう袖からみの稱

**三具足** [名] 佛前の香爐花瓶食臺の三種の飾物

**御國風** [名] 御國の風情

**未丁年** [名] 未だ丁年に達せぬこと

**未成年** [名] (ミセイ子) 未成年

**蚯蚓腫** [名] 皮膚を爪に引掻きなとして腫るること

**身元金** [名] 奉公人の保證の爲納め置く金

**未然言** [名] 文法上の語らんとするを示す動詞の形

**未遂犯** [名] 法律の語、罪を犯さんとして未だ遂げぬこと

**水調子** [名] 三味線などの低きもの

**街示** [他] 見せて誇る

**雅言** [名] みやびたること

**都雅** [副] 品好く

**水盃** [名] 水を酒に代へて飲むこと。(親子の別れなどに)

**冥加金** [名] 冥利を祈るための金銭

**見掛倒** [名] 外貌のみ好くして悪しきこと

**水商賣** [名] 茶屋料理屋たる商賣の稱

**水掛論** [名] 徒に争ひて議論

**耳學問** [名] 他人の讀書よりて覺えたる學問

**密賣姪** [名] ひそかに姪を賣ること

**店商人** [名] 商店を張りて商人

**名詮自性** [名] 名がその物の性質を現はすと

**水先案内** [名] 船の向案内して暗礁などに觸れぬやうにする人

**水扱** [名] 水仕事に同じ

**密室監禁** [名] 法律の告人をして速に事實を白状せしめんとため密室内に拘留すること

【し】

**師** [接] その道の専門の人たる意を示す語

**子** [接] 人の姓名に添へて敬意を示すに用ふる語

**子** [代] 相對する人の名に代へて用ふる語

**氏** [接] 他人の姓名に添へて敬意を示すに用ふる語

**資** [名] 助くること。助くるもの。もとで。助くる

**桑** [名] しとき

**絲** [接] 小數を數ふるに用ふる語

**使** [接] その事の爲につかひする人たる意を示すに用ふる語

**字** [名] 言語を文章に寫すに用ふるし

**寺** [接] 寺らの名に添へて用ふる語

**時** [接] ときを數ふるに用ふる語

**代** [名] 物事の材料となるもの。その物の代りとして渡す金銭

**潮** [名] とき。をり

**質** [名] 將來を守るべき證として他に預け置く物を抵當として金銭を貸借すること

**後** [名] うしろ。のち。あと

**死** [自] 息絶ゆ。命終る。物事に活氣なくなる

**然** [副] さやうに。その如く

**書** [名] 文字を書くこと

**暑** [名] 氣候のあつきこと

**所** [接] ところ。場所を示す語

**初** [接] 物事の初めなることを示す語

**諸** [接] もろもろと言ふ意を示す語

**下** [接] 低き劣りたる卑しきなどの意を示すに用ふる語

**失** [名] あやまち。しくじり

**質** [名] 物の成立てること。ものうまれつき

**實** [名] まこと。偽りなきこと。数学の語、乘法にては倍せられ除法にては割らるる数の稱

**品** [名] たぐひ。種類。上下

**占** [他] わがものとす

**縮** [接] 常にの字を用ふる紙を数ふるに用ふる語

**染** [自] うるほいとほる。そまる。深く感ず

**締** [他] ゆるまぬやうになす。きつく引き結ぶ

**使** [助] 令の字をも用ふる。さす。の意

**神** [名] 靈妙不可思議なること

**信** [名] 五常の一偽らぬこと。おとづれ。たより

**眞** [名] まこと。偽りならぬこと

**心** [名] こころ。まんなか。中心

**新** [名] あたらしきこと

**仁** [名] 五常の一博く物を愛する心。いつくしみ

**仅** [接] 物の長さ高さを測るに用ふる語。一切は八尺

**署** [接] 官省の一部を示すに用ふる語

**穴** [名] 肉に同じ

**尋** [接] 物の長さ深さ高さを測るに用ふる語。一尋は五尺

**敷** [他] 延べてひろぐ。遍く及ぼす

**藉** [自] 播の字を用ふる。遍く及ぶ。ひろまる

**若** [自] 如の字をも用ふる。及ぶ。とどく

**赦** [名] 特典にて罪人をゆるすこと。常赦、大赦、非常赦の三種あり

**舍** [接] 家號を示すに用ふる

**者** [接] もの。ひと

**邪** [名] よこしまなること

**縞** [名] 布帛の模様の種類の色糸を縦横に織りて種種の線を顯したるもの

**強** [他] 押して行ふ。無理になす

**誣** [他] しかあらぬを枉げてを理にいひなす

**廢** [自] はたらきを失ふ

**式** [名] 萬事の禮を行ふにつきて定まれるのり

**識** [名] 物事の道理を知りてあること。物事に見とほしのこと

**主** [名] ぬし。あるじ。君

**守** [名] 位卑くて官高きことを示す語

**首** [名] はじめ。かしら

**首** [接] 詩歌を數ふるに用ふる語

**種** [接] 物の類別の數を示す語

**自訴** [名] 自首に同じ

**至理** [名] 至極な道理

**至愚** [名] 極めて愚なること

**事理** [名] 事の道理

**事務** [名] つとめのしわざ

**事故** [名] 事のわけがら

**事宜** [名] 事の次第

**市價** [名] 市場にて賣買する相場

**市區** [名] 市街の區域

**市虎** [名] いさみはだの人

**時儀** [名] 時候のあいさつ。頭を低れて禮をすること

**時價** [名] その時の相場

**時事** [名] その時に起れる世上の事柄

**時時** [副] とときどき。をりをり

**時機** [名] 時のほづみ。をりころ

**時宜** [名] 程よき頃。ころあひ

**齒牙** [名] 言葉のはし

**賜與** [名] たまはること

**趑趄** [名] たゆたゆして進まぬこと

**揣摩** [名] おしはかること

**濕氣** [名] 水氣の多きこと。しめりけ

**枝梧** [名] さそふこと

**爾後** [名] そののち。この

耳語 [名] みみこすり。みみうち

仕手 [名] する人。行ふ人

仕儀 [名] 事のさま。なりゆき

咨嗟 [名] なげくこと

侍座 [名] 傍に侍り坐すること

指揮 [名] さしづ。下知

指麾 [名] さしなれくこと

指示 [名] 指さし示すこと

士氣 [名] 士の氣象

壽 [名] ことほぎ。いばひ。

辭 [名] (他) いなむ。ことわる。暇申す。まがる。

私意 [名] おのが意見

私利 [名] わが爲の利益

私訴 [名] 民事に関する訴訟

私資 [名] 自分の資産

私語 [名] ひそひそばなし

私費 [名] 私にて出す費用

思惟 [名] 思ふこと

思慕 [名] 思ひしたふこと

思議 [名] 考へて評議すること

示威 [名] 威を示すこと

四圍 [名] よものまはり

四顧 [名] あたりをかへり見る

四肢 [名] 両手と兩足と

試補 [名] 見習の職

字母 [名] 假名梵字西洋字などの音を綴りなすものとなるべき文字

字模 [名] 活字を作るべき基となるべき鑄

字句 [名] 文字と句と

死地 [名] 死ぬる程の危険な場所

死期 [名] 死にぎは。いま

死後 [名] 死にたる後

死苦 [名] 死ぬるほどのく

支持 [名] ささへ保つこと

支離 [名] はなればなれに

自治 [名] その地方獨立に於て分内の政治をなすこと

自家 [名] おのれ

自餘 [名] そのほか

自他 [名] おのれと他人

自負 [名] 己が才學功業などを誇る

自己 [名] おのれ。自身

自棄 [名] 自から身を棄てて顧みぬこと

自恣 [名] わがままなること。自肆(ジシ)

自費 [名] 他のおのれ自ら拂ふ入費

刺議 [名] そしりいふこと

磁器 [名] せともの

辭氣 [名] ことばづかひ

辭宜 [名] へりくだりていなむこと。遠慮

兒戲 [名] 子供のたばむれ

次規 [名] 的につくる黒圈の三重にある物

滋味 [名] うまきあぢは

志士 [名] 國家のためにつくす志あるもの

志氣 [名] こころざし

師事 [名] 師として事ふる

侈靡 [名] おごること

集 [名] 詩歌文章などをあつめたる書物

洲 [名] す。しま

弒 [名] 君父など目上の人を殺す

吝 [名] やぶさかなり。けちなり

暫 [名] 少しの間。暫時

**縛** [接] 繩などにて束ね結ぶ。くくる。

**縛** [接] くぎり。かぎり

**絞** [他] 強く壓しつけ汁を出へたげて取る

**萎** [自] 凋の字をも用ふ。衰へて縮み縮む。しな

**濕** [自] うるほふ。しめる

**印** [名] 心覺となるもの。見分け易きために用ふるもの。ききめ

**記** [他] 誌の字をも用ふ。書きつく。記臆す

**導** [名] 教へ知らす。みちびき。路案内する

**葉** [名] しるべ。案内

**若** [副] シカ(然)に同じ

**併** [接] シカシナカラの略

**眩** [副] たしかに。かたく。必ず

**鬻** [自] 蹙の字をも用ふ。縮み

**而** [副] 然の字をも用ふ。證をあげて慥かなる意

**然** [自] その如くなり

**叱** [他] 呵の字をも用ふ。聲を勵して戒め禁む

**書** [他] しるす。かく

**處** [他] 取り計ふ。取りさば

**恕** [他] 思ひやりて免す

**敘** [他] 位を進む。事柄を文にかく

**稱** [名] となへ。よびな

**證** [名] しるし。證據

**升** [接] 斛目を示す語。一升は一合の十倍

**尉** [名] 老爺の稱。炭火の立て白き灰となりし者

**將** [名] 軍隊の長

**省** [名] 官省の名

**正** [接] 位の等級に添ふる語。從の上位に位には濁りに清みて讀み人の

**生** [名] いきて居ること

**性** [名] うまれつき

**症** [名] 病のたち

**賞** [名] 褒めて物を賜はる。褒美

**章** [名] 文章中の大段落

**商** [名] あきなひ。割算を行ひたる結果の數

**相** [名] 執政の大臣の稱

**上** [名] かみ。うへ

**情** [名] 喜怒哀樂などすべて心に觸れて起る感じ

**狀** [名] あり様。様子。事の様を記して上る文書

**食** [名] 物食ふこと

**燭** [名] 蠟燭の燈火

**職** [名] つとめ。やくめ。なりはひ

**親** [名] 血縁近し。むつまじ。なれがたく思ふ。は

**慕** [他] なれがたく思ふ。は

**眞** [副] まことに

**垂** [名] 枝の下に垂ること

**垂** [名] 水の下に垂ること

**聿** [名] 水の下に垂ること

**實** [副] まことに

**沈** [自] 水の中へ入る。身分が賤しくなる。氣分

**鎮** [自] しづまる。落ちつく

**鎮** [名] おもしろ。おさへ

**失** [他] うしなふ。なくす

**撓** [自] しなやかに曲る

**萎** [自] 水氣盡きて衰ふ

**白** [自] 興がさむ。まげ色になる

**調** [名] 音調をととのふることを問ひ糺すこと。罪狀を照し合せて見ること

**進** [他] たてまつる。すすむ

**信** [他] まことと思ふ

**凌** [他] 押し分けて通る。し

**忍** [自] 堪ふ。こらふ。思ふ。墓ふ。人目にかくれ

舍 しやす [自] やどる

謝 しやす [他] 辭し去る。まかる。絶つ。ことばる。禮を述べ

瀉 しやす [自] 腹くだる

尺 しやく [接] 物の長を示すに用ふ。語一尺は一寸の十倍

勺 しやく [接] 柄目を示すに用ふ。語一勺は一合の十分一

酌 しやく [名] 酒をくみて盃に注ぐこと

釋 しやく [名] 文の難義を解く文。一般の僧侶の姓

借 しやく [名] 簿記學の語。借りたる金圓の部(貸に對して)借金の略

寂 じやく [名] 死ぬること。(僧侶に)

締 しまり [名] ゆるみなくなる

繁 しげし [形] しげりてあり。多し。密なり。度重りて有

繁 しげる [自] 茂の字滋の字をも用ふ。多く生重なる。盛に殖ゆ

繁 しげみ [名] 草木のしげりたるこ

澁 しよる [自] 滑ならず。障りて通ぜず。心が進まず

扱 しやく [他] 締めてこく

修 しゆす [自] なさむ。行ふ

誦 しよす [他] よむ。歌ふ

壽 じゆす [他] いはふ

衆 しゆら [接] 人の數多きを總べい。稍敬言を含む

從 じゆう [名] 法律の語、主謀者に從ひて共に罪を犯せるもの

宿 しゆく [名] うまや。やどや

塾 じゆく [名] 學術を教ふる所にて弟子を寄宿せしめるために設けたる室

術 じゆつ [名] わざ。藝。てだて。はかりごと

順 じゆん [名] 正しきこと。順序に同じ

示 しめす [他] 見す。知らす。指して教へ告ぐ

強 しひて [副] むりに。おして

痺 しびる [自] 血液の循環鈍くなりて感覺を失ふ

仕入 しいる [他] 商品を買ひ入れ置くこと

仕法 しはふ [名] しかた。作法

仕置 しおく [他] 爲して遺す

仕分 しわく [他] それぞれに別つ區別

仕替 しかふ [他] 改めてなす。なしかふ

仕種 しきさ [名] しかた。しぶり

仕方 しかた [名] 手だて。身振。なし方。身振

仕掛 しかけ [名] しかくること。手だて。物事をなすため

仕出 しだす [他] 爲し始む。誂へ調へ送る。營みて大きくす(身代を仕出す)

仕立 しだて [名] したつること

仕付 しつけ [名] 新しく縫ふこと。禮儀作法を教へ習はすこと

仕向 しむけ [名] あつかひ

仕打 しうち [名] しかた。行ふ状

仕組 しぐみ [他] 工夫してする。こしらへる

仕舞 しまい [他] 爲し終る。遂げ果つ。藏む

仕込 しこみ [他] 教へ馴らす。教へこむ。買入れ

仕事 しごと [名] 爲すべき業。しわざ

仕合 しあひ [他] 互に技を比ぶること

仕上 しあげ [名] 仕舞を爲し終ふ

仕切 しきり [他] 限をなす。帳面

子音 しおん [名] 語學の語、父音によりてなれる音

子韻 しおん [名] 父韻と母韻との配合によりてなりたる音

慈育 じいく [名] いつくしみて養ひそだつること

慈惠 じけい [名] ほどこし。めぐみ

慈愛 じあい [名] ぐみ

慈仁 じじん [名] めぐみ

慈善 じぜん [名] めぐみ。いつくしみ

次韻 じおん [名] 人の作れる詩の韻字をそのまゝ用ひて更に詩を作りて答ふ

史論 [名] 歴史につきての議論

史學 [名] 歴史の學問

史談 [名] 歴史につきてのはなし

史料 [名] 歴史の材料

私犯 [名] 法律の語、民事に關したる犯罪

私論 [名] わたくしの論。公ならぬ論。

私版 [名] 人民の出版する書物

私闘 [名] わたくしの戦

私黨 [名] 私に組み合ふ仲間

私匿 [名] ひそかにかくすこと

私立 [名] 一個人にて立つること。(公立に對して)

私用 [名] 私に用ふること

私慾 [名] 己れをのみ利せんとするおもひ

私宅 [名] 己の家。己が家。(官宅に對して)

私通 [名] 男女のひそかに通すること

私見 [名] 己れ一己の意見

私權 [名] 法律の語、私上の權利。(公權に對して)

私交 [名] うちうちの交り

私行 [名] 一身上のおこなひ

私謁 [名] 私にたのむとりつき

私慾 [名] むさぼる心

私益 [名] 己れ一人の利益

私心 [名] わたくしの心

私恕 [名] 私のうらみ

私邸 [名] 自分のやしき

私財 [名] 私の財産

私債 [名] わたくしの借金

私有 [名] その人自己の所持

私信 [名] わたくしのたよ

私門 [名] 私の家

私設 [名] 私に設くること

私生 [名] 定りたる夫なくして子を生むこと

私憤 [名] 私事のうらみ

支配 [名] その部下を統べ治むること

支度 [名] 物事を用意すること。衣服を着る。食事をする。

支辨 [名] あてがひ。しはらひ

死目 [名] 死際に相會ふこと

死人 [名] 死したる人

死亡 [名] 死ぬること。死没。(シボツ)

死別 [名] しにわかれ

死體 [名] しかばね

死刑 [名] 殺すべき刑

死人 [名] 死にたる人

死戦 [名] 血戦に同じ

自認 [名] 自から認むること

自辨 [名] 自から費用を支拂ふこと

自動 [名] おのづから動くこと。文法上の語、動作の他、事物に係らす。獨り自から通すること

自得 [名] 自から心に覺り得ること

自立 [名] 他力に頼らぬこと。ひとりで立ち

自力 [名] 他の助をからぬ己れ一人の力

自覺 [名] 自から心に悟ること

自修 [名] みづから修むること

自身 [名] おのが身。わが身

自體 [名] もとより。ぜんたい

自宅 [名] 己が家

自尊 [名] 自からたかぶること

自火 [名] 己が家より發したる火災

自前 [名] 抱へ主などの助け。獨り營業すること

自刎 [名] 自刎に同じ

自分 [代] おのれ。われ

自國 [名] おのが國

自今 [副] 今より後

自衛 [名] 己が身を守るこ

自剄 [名] われとわが首を

自信 [名] われとわが身を

自邸 [名] おのが屋敷

自轉 [名] 自分にてころが

自傳 [名] 自分にて書きた

自愛 [名] 自からその身を

自殺 [名] 自から死ぬること

自裁 [名] 自から腹を切る

自在 [名] 思ひのままなる

自讚 [名] われ自からほむ

自作 [名] 自から作るこ

自由 [名] 己が心のままな

自害 [名] 自から傷つけて

自鬢 [名] 自からおのが髪

自刃 [名] 自害に同じ

自盡 [名] 自害に同じ

自首 [名] 自から罪を訴へ

自序 [名] 己が著述に自か

自如 [名] 自若に同じ

自筆 [名] 自から書きたる

自問 [名] われとわが心に

自生 [名] おのづと生ずる

自製 [名] 自から作るこ

自水 [名] 自から水に身を

自慢 [名] われとわが身を

自炊 [名] 自から飯を炊く

資性 [名] うまれつき

資本 [名] 事業を起すもと

資質 [名] うまれつき

資望 [名] 資産と人望と

資産 [名] しんだい

資格 [名] 身のほど。みぶ

四表 [名] 四方。天下

四方 [名] ぐるり。まはり

四望 [名] 四方を見まはす

四邊 [名] 四壁に同じ

四壁 [名] あたり近所

四周 [名] よものまはり

四足 [名] けだもの

四面 [名] よも。四方。ま

四隅 [名] よすみ

四散 [名] 四方にちりぢり

四民 [名] 士農工商

四海 [名] 天下。世界

四角 [名] 周圍に角の四つ

四隣 [名] 四方のとなり

志望 [名] 心のぞみ

脂肪 [名] 動物の體の中に

紙片 [名] かみぎれ

事物 [名] ものごと

事項 [名] 事件に同じ

事蹟 [名] 事のあとがた

事件 [名] こと。ことから

事變 [名] 變事に同じ

事體 [名] 事の狀。事件

事端 [名] 事のほし



**事業** [名] しわざ。しごと  
**事實** [名] まことのこゝろ。  
**辭別** [名] 暇乞して別るる  
**辭訣** [名] いとまごひする  
**辭柄** [名] 物いひのたね。  
**辭表** [名] 職を辭する状  
**辭退** [名] へり下りいなむ  
**辭世** [名] 死際に遺し置く  
**辭令** [名] ことばつかい。  
時渡す書付  
**使聘** [名] 使者もて訪問す  
るること

**使令** [名] さしづして使ふ  
**使喚** [名] けしかくること  
**使役** [名] 逐ひ使ふこと  
**使命** [名] 使者にたつべき  
**使用** [名] つかふこと。用  
**時弊** [名] とき世のあしき  
**時間** [名] ときのま。とき  
**時代** [名] そのころの世。  
**時俗** [名] その頃の風俗  
**時運** [名] 時のめぐりあは  
せ

**時疫** [名] その時に流行す  
**時服** [名] その時候に應じ  
**時分** [名] とき。ころ  
**時限** [名] 時のかぎり  
**時刻** [名] とき。ころ  
**時候** [名] 寒暑晴雨により  
**時好** [名] 時のばやり  
**時節** [名] とき。をり  
**時勢** [名] 世のなりゆき  
**指導** [名] 教へみちびくこ  
と

**指南** [名] 教へ示すこと  
**指摘** [名] 指さし示すこと  
**指令** [名] 願、伺、などの  
す指圖  
**指定** [名] さしづして定む  
**指名** [名] 名ざし  
**至要** [名] 極めて大切なる  
**至當** [名] 至極適當なるこ  
**至道** [名] 道の至極なるも  
**至徳** [名] 徳の至極なるも  
**至樂** [名] きはめてたのし  
きこと

**至仁** [名] 極めて慈悲深き  
**至言** [名] 至極道理ある言  
**至孝** [名] 極めて孝行なる  
**至剛** [名] 極めてたげきこ  
**至幸** [名] 極めて幸なるこ  
**至大** [名] 極めて大なるこ  
**至急** [名] 極めて急ぐこと  
**至公** [名] 極めて公平なる  
**至極** [副] この上なく。き  
**至日** [名] 冬至の日（時候  
門を見よ）

**至誠** [名] まごころ  
**至善** [名] 至極の善  
**後火** [名] 風上の方へ焼け  
移る火  
**後方** [名] うしろの方  
**後目** [名] 瞳のみ動して後  
を見下す  
**思慮** [名] 考へ。おもんば  
**思想** [名] 心に思ひ浮ぶる  
**思念** [名] 思ふこと  
**思考** [名] かんがふること  
**書記** [名] 文字をかき記す  
こと

初手 [名] はじめ。最初

初度 [名] 初めの度

初步 [名] 手はじめ

初志 [名] 初めの志

所化 [名] 僧家にて弟子を指して呼ぶ稱

所作 [名] おこなひ。ふるまひ

所持 [名] 持ちてあること

所務 [名] つとむるところ。つとめむき

所爲 [名] ふるまひ。しわざ

所部 [名] くみした

所志 [名] 志ざすところ

處士 [名] 仕官せぬ士

處子 [名] きむすめ

處置 [名] あつかひ。處理 (シヨリ)

諸司 [名] もろもろのつかさ

諸事 [名] もろもろのこと

諸子 [名] もろもろの子。孝子。列子。莊子等の類

諸家 [名] もろもろの家。 (學識ある人などを數ふるにいふ)

叙位 [名] 位に叙すること

叙事 [名] 事物をありの儘に文章に記すこと

叙補 [名] 假に官に叙すること

序詞 [名] 枕詞に似て六音以上なるもの

序次 [名] 次序に同じ

下繪 [名] 下がきの繪

下目 [名] 下の方を見る。人を侮り見る。さぐること

下見 [名] シタヨミに同じ

下火 [名] 火の勢衰へて消えること。えがたに消りたること

下葉 [名] 枝の下の方に生じたる葉

下座 [名] 座敷の下の方

下端 [名] 下の方。下の部

下手 [名] 下の方。次の方

下地 [名] 物事の起る基となる物。下構へ

下着 [名] 下に着る衣

失意 [名] 望を失へること

失誤 [名] あやまり

失費 [名] ものいり。ついで

濕氣 [名] しめりけ

實意 [名] まごころ。深切なる心。實義 (シツギ)

實家 [名] わが生れたる家

實務 [名] まごころのつとめ

實價 [名] 眞の價

實記 [名] 飾なくありの儘に記したるもの

實施 [名] 實行に同じ

實事 [名] いつはりならぬこと

實地 [名] まごころの場合

實費 [名] 眞の費用

實否 [名] まごころなること。まごころならざること

實話 [名] まごころのほなし

實利 [名] まごころの利益

疾視 [名] にらむこと

疾驅 [名] とく走ること。疾馳 (シツチ)

神供 [名] 神様の供物

神意 [名] 神のこころ

神祇 [名] 天津神と國津神

神事 [名] 神を祭ること

神話 [名] 神代のいひつたこと

神秘 [名] 極めて秘密なること

詩吟 [名] 詩を吟ずること

守護 [名] まもること

殊死 [名] 必死に同じ

豎子 [名] 他を侮りて呼ぶ語(野郎)孺子(ジュウシ)

呪咀 [名] のろふこと

須臾 [副] しばらく

授與 [名] 授け與ふこと

入輿 [名] 貴人のよめいり

修理 [名] 修復に同じ

受理 [名] うけをさむること

手記 [名] 手づから記すこと

手裏 [名] 手のうち

紙面 [名] 紙のおもて

始審 [名] 訴訟の初めの裁判

侈心 [名] おごる心

旨趣 [名] むね。おもむき

齒序 [名] 年齢によりて順序を立つること

霜夜 [名] 霜の降りて寒き夜

諮諏 [名] とひはかること

諮問 [名] 問ひはかること

耳目 [名] 聴くと視ると

施政 [名] 政治をとり行ふこと

施設 [名] 施し設ること

姿勢 [名] 身體のすがた

熾盛 [名] さかんなること

咫尺 [名] 甚だ近き距離

支戦 [名] 小部隊の戦闘

支線 [名] わかれの線

支給 [名] あてがふこと。わたすこと

新屋 [名] 新しくたてたる家

神威 [名] 神の威光

神氣 [名] こころ  
深理 [名] 深き道理  
眞紅 [名] 極めて濃きくれなゐ  
深意 [名] 深き意味  
深夜 [名] よふけ  
新規 [名] 凡て物事を新にする事  
新奇 [名] 新しく珍しき事  
新字 [名] 新に作り創めたる文字  
新芽 [名] 新しく生じたる芽  
新地 [名] 新に開きたる土地

新渡 [名] 新に舶來したるもの  
新派 [名] 新しき派  
新婦 [名] はなよめ  
爲知 [名] 他に告げ聞かず  
新古 [名] 新しきと古きと  
進路 [名] 進み行く方の路  
進止 [名] 物事を或は進め或は退けなど思ふまゝに支配すること  
進歩 [名] 物事の次第に善方に移行すること  
人爲 [名] 人のしわざ

人氣 [名] 人人の氣合。世上の人の氣うけ  
人家 [名] 人の住む家  
人士 [名] ひと。人物  
人智 [名] 人の智慧  
人事 [名] 人のなすべき事柄。世間の事柄  
審理 [名] 法律上の語、訴訟の事件をくばしく取調ぶること  
審査 [名] くばしくしらぶること  
審議 [名] つまびらかに議すること  
信疑 [名] 信ずると疑ふこと  
信義 [名] まことの道を守ること

親披 (名) 親展に同じ

親身 (名) 父子兄弟などの甚だ近き血筋

眞個 (名) まこと

眞意 (名) まごころ

眞理 (名) まことの道理

眞字 (名) 楷書に同じ

眞偽 (名) まことといつはり

邪氣 (名) かぜひき

邪意 (名) よこしまなる心

邪智 (名) わるぢふ

邪魔 (名) 物事の妨げとなるもの。さばり

主意 (名) 本意に同じ

主家 (名) 主人の家

主義 (名) 議論の旨とする所。説の基だて

主婦 (名) 一家を主る女

主部 (名) 文法上の語句の主となりてその事物をあらはす語

主詞 (名) 主部に同じ

趣味 (名) おもしろみ

趣意 (名) こころばせみこみ趣旨(シユシ)

趣味 (名) おもしろみ

首鼠 (名) どちらつかずなること

首座 (名) かみざ。上座

首途 (名) たびだち。かど

首都 (名) 首府に同じ

首府 (名) 一國の政府のある都の稱

首尾 (名) 始と終と。事の前後の支度

首位 (名) 第一の位

酒家 (名) 酒のみ

酒氣 (名) 酒のかかり

芝生 (名) 芝の生ひたると

鹽氣 (名) しほからき味

司法 (名) 法律をとり行ふこと

司命 (名) その人の舉動に係るること

知邊 (名) 交りて相知れる人。縁ある人

師恩 (名) 先生の恩

師弟 (名) 師と弟子と

師傳 (名) 師より受け傳へたること

字音 (名) 漢字の音

字學 (名) 凡ての 問

詩學 (名) 詩を研究する學問

耳學 (名) 聞き覚えの學問

字體 (名) 文字の書き方。字の形

字格 (名) 文字の格。文字のきまり

飼養 (名) かふこと。養ふこと

姿容 (名) すがた。かたち

嗜欲 (名) たしなみむさぼること

嗜好 (名) すきこのみ

滋養 (名) 身體の養ひとなる

助語 (名) 文法上の語、發語接頭語接尾語の總稱

助辭 (名) 文法上の語。テニナハに同じ

庶務 (名) いろいろのつとめ

暑威 (名) 夏のほげしきあつさ

暑氣 (名) 夏のあつさ

徐步 (名) しづかに歩くこと

緒餘 (名) あまり

胥吏 (名) 小役人

次第 (名) ついで。前後上下のならばび。て

次點 (名) 二番目の點數

懊惱 (名) わが思ひの儘ならぬを悶え怒る

示談 (名) 雙方の争ひを訴相對の話し合にて中なほりと

示現 [名] 神佛の靈などの顯はるること

子息 [名] むすこの敬語

子孫 [名] 血筋のすゑすゑ

詞宗 [名] 詩人文人などを尊びていふ語

詞藻 [名] 言葉のあや

志操 [名] みさを

氏族 [名] 氏の中の者ども

士卒 [名] 士分と雑兵と。

執務 [名] 業務を行ふこと

櫛比 [名] 櫛の齒の如く密なること

質素 [名] 儉約にて奢らぬこと

質疑 [名] 疑をただすこと

嫉妬 [名] れたみ。それみ

叱咤 [名] しかること

膝下 [名] 手許といふ意

白木 [名] 白く削りたるま

白面 [名] 酒に酔はぬ常の顔

爾來 [副] そののち

刺絡 [名] 手足の動脈を刺して血を取ると

刺激 [名] はげますこと。感動せしむこと

刺撃 [名] 刺し撃つこと

仁慈 [名] いつくしみめぐむこと

仁義 [名] 仁と義と

宸怒 [名] 天皇の御怒り

宸意 [名] 天皇の御意

宸旨 [名] 天皇の御旨

心事 [名] 心に思ふこと

心氣 [名] こころ。心持

心機 [名] 心のはたらき

震死 [名] 雷にうたれて死ぬること

振起 [名] ふるひ起ること

紳士 [名] 身柄のよき人

鍼治 [名] 鍼を用ひて病を療治すること

森茂 [名] 樹木の茂ること

刺殺 [名] 刺し殺すこと

辛苦 [名] くるしみなんぎ

辛味 [名] からき味

辛楚 [名] くるしみ痛むこと

瞋怒 [名] いかること

瞋意 [名] いきどほり

參差 [名] ひとしからぬこと

試筆 [名] かきぞめ

試掘 [名] 試に掘ること

試験 [名] こころみためし

洒落 [名] しゃやること。白き文句の意を含みたる面

寫意 [名] 思ひ入のさまを繪などに寫すと

寫字 [名] 文字をうつしか

謝意 [名] 禮を述ぶる意

謝辭 [名] 謝禮の辭。謝罪の辭

謝儀 [名] かつたじけなしと禮として送る金圓などの稱

車駕 [名] 天皇の行幸の時

社務 [名] 神社の事務を執り行ふこと

射利 [名] 利をのみ望むこと

瀉痢 [名] はらくだり

奢侈 [名] おごり

斜視 [名] よこみ

始末 [名] はじめをばり。

詩才 [名] 詩を作るに巧なる才

繁吹 [名] 頻に強く吹く

斯文しぶん [名] このみち。このふみ  
 祇候しごう [名] 敬みて侍り居ること  
 施行しこう [名] とり行ふこと  
 伺候しこう [名] 侍り居ること。機嫌を訪ねる  
 仔細しさい [名] ことのわけ。いはれ  
 視察しさつ [名] 氣をつけて見る  
 視線しせん [名] 目にて視るむき  
 詩作しさく [名] 詩を作ること  
 集議しゅうぎ [名] 多勢集りて評議すること  
 羞耻しゅうち [名] はづること

柔媚じゅうび [名] こびへつらふこと  
 緝補しゅうほ [名] あつめおぎなふこと  
 拾遺しゅうい [名] もれることを拾ふこと。漏れたるを補ふこと  
 秋波しゅうは [名] よこめづかひ。いろめ  
 臭氣しゅうき [名] わるきにほひ  
 臭味しゅうみ [名] にほひ。くさみ  
 愁眉しゅうび [名] うれひの眉。愁ふる面持  
 愁夢しゅうむ [名] うれひある時見る夢  
 愁訴しゅうそ [名] 愁ひ歎きて訴ふること  
 秀歌しゅうか [名] 秀逸なる和歌

秀句しゅうく [名] 詩歌などの中の秀逸なる句  
 秀美しゅうび [名] すぐれて美しきこと  
 秀異しゅうい [名] すぐれたること  
 修治しゅうち [名] をさめたとのふること  
 修補しゅうほ [名] 修繕に同じ  
 修史しゅうし [名] 歴史をつくりなほすこと  
 修理しゅうり [名] つくらふこと  
 修辭しゅうじ [名] 言葉づかひを習ふこと  
 修技しゅうぎ [名] 技術を修むること  
 收支しゅうし [名] 収入と支出と

祝儀しゅうぎ [名] 祝ひの儀式。はな  
 士庶しじょ [名] 士と平民と  
 四季施しきせ [名] 主人より奉應する衣服を作り與ふこと  
 嘔しはがる [自] せきの爲めに聲溢りてかれたる如くなる  
 屢しほしば [副] 数の字を用ふ。しげしげ  
 咳しはあく [自] せきををする  
 暫しばらく [名] かりに。かりそめに。誤りて、久しく長らへたの間  
 虐しへたぐ [他] むごく取り扱ふ  
 退しりぞく [自] 後の方へのく。官職などを辭す  
 然しからば [接] 然あらば。さらば

請しやうす [他] まねく。請待す  
 生しやうす [自] はふ。出来る。おこる。出来る  
 稱しやうす [他] となふ。よぶ。なづく。ほめたたふ  
 證しやうす [自] 證據を立つ。あかす  
 乘じやうす [他] のる。つけこむ。掛算なす  
 食しよくす [他] くらふ。はむ  
 認したたむ [他] 見留む。見極はむ。書き調ふ。調へ食ふ  
 滴したたる [自] 液類が垂りて落つ  
 親したしむ [自] むつまじくす  
 親したしく [副] みづから。まのあたり

從したがふ [自] 後につきて行く。まがふ。氣似る。降参す  
 鎮しづまる [自] しづかになる。落ちまると  
 舐しやぶる [他] れぶる。なめまほす  
 抄しやくる [他] 杓子を使ふ。すくひとる  
 祝しゆくす [他] いはふ。ことほぐ  
 宿しゆくす [自] やどる。とまる  
 熟じやくす [自] うむ。つゆ。十分になる。馴れて巧者になる  
 順じゆん [副] 順を追ひて。次第次  
 準じゆんす [自] なぞらふ。ならふ

痺しびれる(自) シビルの訛

潮合しほあひ(名) 潮の差引の程。潮時をり。ほ

潮汲しほくみ(名) 鹽に製する潮水を汲むこと。蝶蜂の類が花の露を吸ひて始終飛びめぐるもの

潮先しほさき(名) 潮の満ち来る時よき程合をり

潮染しほぞめ(自) 潮氣に染む

潮時しほどき(名) 潮の差引する時しほあひをり

潮道しほみち(名) 海中にて潮水の流れる道筋

鹽茹しほゆ(名) しほ水にてゆでること

鹽出しほだし(名) しほづけの食物を水に浸してしほ氣を去る

鹽壓しほおし(名) 蔬菜などを鹽にして石にて壓して漬ること

鹽漬しほづけ(名) 肉果などを鹽に漬けて貯ふ

鹽斷しほだち(名) しほ氣ある食物を斷つて食はぬ

鹽引しほびき(名) 生魚を鹽につけてたるもの

鹽水しほみづ(名) 食鹽を雜へたる水

鹽剝しほむき(名) 淺鯛などを生きたるまま剥きたるもの

鹽揉しほもみ(名) 料理の語、胡瓜を掛けてもみたるもの

鹽燒しほやき(名) 潮水を煮て鹽をなふりかけて焼きたるもの

質入しちいれ(名) 金錢を借る爲物品を質屋に預く

質種しちぐさ(名) 質物とすべき品物

質倉しちぐら(名) 質物を入れ置く倉

質物しちぶつ(名) 質に預りたる品物

質馬しちうま(名) 人の後につきて物事をなすこと

尻押しりおし(名) 助勢して勧めそのかす

尻重しりおも(名) 動作の鈍きこと

尻輕しりがる(名) まめに働くこと女の操なきこと

尻拔しりぬけ(名) 見聞するを直ぐに忘れること

上意じやうい(名) 朝廷の御趣意

上下じやうげ(名) かみとしもと。うへとしたと

上氣じやうき(名) のぼせ

上古じやうこ(名) おほむかし。歴史より大化の革新の時迄

上戸じやうこ(名) 多く酒をのむ人

上座じやうざ(名) 上の方の座。かみくら

上梓じやうし(名) 出版に同じ

上使じやうし(名) 將軍家より大小名に遣す使者

上訴じやうそ(名) 凡て法律の上にて許したる訴に

上諭じやうゆ(名) 官よりのさとし

上圖じやうづ(名) 上に掲げたる圖

上地じやうち(名) 土地を官に獻上すること

上智じやうち(名) 極めて智慧のあること

上手じやうず(名) 技藝などに巧なること

上部じやうぶ(名) 上の方

商家じやうか(名) あきんどや

商賈じやうぎや(名) あきんど

商機じやうぎ(名) 商賣の機會

商議じやうぎ(名) 相談。評議

商事じやうじ(名) 商法に關する事

初學しよがく(名) 初めて學問に就くこと

初審しよしん(名) 裁判所にて初めてしらぶること

初心しよしん(名) 學術などに學び初めなること

初段しよだん(名) 初めの段

初等しよとう(名) 初めの等級

初傳しよでん(名) 最初に教ふる傳授

初日しよいち(名) 初まる日

初念しよねん(名) 初めの思ひ込

初犯しよはん(名) 初めて罪を犯す

初版しよばん(名) 初めの版

初發 [名] おこり。はじめ  
 初老 [名] 四十の年齢  
 初縁 [名] 初めての縁組  
 所縁 [名] しるべ。ゆかり  
 所見 [名] 見たるところの物事。見込をつけること  
 所在 [名] ありか。あればしよ  
 所藏 [名] 己が物として藏めてあること  
 所生 [名] わが生みたる子我を生みたる親  
 所詮 [副] つまるところ  
 所屬 [名] つき従ふところ

所存 [名] 思ふところ。考へ  
 所帯 [名] 家庭を構へて生業を立つること  
 所天 [名] をつと  
 所傳 [名] つたふるところ  
 所感 [名] 心に感ずるところ  
 所説 [名] とくところ  
 所報 [名] 報知するところ  
 所要 [名] 必要とするところ。入用  
 所定 [名] 定むるところ  
 所載 [名] 載するところ

所得 [名] 得るところ。得て所有する利益  
 所念 [名] 思ひ込きたること  
 所罰 [名] 罪に處せらるること  
 所犯 [名] 悪事をなしたること  
 所業 [名] おこなひ。しわざ  
 所望 [名] のぞみ。このみ  
 所用 [名] 用ふること。つかふもの  
 所勞 [名] わづらひ。やまひ  
 所論 [名] 論ずるところ  
 所信 [名] 信ずるところ

處處 [名] とくところ  
 處刑 [名] 刑罰を行ふこと  
 處世 [名] よわたり  
 處斷 [名] 罪をさばくこと  
 處方 [名] 病氣に應じてその藥を定むること  
 處分 [名] 物事を取計ふこと  
 處辨 [名] 處置に同じ  
 書簡 [名] てがみ  
 書院 [名] 貴族の家にて客座敷非座敷のとも  
 書見 [名] 書物を見ること

書齋 [名] 書を讀み字を習ふに用ふる部屋  
 書冊 [名] 書籍に同じ  
 書札 [名] かきもの  
 書式 [名] 願書證文等に一定の制ある書方  
 書信 [名] 手紙のおとづれ  
 書寫 [名] かきうつし  
 書生 [名] 學業を習ふもの  
 書跡 [名] 筆のあと  
 書損 [名] 書きそこなひ  
 書道 [名] 字を書く道

書體 [名] 文字のかきぶり  
 書林 [名] 書物を賣る家。書店(シヨテン)  
 書法 [名] 文字のかきかた  
 書牘 [名] てがみ。書翰(シヨカン)  
 書風 [名] 文字のかきぶり  
 書癖 [名] 書をよむくせ又ははかくくせ  
 書面 [名] 手紙の文面  
 書物 [名] ふみ。ほん  
 諸口 [名] 簿記學の語、帳簿に記したる數多の件箇をまとめて一口とすること



諸式 [名] いろいろの物  
 諸説 [名] いろいろの説  
 諸科 [名] いろいろの科  
 諸侯 [名] 支那にて公侯伯子の爵あるもの稱  
 諸國 [名] くにくに  
 諸品 [名] いろいろの品  
 諸人 [名] もろもろの人  
 諸譯 [名] 細かき必要な簡條  
 諸方 [名] あちらこちら  
 諸般 [名] いろいろ

諸物 [名] もろもろの物  
 諸禮 [名] しつけかた。禮儀作法  
 諸君 [名] おのおのがた  
 諸王 [名] 皇子皇孫の親王又姓を賜はりて從籍にも入らせ給ぬもの  
 諸兄 [名] もろもろの兄  
 諸弟 [名] もろもろの弟  
 庶民 [名] もろもろの民。庶人(シヨジン)  
 食器 [名] 物を食ふに用ふる具  
 食後 [名] 飯を食ひたる後

食事 [名] 飯を食ふこと  
 助役 [名] 上役の人 助くる役  
 助言 [名] 傍より助けて言葉添ふること  
 助手 [名] 人の仕事を助け行ふ人  
 助勢 [名] たすけること 助カ(シヨリヨク)  
 助法 [名] 法律の語、手續及方式に關する法律  
 助筆 [名] 筆を添へてなほすこと  
 助命 [名] いのちを助くること  
 助成 [名] 助けて成就さすこと  
 叙説 [名] 述べて説き明すこと

叙題 [名] まへおき  
 叙任 [名] 位を叙し官に任ずること  
 叙録 [名] 文書などを述べ記すこと  
 叙勳 [名] 位を叙し勳等を授くること  
 下書 [名] 淨書の前に試みに書くこと  
 下風 [名] 木などの下を吹く風  
 下方 [名] 芝居などにて舞臺の脇にてはやしを行ふもの  
 下金 [名] 下地に用ふる金銭  
 下組 [名] 假りの用意  
 下敷 [名] 物の下に敷くも

下下 [名] 民百姓  
 下摺 [名] 版を試に摺ること  
 下染 [名] 物を染むるにまづ假に他の色にて染むること  
 下積 [名] 物の下に積むこと  
 下塗 [名] 壁の上塗の前に塗ること  
 下貼 [名] 物の上貼りの前に貼ること  
 下向 [名] 下の方を向ふこと  
 下役 [名] 他人の支配下に働く小役人  
 下讀 [名] 人の前にて講義などする前にまづ自から讀みおくこと

失火 [名] 過ちておこせる火事  
 失敬 [名] 失禮に同じ  
 失言 [名] いひそこなひ  
 失體 [名] 體裁をそこなふこと  
 失政 [名] 施設のしくぢり  
 失錯 [名] あやまち。しくじり  
 失踪 [名] 行衛の知れぬこと  
 失笑 [名] 笑をもらすこと  
 失當 [名] 道理に當らぬこと  
 失德 [名] 身持の修まらぬこと。行のきず

失念 [名] ものわすれ

失敗 [名] しそこなひ。し  
くじり

失望 [名] 望を失ふこと。  
あての外れると

失禮 [名] 禮儀をかくこと

失墜 [名] 無用の費

失明 [名] 目の見えなくなる

失計 [名] 計のはづるること

實錄 [名] ありのままの事  
すに記したる文章

實業 [名] 農工商など實地  
に行ふ生業

實用 [名] なくてならぬこ  
と

實銘 [名] 實體に同じ

實體 [名] 實直に同じ

實踐 [名] 實際に踐みて行  
ふこと

實說 [名] まことの説

實際 [名] 實地の場合

實驗 [名] まことのためし  
正しく試みるこ

實檢 [名] 實否をあらたむ  
ること

實景 [名] 眞景に同じ

實効 [名] まことのしるし  
る利日目の前に現れた

實事 [名] 芝居の語、善人  
にいでたつと

實習 [名] 實地に習ふこと

實行 [名] 實地に行ふこと

實惡 [名] 芝居の語、悪人  
にいでたつ役

實測 [名] 實地に測量する  
こと

實名 [名] まことの名

實戰 [名] まことの戦

實數 [名] まことの數

實歷 [名] 實地に歷たるこ  
と

實彈 [名] 銃砲に彈丸を入  
れたること

實現 [名] 實際にあらはれ  
たること

實益 [名] 實地の利益

實例 [名] 實際の例

實物 [名] まことのもの

實見 [名] 實際に見ること

實跡 [名] 實際の跡

實質 [名] 實物に同じ

執拗 [名] かないぢ

執行 [名] とりおこなふこ  
と

執達 [名] 上の意を承けて  
下に通達すると

執權 [名] 政事の權を執る  
こと

執政 [名] 政事をとり行ふ  
こと

執奏 [名] 天皇に申し上る  
こと

執柄 [名] 政事の權を執る  
こと。關白の異稱

質朴 [名] 心しわざの律儀  
にて飾りなきと

質問 [名] 質懇(シツコク)  
とひたすこと

質權 [名] 法律の語、債權  
の擔保として債  
權者又は第三者より受けた  
る物品の優先權あるもの

疾病 [名] やまひ

疾疫 [名] はやりやまひ

疾足 [名] はやあし

疾行 [名] とく行くこと

疾走 [名] 疾く走ること

心底 [名] 心のそこ。まご  
ころ

心無 [名] 内部の空なるも  
の

心學 [名] 神道儒道佛道の  
三者をまじへて  
平易に説きて人を諭し身を  
修めしむる一種の教

心計 [名] むなづもり

心魂 [名] 心のそこ

心算 [名] むな勘定

**心像** [名] 心理學の語觀念  
 所とに關係して一種時間と場  
 をあらはし出したる影象

**心神** [名] こころ。精神

**心醉** [名] 物事に耽りて心  
 を奪はるること

**心性** [名] 心精に同じ

**心底** [名] 心の底

**心痛** [名] 心配

**心頭** [名] 心の上

**心服** [名] 心から従ふこと

**心配** [名] こころがかり

**心勞** [名] 心の苦勞。ここ  
 ろづかひ

**真切** [名] 魚肉を甘鹽にし  
 て軽く乾したる

**真塗** [名] 黒漆にて塗りた  
 るもの

**新物** [名] 新しきもの

**新堀** [名] 新に掘りたる堀

**新道** [名] 新に開きたる道

**新案** [名] 新なる工夫

**新開** [名] 新に開墾するこ  
 と。新墾(シン  
 コン)

**新版** [名] 新に出版するこ  
 と

**新婚** [名] 新に結婚するこ  
 と

**新作** [名] 新に造りたるも  
 の(多く詩歌文  
 章などに)

**新策** [名] 新らしき工夫

**新參** [名] 新に仕へたるも  
 の。新に仲間  
 入りてまだ其事に熟せぬと

**新調** [名] 新に調ふるこ  
 と

**新式** [名] 新しきかた

**新設** [名] 新に設くるこ  
 と

**新書** [名] 新に出版したる  
 書籍

**新装** [名] 新なる装

**新製** [名] 新につくるこ  
 と

**新鮮** [名] あたらしきこ  
 と

**新説** [名] 新しき説

**新定** [名] 新に定むること

**新政** [名] 新なる政

**新任** [名] 新に任ぜらるる

**新陽** [名] 新らしき春

**新郎** [名] はなむこ

**新撰** [名] 新に書物を編む  
 こと

**新築** [名] 新に家屋などを  
 築くこと

**新體** [名] 新らしきかたち

**親愛** [名] したしみいつく  
 しむこと

**親交** [名] 親しく交はるこ  
 と

**親翰** [名] 手づから認めた  
 る手紙。親書(シ  
 シヨ)

**親近** [名] したしみ近づく  
 こと

**親和** [名] したしみやはら  
 ぐこと

**親裁** [名] 貴人の自から裁  
 決したまふこと

**親昵** [名] したしみなるる  
 こと

**親征** [名] 天皇の自から軍  
 を帥めて征伐し  
 給ふこと

**親炙** [名] したしくその人  
 に接すること

**親政** [名] 天皇の自ら政事  
 を行はせ給ふこ  
 と

**親展** [名] ガキヒ(直披)に  
 同じ

**親任** [名] 天皇の自から官  
 に任じ給ふこと

**親善** [名] したしきこと

**親藩** [名] 徳川時代に將軍  
 の近親にて大名  
 となりたるもの稱

**親睦** [名] したしみむつむ  
 こと

**親兵** [名] 近侍警護の兵

**親密** [名] したしみちかし  
 きこと

**親臨** [名] 貴人の親しく其  
 場に望み給ふこ  
 と

**親類** [名] 親戚(シンセキ) 親族(シンゾク) 親屬(シンゾク) 親姻(シンイン) 同じ血統を引たる者

**親狎** [名] したしみなるること

**進行** [名] すすみ行くこと

**進航** [名] 船の進み行くこと

**進軍** [名] 軍勢を進むること

**進級** [名] 等級の進むこと

**進撃** [名] 進みて敵軍を撃つこと

**進化** [名] 世の開け行くこと 共に物事の次第に移りかへり行くこと

**進獻** [名] 獻上に同じ

**進取** [名] 進みて取ること

**進退** [名] 進むと退くと。たちぬふるまひ

**進達** [名] 官へ文書など取次ぎて届くること

**進呈** [名] 進上に同じ

**進發** [名] 出で立つこと(多く出陣に云ふ)

**進水** [名] 新に造りたる船を始めて水中に浮べ試みること

**進物** [名] おくり物

**進入** [名] 進め入ること

**深奥** [名] 奥深きこと

**深閨** [名] 奥深きれや

**深黒** [名] 極めて黒きこと

**深青** [名] 極めて青きこと

**深山** [名] 奥深き山

**深淵** [名] ふかき淵

**深淺** [名] 深きと淺きと

**深窓** [名] 家の奥にある窓

**深沈** [名] 氣性のおちつくこと

**深謀** [名] 深きはかりこと

**深謝** [名] 深く謝すること

**深遠** [名] 深く遠きこと

**深邃** [名] 奥深きこと

**深厚** [名] 深く厚きこと

**深慮** [名] 深きかんがへ

**深更** [名] よふけ

**深切** [名] 志のれんごろなること

**神影** [名] 神の畫像

**神詠** [名] 神の詠み玉へる歌

**神階** [名] 神に奉る供の階級

**神妙** [名] 物事のすぐれてあること。奇しく妙なること。けなげなること

**神學** [名] 神の事を研究する學問

**神經** [名] 動物の體中にありて知覺と運動をつかさどる機關

**神葬** [名] 神道の儀式に依りて死者を葬ること

**神酒** [名] 神に供する酒

**神聖** [名] 靈妙に貴く殆んど人間外なること

**神前** [名] 神の御前

**神速** [名] 極めて速かなること

**神遊** [名] 精神のぬけ出ること

**神託** [名] 神のおつけ

**神効** [名] 不思議なるききめ

**神道** [名] 神の道

**神功** [名] 神の功德。靈妙なる功力

**神徳** [名] 神のくどく

**神拜** [名] 神をむかむこと

**神罰** [名] 神のとがめ

**神變** [名] その變化するに測り知られぬこと

**神文** [名] 誓を立てて神に告ぐる文

**神力** [名] 神通力に同じ

**神慮** [名] 神の心

**神靈** [名] 神のみたま。神思議なること

信仰 [名] 宗教を信すること

信心 [名] 信仰する心 信仰して祈念すること

信任 [名] 信じて事を任すること

信用 [名] まこととして用ふること

信念 [名] 信仰する心

信力 [名] 信仰の力

信誠 [名] まこと

真空 [名] 物理学の語、エーテルと名づくる一種の想像上の氣體の外何もない空間

眞贋 [名] まこととにせと

眞髓 [名] まことの骨髄

眞相 [名] まことのありさま

眞景 [名] まことの景色

眞劍 [名] まじめなること

眞實 [名] まこと

眞正 [名] 正しきこと

眞蹟 [名] 眞筆(シンピツ) まことの筆の跡

眞率 [名] ありのままにて包み飾りなきこと

眞如 [名] 佛教の語、心の性に返ること

眞物 [名] まことの物

審案 [名] 法律の言葉、吟味に同じ

審判 [名] さげき

審問 [名] くはしく問ひたすこと

審覈 [名] くはしくしらぶること

宸襟 [名] 天皇の御心

宸斷 [名] 天皇の御さげき

宸筆 [名] 天皇の書き給へる筆跡

宸慮 [名] 天皇の御心

宸憂 [名] 天皇の御心配

人影 [名] 人かげ

人和 [名] 衆人の心の和すること

人君 [名] 衆人に君たる人

人傑 [名] 衆人にすぐれたる人

人口 [名] 人かず

人工 [名] 人の力に作り出すこと

人格 [名] ひとがら

人才 [名] 才智ある人物

人造 [名] 人の力にて造れるもの 人作(ヒツンサク)

人烟 [名] 人の家の竈の煙

人品 [名] 人から。人の性質

人文 [名] 人間のあや

人心 [名] 人の心

人身 [名] 人のからだ

人種 [名] 人の骨格膚色言語等の異同により世界の人民を類別する稱

人生 [名] 人のこの世に生永らへてある間

人世 [名] 人の世の中

人跡 [名] 人の往來のあと

人名 [名] 人の名

人體 [名] 人のからだ

人物 [名] ひと。人の姿つき。ひとがら

人望 [名] 人人の望。世人とせらるること

人命 [名] 人のいのち

人目 [名] 人の見る目

人欲 [名] 人の欲

人力 [名] 人のちから

人倫 [名] 人の行ふべき道

人類 [名] 人のたぐひ

人道 [名] 人たるものの行ふべき道

人員 [名] 人かす

仁愛 [名] めぐみいつくしむこと

仁恵 [名] ぐみいつくしみ。めぐみ

仁君 [名] 君 一つくしみ深き

仁心 [名] めぐみ深き心

仁者 [名] めぐみ深き人

仁政 [名] なさけ深き政

仁徳 [名] 博く物を愛する

仁風 [名] めぐみの風

仁免 [名] あはれみゆるすこと

仁恕 [名] なさけ深くおもひやること

仁澤 [名] めぐみのうるほひ

震撼 [名] ふるひうごかすこと

震災 [名] 地震のわざはひ

震動 [名] ふるひ動くこと

震慄 [名] ふるへわななくこと。震戦(シ)

震駭 [名] ふるへ驚くこと

甚寒 [名] 甚しく寒きこと

甚深 [名] 甚だしく深きこと

甚大 [名] 甚だしく大なること

甚暑 [名] 甚だしく暑きこと

申告 [名] 上告に同じ

申報 [名] 告げ知らずること

申辯 [名] まうしわけ

申請 [名] 申し立つること

診察 [名] 醫師の病の症をうかがふこと

診断 [名] 診察して病症を見極むること

辛酸 [名] 辛苦に同じ

辛勞 [名] 苦勞に同じ

辛抱 [名] こらへしのぶこと

身神 [名] 身體と精神と

身體 [名] からだ

身代 [名] 財産に同じ

身命 [名] からだといのち

森立 [名] しげり立つこと

振旅 [名] 凱旋に同じ

振興 [名] ふるひおこすこと

振鈴 [名] 鈴をふりならすこと

振動 [名] ふり動くこと

振盪 [名] ふりうごかすこと

振作 [名] ふるひおこすこと

社交 [名] 社會の交際。世間のつきあひ

社號 [名] 社の名

社格 [名] 神社の格式

社參 [名] 神社に參詣すること

社説 [名] 新聞紙のなかにて掲ぐる文章

社則 [名] 會社の規則

社用 [名] 社の用事

社番 [名] 神社の番人

社團 [名] 法律の語會社の如き類のもの。一の法人と見なしていふ語

社頭 [名] 神社のほとり

社殿 [名] 神社の神體を祀りおくところ

車行 [名] 車に乗りて行くこと

車代 [名] 車に乗りたる賃金

車轍 [名] 車の過ぎたるあと。わだち

謝金 [名] 謝禮として送る金錢

謝罪 [名] あやまること

謝絶 [名] 拒みいなむこと。ことわり

謝禮 [名] かたじけなしと禮すること

謝物 [名] 謝禮として送る物

寫實 [名] ありのままにうつし出すこと

寫生 [名] 實物をそのままにうつし出すこと

寫錄 [名] 書き寫すこと

邪姪 [名] 佛教五戒の一邪まなる色ぐるひ

邪行 [名] よこしまなる行

邪險 [名] 慈悲の心なくむごたらしく人を取扱ふこと

邪推 [名] わが心のひかみ推量すること

邪道 [名] よこしまなる道

邪說 [名] 正道に背ける説

邪念 [名] 不正の心

邪法 [名] 正道に背ける教

邪謀 [名] よこしまなる謀(ジャケイ)

邪僻 [名] よこしま

邪惡 [名] よこしま

邪正 [名] 邪なると正しきと

主用 [名] 主人より命ぜられたる用事

主恩 [名] 主君より受けたる恩

主格 [名] 文法上の語主同

主幹 [名] もとじめ

主眼 [名] 大切なるところめぬき。かなめ

主計 [名] 會計を司ること

主權 [名] おもなる權力

主宰 [名] 人の上に立ちてすべ司どること

主任 [名] 専らその事をまかせられたること

主法 [名] 法律の語、權利を規定する法律

主一 [名] 心を専らに傾けること

主要 [名] かなめなること

主戰 [名] 戦争を主張すること

手淫 [名] 手にて陰莖を握りこすりて交接と同じき快樂を覺ゆること

手藝 [名] 手にてする藝裁縫刺繡などの類

手書 [名] 手づから書きたるもの

手跡 [名] 書ききたる文字。筆の跡

手段 [名] てだて

手練 [名] 業に馴れて巧なること

手工 [名] 手仕事

手腕 [名] うでまへ

朱書 [名] 朱にて書きたるもの

酒宴 [名] さかもり

酒客 [名] さげのみ

酒造 [名] 酒を醸すこと

酒戰 [名] 酒量の多寡を比べあふこと

酒毒 [名] 酒の毒

酒癖 [名] 酒に酔へば出づる悪しき癖

酒亂 [名] 酒に酔へば荒れ狂ふこと

首罪 [名] 首を斬らるる罪

首伏 [名] 罪を白状すること

首謀 [名] 事を企てたる發頭人

首實 [名] 自首に同じ

首肯 [名] うげがふこと

首惡 [名] 惡をなしたる發頭人

樹陰 [名] こかげ

樹立 [名] 眞直に立つこと

受戒 [名] 授戒せらるること

受刑 [名] 法律の語、刑を受くること

受精 [名] 女性の生殖器が男性の生殖器より精虫を受けて生殖作用を作ること

受業 [名] 學業の教を受くること

**受洗** [名] 耶蘇教の洗禮を受くること  
**受禪** [名] 皇位の譲りを受け給ふこと  
**受託** [名] 法律の語、あづかること  
**受納** [名] 受け納むること  
**受験** [名] 試験を受くること  
**授戒** [名] 始めて佛門に入りたるものに戒を授くること  
**授受** [名] 授くると受くること  
**儒學** [名] 儒者の學問  
**儒道** [名] 儒者の道  
**儒林** [名] 儒者のなかま

**儒佛** [名] 儒道と佛道と  
**入内** [名] 皇后中宮などの册立の前にまづ式を具し内裏に入り給ふこと  
**入木** [名] 書法の異法  
**入魂** [名] 懇意なること  
**入水** [名] 自から水に入りて死ぬること  
**入來** [名] 來り訪ふこと  
**入牢** [名] 牢屋に入ること  
**入洛** [名] 都へ入ること  
**入院** [名] 僧の住持となりてその寺院に行くと

**種屬** [名] ともがら。たぐひ  
**種別** [名] しなわけ  
**種類** [名] たぐひ  
**殊遇** [名] 特別のあしらひ  
**殊別** [名] 特別にわかつこと  
**殊藝** [名] 特別な藝能  
**殊功** [名] すぐれたるてがら。殊勳(シユクン)  
**終始** [副] つれふだん  
**終夜** [名] よもすがら。よ  
**宗徒** [名] 宗門の信者

**宗旨** [名] 宗門の趣意  
**宗派** [名] 宗門のわかれ  
**従事** [名] その事を爲すこと  
**従部** [名] 文法上の語。文章の中に主部の文表はせる事物の動作事情などないひあらはすこと  
**祝詞** [名] 祝の言葉。祝辭(シユクジ)  
**祝規** [名] 意見を加へたる言葉  
**宿痾** [名] 持病に同じ  
**宿意** [名] かれてよりの意趣  
**宿志** [名] かれてよりの志

**夙起** [名] 朝早く起きること  
**夙志** [名] 早くより立てたる志  
**夙夜** [名] あげくれ。あさ  
**熟路** [名] 通ひ馴れたる路  
**熟知** [名] くわしく知ること  
**熟地** [名] 形勢を委しく知りてある地  
**熟圖** [名] よく考ふること  
**熟議** [名] よく評議しあふこと  
**熟語** [名] 二つ以上の語の義をなすもの  
**熟思** [名] つらつらと思ふこと

**熟視** [名] つらつらと視ること  
**出家** [名] 父母の家を出でて佛門に入ること  
**出仕** [名] 出でて仕ふこと  
**出資** [名] 法律の語、金銭を借り出すこと  
**出世** [名] 世に成り出づること  
**出訴** [名] 訴へ出づること  
**出途** [名] 出立に同じ。費用の出所  
**出馬** [名] 馬に乗りて出立すること  
**出費** [名] 入費を出すこと  
**出府** [名] 都に出づること



出離しゆつり [名] 佛教の語。浮世を出てはなるる事  
 出座しゆざ [名] その座に出る事  
 出駕しゆが [名] 駕籠に乗りて出づること  
 代物しろもの [名] 賣買する商品  
 城跡しろあと [名] 昔ありし城の跡  
 素人しろうと [名] その道に疎き人  
 柴刈しばかり [名] 柴を刈りとる人  
 支拂しはらひ [自] 借を拂ふ。償を拂ふ  
 死傷しやう [名] 死にたると傷つきたると  
 死顔しにがは [名] 死人の顔色

死神しにがみ [名] 人を死に誘ふ神  
 死處しにどこ [名] シニトコロの略  
 死時しにどき [名] 死すべき時  
 死際しにぎは [名] 死なんとするき  
 死絶しにたえ [自] 一人も残らず死  
 死水しにみづ [名] 死際に口中に注ぐ水  
 死霊しにりやう [名] 死人の怨念などをなすもの  
 死力しにりよく [名] 必死の力  
 死活しにくわつ [名] 死ぬると生きる  
 市中しちゆう [名] 市の中

市上しじやう [名] いち。まち  
 市場しちやう [名] いちば  
 視聽しちやう [名] 視ると聴くと  
 至重しじゆう [名] 極めて重きこと  
 自重じぢゆう [名] 自からその身を大切にすること  
 知合しりあひ [他] 互に相知る  
 知人しりびと [名] 知りあひの人  
 知抜しりぬく [他] よく知る  
 後込しりごみ [名] しりごみをなす  
 思量しりやう [名] 思ひはかること

私領しりやう [名] わたくしの領分  
 資力しりよく [名] 資本の金。もと  
 視力しりよく [名] 眼の物を視る力  
 云云しんじん [句] 下に言ふべき語を省く時に用ふる語。云爾(シカイフ)  
 仕上しあがる [自] 爲し果つ。でき  
 仕合しあはせ [名] しあひ。うん  
 仕懸しやくる [他] なし始む。なし  
 仕返しかへす [他] 再びなす。しなほす。仇を報ゆ  
 鹿爪しかづめ [名] まじめに同じ  
 貧窶しんがう [形] まづし。物乏し

初口しよくち [名] はじめ  
 職場しよくば [名] 仕事をするとこ  
 序出じよだし [名] 書き始め  
 性根しやうね [名] (コンツヤウ)に同じ  
 正氣しやうき [名] 心のたしかなること  
 正味しやうみ [名] 物の皮滓層などを除きたる眞の好  
 正路しやうろ [名] 正しき道  
 生死しやうし [名] 生きるると死ぬる  
 床下しやうか [名] ゆかした  
 讓位じやうゐ [名] 天皇の位を皇太子に譲り給ふこと

讓歩じやうぽ [名] 歩を譲ると。人に先を譲ること  
 讓與じやうゐ [名] 譲り與ふこと  
 賞與しやうゐ [名] ほめて物を與ふること  
 賞譽しやうよ [名] ほめたたふること  
 賞賜しやうみ [名] 褒めて物を賜はるること  
 賞詞しやうし [名] ほめことば  
 淨地じやうぢ [名] 佛寺などのある地  
 城址じやうし [名] しるあと  
 障阻しやうそ [名] さまたぐること  
 障礙しやうがい [名] ささばり。さまたげ

情誼 [名] 情愛の誼理

情思 [名] 人情のかんがへ

情死 [名] あひたいじに。しんぢう

情事 [名] 人情にかかりたる事

常時 [名] いつも。常に

常規 [名] 常の規則

常器 [名] 椀茶碗等の如き日用の器物

證據 [名] 證左(シヨウサ)して用ふるもの

承句 [名] 詩の絶句の第二句目

承知 [名] 旨をうけたまはりて知ることに。うけひくこと

稱譽 [名] ほめたたふること

稱美 [名] ほめたたふること

勝地 [名] 景色のよき土地。勝區(シヨウク)

勝利 [名] 闘ひ又は争にうちかつこと

勝負 [名] 勝つと負くると

詳記 [名] つまびらかに記すこと

惴怖 [名] おののき恐るること

冗費 [名] 無益な入費

剩餘 [名] あまり。のこり

攘夷 [名] 侵し來るえびすを拂ひ退くること

唱歌 [名] 西洋の樂器に合せてうたふ歌

祥氣 [名] めでたき前兆の氣

尙武 [名] 武をたつとぶこと

昇遐 [名] 天皇のかくれさせ給ふこと

悚懼 [名] おそるること

章句 [名] 章と句と

緒言 [名] はしがき。まへ

装置 [名] 取り繕ふ。飾り

叙留 [名] 位は登りて官はそのまゝなること

暑熱 [名] 夏のあつさ

植字 [名] 活字を植ゑこむこと

序文 [名] 姓名を書き記すこと

序幕 [名] 芝居の語。初め

署名 [名] 姓名を書き記すこと

沮洳 [名] 水にひたり濕ふ土地

舌打 [名] 舌をうち鳴らすこと

次第 [名] それに任せて、その意を示すに用ふる語

煩縟 [名] くだくどし。うるさし

悉皆 [名] のこらず。みな

膝行 [名] ひざまづきて進むこと

室隅 [名] へやのすみ

室内 [名] へやのうち

昵近 [名] したしみちかづくこと

叱責 [名] しっかり責むること

濕道 [名] 金石學の語。水又は金石を試験すること

品品 [名] さまざまの品

品書 [名] しなづけ

品切 [名] 商品を賣り盡してなくなること

品付 [名] しながき。もくろく

品觸 [名] 盗まれ紛失など間に觸れ示して求むること

品數 [名] 品の數

品物 [名] その類の物

品別 [名] 品のわかち

撓垂 [名] しなひて人の體によりかゝる

白浪 [名] 白く立つ波。盜人の異名

白乾 [名] 魚肉野菜などすべて鹽その他の物を添えずその儘に乾すこと

白焼 [名] 魚肉など鹽も何も焼くこと

白首 [名] 髪に煙を賣る女

訊鞠 [名] 鞠訊に同じ

訊問 [名] とひただすこと

呻吟 [名] うなること

薪水 [名] 飯を炊くこと  
水を汲むこと

賑濟 [名] にぎはしすくふこと

續密 [名] こまやかに行き届くこと

盡瘁 [名] 心のある限りをつくすこと

臣服 [名] 家來となりて服従すること

箴言 [名] いましめのこと

箴諫 [名] いましめ諫むること

侵入 [名] おかして入り込むこと

侵犯 [名] 罪をおかすこと

侵擊 [名] おかし撃つこと

浸染 [名] しみこむこと

浸淫 [名] 深くしみこむこと

尋繹 [名] たづねること

尋訪 [名] おとづること

榛莽 [名] 草木の生ひ茂りたること

篠入 [名] 芝居の語、囃子の中に入ること

志願 [名] のぞみ。れがひ

吃逆 [名] サケリの訛

救有 [名] ゆるすこと

赦免 [名] 罪をゆるすこと

射藝 [名] 弓射の藝

射法 [名] 弓射る術

射擊 [名] 鐵砲にてれらひ打つこと

遮蔽 [名] さへぎりおほふこと

遮斷 [名] さへぎり断つこと

洒落 [名] 人の氣象の嚴格ならすして打ち解けたること

釋義 [名] その意義をとくこと

縞柄 [名] 織縞のたち

澁面 [名] 不満足らしき顔つき

子細 [副] こまかく。くはしく

色慾 [名] 女道と慾心と

識見 [名] 見識と同じ

識者 [名] 見識ある人

識別 [名] 見わくること

時局 [名] 時事のなりゆき

趣向 [名] こころざし。おもむき。かんがへ。しぐみ

取捨 [名] 取ると捨つると用ひると用ひぬ

收納 [名] 租税などのとり入れ

守禦 [名] 守りふせぐこと

守衛 [名] まもること

充備 [名] 充ち備ふること

衆多 [名] 多きこと

衆議 [名] 多勢の議論

祝意 [名] 祝のこころ

祝詞 [名] 祝の意を述べたる言葉。祝辭(シユクジ)

祝賀 [名] いはひことぶくこと

淑氣 [名] 新春の氣。よき氣

術語 [名] 學術の上に專用する言葉

瞬時 [名] またたくひま

巡視 [名] みまはること

殉死 [名] 主君の死を追ひて自殺すること

順次 [名] ついで。しだい

順路 [名] 行くに便りよき路筋

準備 [名] そなへ。用意

馴致 [名] やうやくに馴れ至ること

蠢愚 [名] おろかなること

締切 [名] 鎖す。塞ぐ。とどめをなす。終結

締高 [名] 集め合せたる數の高

**締付** [他] 束れて堅く締む  
**締寄** [他] 締めてひとところに集む  
**濕氣** [名] 水にしみりたる程  
**染込** [自] 深く染む  
**染付** [自] 深くそまる  
**猪鼻** [名] あふむきたる鼻  
**師承** [名] 師匠より受けつたへたること  
**私曲** [名] よこしまなること  
**私情** [名] 己れ一人の便利を希ふ心  
**至情** [名] まごころ

**事情** [名] ことのこころ  
**辭讓** [名] へりくだりゆづること  
**辭職** [名] 請ひて職をやむること  
**自稱** [名] 自からとなふる  
**刺衝** [名] さしつくこと  
**耳食** [名] ききおぼえ。耳かくもん  
**耳順** [名] 六十歳の異名  
**諮詢** [名] とひはかること。相續すること  
**始終** [副] 始めより終りまで。絶えず  
**施術** [名] 技術を施すこと

**止宿** [名] やどり。とまり  
**支出** [名] しはらふこと  
**強付** [他] 無理にすすむ  
**霜枯** [名] 草の霜にあひて枯れしほむこと  
**霜燒** [名] 寒氣に犯され手足の指耳など痒く腫れて瘡となりたるもの  
**霜除** [名] 草木の霜などを防ぐもの  
**自動詞** [名] 文法上の語。自動の意を示す動詞  
**白鹿毛** [名] 馬の毛色の白毛の雜れるもの  
**慈悲心** [名] 慈悲の心

**慈善家** [名] 慈善の心にとみたる人  
**私生兒** [名] 私生の子。親なし子  
**滲入** [名] しみこむこと  
**震懾** [名] ふるひおそるること  
**審給** [名] ほどこしにぎはすこと  
**審糺** [名] 審かに問ひただすこと  
**守舊** [名] 舊習を守ること  
**狩獵** [名] かり  
**修業** [名] 學藝を學ぶこと  
**修復** [名] をさめなほすこと

**修身** [名] 身の行を正しくすること  
**修正** [名] 正しなほすこと  
**修繕** [名] 直しつくること  
**修養** [名] 身を修め養ふこと  
**修交** [名] 交際ををさむること  
**修學** [名] 學問を習ふこと  
**修築** [名] 建物をつくること  
**宗門** [名] 神佛などの冥理を説きて人を教導する道  
**宗論** [名] 宗派の優劣を論決すること  
**秀逸** [名] すぐれてあること

**秀吟** [名] 秀逸なる詩  
**秀才** [名] 學才の秀でたること  
**秀絶** [名] 秀逸に同じ  
**秀徹** [名] すきとほること  
**秀拔** [名] 秀群に同じ  
**秀麗** [名] すぐれてうるはしきこと  
**秀靈** [名] 秀ですぐれたること  
**秀傑** [名] 秀ですぐれたること  
**愁怨** [名] うれひうらむこと  
**愁歎** [名] うれひなげること

愁鬱 [名] 氣のふさぐこと  
 愁眠 [名] 心配して眠ること  
 秋毫 [名] いささかなるもの稱  
 秋晴 [名] 晴れたる秋の日  
 秋聲 [名] 秋風の聲  
 秋冷 [名] 秋のひややかなる氣候  
 收監 [名] 入牢に同じ  
 收繫 [名] 牢屋などにつなぐこと  
 收藏 [名] 物ををさめ貯ふること  
 收受 [名] 領收に同じ

收稅 [名] 税を取り立つること  
 收納 [名] 受け收むること  
 收養 [名] 取り上げて養ふこと  
 收覽 [名] 取りあげて集むること  
 收斂 [名] をさめあつむること  
 收賄 [名] 賄賂を受くること  
 收得 [名] 手に入ること  
 收益 [名] 利益を受くること  
 收容 [名] 取り上げて集むること  
 周徑 [名] 周圍に同じ

周歲 [名] 一年中  
 周旋 [名] あちこち奔走して事を行ふこと  
 周到 [名] よく行き届くこと  
 周天 [名] 星などの軌道を一めぐりするところ  
 周邊 [名] 近きあたり。そのまはり  
 周覽 [名] へめぐりて見ること  
 周匝 [名] まはりめぐること  
 周密 [名] 細かに行き届くこと  
 周遊 [名] 歴巡りて遊ぶこと  
 周月 [名] 一月中

柔軟 [名] やほらかなること  
 醜行 [名] みにくき行ひ  
 醜聲 [名] 聞き悪きうばさ醜名(シウメイ)  
 醜態 [名] みにくきありさま  
 醜聞 [名] 醜聲に同じ  
 醜惡 [名] みにくきこと  
 醜詆 [名] あしざまにいひ罵しること  
 就學 [名] 師に就きて學問を習ふこと  
 就眠 [名] 眠に就くこと  
 囚繫 [名] 罪人を捕へ繋ぐこと

囚籍 [名] 犯罪人の名を記したる帳簿  
 獸心 [名] 獸の如き卑しき心  
 舟首 [名] 舟のへさき  
 酬報 [名] むくひ  
 酬愿 [名] 神佛にかけたる願のかなひたる時の禮参りすること  
 州俗 [名] 國風に同じ  
 州民 [名] その國の人民  
 習學 [名] ならひまなぶこと  
 習俗 [名] ならはし。しきたり  
 習練 [名] ならふこと

襲擊 [名] おそひうつこと  
 襲來 [名] おそひ來ること  
 襲踏 [名] その儘にまれること(詩文章等に)  
 襲封 [名] 父祖の封地をつぐこと  
 襲用 [名] そのままに用ふること  
 集合 [名] あつまること  
 集金 [名] 金錢をあつむること  
 集散 [名] 集まると散ること  
 十分 [副] 飽くまで不足な  
 澁滯 [名] しぶりとどこほ

澁面 [名] 不満足らしき顔付

執心 [名] 佛教の語。深く執念(シフネン)思ひ込むこと。

聚散 [名] あつまると散る

聚泊 [名] 船の港に聚りてとまること

遒勁 [名] 勢の強きこと

袖手 [名] ふところであらざること

隨 [副] それについて。より

承引 [名] うけひくこと

承諾 [名] 承知に同じ

承認 [名] よしと認めてうけひくこと

承服 [名] 承知して従ふこと

承繼 [名] うけつぐこと

承前 [名] 前の事をうけつぐこと

承平 [名] 太平に同じ

承弊 [名] 他の弊につけこむこと

證明 [名] 證據を立つる事

證文 [名] 證據のためのき付

證言 [名] 證據となる言葉

證人 [名] 證據に立つ人

證跡 [名] 證據となるべき跡

昇降 [名] のぼるとくだる

昇進 [名] 官位などの昇ること

昇天 [名] 天に昇ること

昇沈 [名] うきしづみ

昇堂 [名] 堂に昇ること

昇殿 [名] 殿に昇ること

昇等 [名] 等級の昇ること

昇平 [名] 太平に同じ

稱號 [名] となへ。よびな

稱讚 [名] ほめたたふること

稱揚 [名] ほめそやすこと

稱道 [名] となへいふこと

稱兵 [名] 兵を擧ぐる事

稱首 [名] 口にて言ひ出すはじめ

勝算 [名] 勝つべき胸算用

勝敗 [名] かつとまくと

勝景 [名] すぐれてよき景色

衝突 [名] つきあたること

冗員 [名] 餘計なる人

冗漫 [名] 冗長に同じ

冗兵 [名] 餘計な兵士

乗算 [名] カケザンに同じ

乗船 [名] 船に乗ること

乗車 [名] 車に乗ること

乗艦 [名] 軍艦に乗ること

乗除 [名] 乗けるとわると

乗積 [名] 乗算をなして生じたる結果の數

乗騰 [名] 液體の熱に蒸さるて昇る作用

生涯 [名] 人のこの世に生れてある間

生年 [名] よはひ。とし

生害 [名] 自から腹切り喉死ぬること

生國 [名] 生れたる土地

生得 [名] うまれつき

生來 [名] うまれつき

上界 [名] 佛教の語、佛のおはするところ

上格 [名] 上等なる格式

上件 [名] 前に述べたる事柄

上國 [名] 偏鄙の土地より京の近邊を稱する語

上告 [名] 上に申し上ることは大審院に訴ふること

上根 [名] 佛教の語、根氣のよきこと

上裁 [名] 高貴の人の親しく事を裁決し給ふこと

上作 [名] 好き出来。穀物などの實入りのよきこと

上申 [名] 事を官に申し立つること

上書 [名] 己が思ふ旨を記して官に奉る

上席 [名] 上座に同じ

上船 [名] 船に乗ること

上奏 [名] 文書を奉りて天皇に奏問する

上層 [名] うはかは

上代 [名] 上世に同じ

上世 [名] おほむかし

上段 [名] 上の段。一段高くして貴人を請招する處。刀を頭上に振りかぶること

上達 [名] 學術などの進みて上手になること

上等 [名] 物事の最もすぐれたること

上騰 [名] のぼること

上棟 [名] むれあげ

上納 [名] 年貢など官に納むること

上表 [名] 表を上ること

上人 [名] 氣だてのよき人

上人 [名] 智徳のすぐれたる僧

上輩 [名] 貴き身分のものども

上品 [名] 上等なる品。ひんのよきこと

上聞 [名] 上へのきこえ

上木 [名] 版木に刻むこと

上洛 [名] 都へのぼること

上覽 [名] 高貴の人のみたまふこと

上陸 [名] 船より上ること

上變 [名] 變事を申し立つること

上欄 [名] 本文の上の欄

上謁 [名] 貴人さまみえん入ること

上遷 [名] 崩御に同じ

正覺 [名] 佛教の語。最も正しきさと

正眞 [名] まことなること。偽ならぬこと

正體 [名] まことの身。まことに同じ

正統 [名] 正しき血統

正當 [名] 正しく道理にあたること

正法 [名] 正しき法

正筆 [名] 眞筆に同じ

正物 [名] まことのもの

正銘 [名] 偽ならぬこと

正面 [名] 正しく面をむけること。まむき

正道 [名] 正しき道

將軍 [名] 一軍を統べ率ふる職

將校 [名] 上級の武官の稱

將帥 [名] 少尉以上の稱

將門 [名] 一軍を率ひる人

將來 [名] 將軍の家

商談 [名] のちのち。未來。後來

商業 [名] あきなひ

商標 [名] 商品の區別をなす爲に法律上其權利を定めて用ふる一定の目標

商號 [名] 屋號の類。商業上にて用ふる名

商權 [名] 商業の權力

商社 [名] 商人の組合

商賣 [名] うりかひすること。あきなひ

情報 [名] 情況を探して報知すること

情愛 [名] なさけ。いつくしみ

情交 [名] 親しき交り

情景 [名] ありさま

情人 [名] 思ひびと。こひびと

**情實** (名) ことのこころ。道理の外に捨てられぬ人情のあること

**情緒** (名) 情の動くこころ

**情勢** (名) 情況に同じ

**情慾** (名) 色情の動くこころ

**賞讃** (名) ほむること

**賞嘆** (名) 感心してほむること

**賞鑑** (名) 書畫骨董などの賞翫鑑定

**賞罰** (名) 賞すると罰すること

**賞揚** (名) ほめたたふること

**常格** (名) 常なみの格式

**常額** (名) 一定の金額

**常式** (副) ふだん。いつも

**常日** (名) 通常の日

**常赦** (名) 八逆及び故殺犯の外は皆赦すこと

**常數** (名) 自然と定りたる運命

**常套** (名) ありふれたること

**常道** (名) 常に由るべき道

**常談** (名) 常の話。たはむれていふ語

**常識** (名) 常に備ふる見識

**常態** (名) 常のありさま

**常例** (名) 常のしきたり

**常連** (名) 常に伴ふつれ

**詳報** (名) 詳かなるしらせ

**詳悉** (名) くばしきこと

**詳明** (名) 詳に明かなること

**詳解** (名) 詳かに解釋すること

**詳細** (名) くばしきこと

**詳説** (名) 詳かに説くこと

**詳論** (名) 詳に論ずること

**傷痕** (名) 傷のあと

**傷悼** (名) 死したる人を悼み哀しむこと

**相伴** (名) 饗應の席に主人を助けて客をもてなす

**昌世** (名) さかえたる世

**昌盛** (名) さかゆると。昌榮(シヨウエイ)

**昌運** (名) めでたき運

**昌言** (名) よきことば

**城跡** (名) しるあと。城墟(シヨウキョ)

**醸酒** (名) 酒をかもしつくること

**醸造** (名) かもしつくること

**醸成** (名) 亂などを起すこと

**状態** (名) ありさま。すがた。状態(シヤウ)

**精進** (名) 身を清め潔齊する。膳部に野菜のみを用ふること

**所行** (名) おこなひ。しわざ

**所轄** (名) 支配に同じ

**所管** (名) 所轄に同じ

**所願** (名) 願ふところ。願のすぢ

**所領** (名) 領する所

**助長** (名) 助けて大きくする

**助力** (名) 力を添ふること

**食言** (名) 約束に違ひそむ

**食滯** (名) 食物の胃に滞りて消化せぬこと

**食用** (名) 食物に用ふること

**食欲** (名) 食はんことを欲する心

**食祿** (名) 口をすぐす爲に受くる祿

**食前** (名) 飯を食ふ前

**職業** (名) 世渡りの家業

**職權** (名) 職につきたる權

**職制** (名) 勤め方のおきて

**職分** (名) 職として爲すべの本分



下馴 (名) 豫め慣し置くこと

下心 (名) 心のそこ

實況 (名) まことの景況

實正 (名) まことなること

實性 (名) 物事のたしかなるところ

實狀 (名) 實際のやうす

實力 (名) まことの力

實情 (名) まことの心。飾らぬ心

實證 (名) たしかなる證據

實直 (名) 實體に同じ

心外 (名) 思ひの外なること

心願 (名) 心のうちの願

心匠 (名) 事を心の中にてたくむこと

心情 (名) こころもち

心術 (名) こころだて

心證 (名) 法科上の語心中にひき起されたる推定

心中 (名) 心の中

心中 (名) 男女相愛して合意の上死すこと

心力 (名) こころの力

心略 (名) くふうすること

新緑 (名) 新なる葉の色

新着 (名) 新に到着したること

新曲 (名) 新なる曲

神色 (名) かほのいろ

神妙 (名) 物事のすぐれてあること。奇しく妙なること。けなげなること

伸縮 (名) のぶとちぢむこと

伸張 (名) はりのばすこと

縮小 (名) ちぢまりて小くなること

借金 (名) 借りたる金。借財シヤクザイ

借居 (名) かりすまい

借問 (名) 假に問ふこと。試に問ふこと

借覽 (名) かりて見ること

借用 (名) 借りて用ふること

雀躍 (名) こをどりして喜ぶこと

燭火 (名) いささかなる火

寂滅 (名) 佛教の語、亡び果つること

綽號 (名) あだな

弱點 (名) よわみ

弱質 (名) よわきうまれつ

弱半 (名) 四分したるその一分

島廻 (名) 島をめぐること

島流 (名) 刑の名、罪人を島に流しやること

繁繁 (副) しきりに

敷寫 (名) 書畫などを下に書きてうつしとること

色情 (名) いろごのみの心

識量 (名) 理の判断にさとさるる力

宿繼 (名) 荷物などを宿場より宿場へ送り届くること

宿料 (名) やどせん

出立 (名) 旅路へ出で立つこと

出入 (名) ではいり。だし

蠢爾 (副) 虫のうごめく状態

蠢動 (名) うごめき動くこと

種種 (副) さまざま。いろ

酒狂 (名) 酒に酔ひて心の狂ふこと

酒食 (名) 酒を飲み物を食ふこと

酒興 (名) 酒におもしろみ

酒色 (名) 酒と女色と

受領 (名) 受け收むること

首長 (名) かしら。首魁ハシユクワイ

首卷 (名) 書物の最初のみき

首唱 [名] 始めて唱へ出すこと

手術 [名] 醫術の一。又物切り開きて療治すること

修行 [名] 佛教を收むるにふこと。すべて藝術を習ふこと

主力 [名] おもなる力

主観 [名] 哲學の語。わが物事と同じ位置を占むるに

主張 [名] 己が説を言ひ張ること

入興 [名] 興に入るること

衆生 [名] 佛教の語、もろもろの生物

殊勝 [名] 神妙奇特なること

殊色 [名] すぐれたる容姿

腫脹 [名] はれふくるること

壽命 [名] いのち

終焉 [名] 命の終り

終結 [名] をはり。はて

終日 [名] 朝より夕までの稱

終身 [名] 身の死ぬるまで

終末 [名] をはり。はて

終年 [名] 一年中。終歲(シユウサイ)

終審 [名] 大審院の判決したる最終の裁判

從軍 [名] 軍に從ひて出て行くこと

從遊 [名] 從ひて遊ぶこと

從者 [名] 主君に從ふもの

從前 [名] 今より前

從兵 [名] つき從ふ兵士

從來 [名] もとより。前かたより

從物 [名] 法律の語、他物に附屬して存在するもの

從犯 [名] 法律の語、他人と共に罪を犯す場合におのが從たる地位に立つこと

衆寡 [名] 多きと少きと

衆人 [名] 多くの人の。衆庶(シユウシヨ)

衆望 [名] 衆庶の人の望

衆説 [名] 衆人の説

衆論 [名] 衆人の論

衆目 [名] 多くの人の目

充實 [名] みつること。充満(シユウマン)

充溢 [名] みちあふること

充塞 [名] みちふさがること

充積 [名] 積み貯ふること

充物 [名] みつること

充血 [名] 血液のみちであること

充分 [名] 十分に同じ

銃殺 [名] 軍律の一、銃にて罪人を打ち殺すこと

銃創 [名] 鐵砲にて打たれて受けたるきず

宗門 [名] 神佛などの冥隆へ導くこと

宗論 [名] 宗派の優劣を論ずること

戎狄 [名] えびす

戎装 [名] 軍に出行く装束

縦横 [名] たてよこ

縦覽 [名] 心のままに見ること

縦飲 [名] 心のままに飲むこと

縦淫 [名] 女色に耽けること

縦線 [名] たての線

宿惡 [名] 古き惡事

宿因 [名] 佛教の語、前世よりの因縁

宿緣 [名] 前世よりの因縁

宿業 [名] 佛教の語、前世のむくひ

宿儒 [名] 年功を積みたる儒者

宿所 [名] すまひ

宿水 [名] 前日より汲みおける水

宿醉 [名] 酔いつかふひ。宿醒(シユクテイ)

宿雪 [名] 消え残りの雪

宿題 [名] かねて出し置き作らしむる學術の問題

宿望 [名] かねてよりの望

宿舎 [名] 宿泊にあつる家

宿坊 [名] 寺に詣で来る人をやどす僧坊

宿泊 [名] とまること

宿弊 [名] 古きよりのあしきならはし

宿老 [名] 年功を積みたる老人

宿衛 [名] 宿直して護ること

宿怨 [名] 古きよりの怨み

宿昔 [名] むかし

祝杯 [名] いはひの杯

祝典 [名] 祝の儀式

祝筵 [名] 祝の席

祝宴 [名] いはひの酒宴

祝日 [名] いはひ日

祝酒 [名] 祝ひに飲む酒

祝砲 [名] 祝の意を表する爲打つ大砲

祝髮 [名] 髪を剃りて佛門に入ること

祝文 [名] 祝ふ意を述ぶる文章

祝電 [名] 祝の意を表する電報

熟案 [名] つらつらと考へ案すること

熟考 [名] つらつらと考ふること

熟睡 [名] よく寝入ること。熟眠(シユクミン)

熟醉 [名] 十分に酔ふこと

熟達 [名] 熟練して上達するること。上手になること

熟談 [名] よく相談すること

熟讀 [名] よく讀むこと

熟覽 [名] 十分に見ること

熟慮 [名] つらつらと考ふること

熟練 [名] 馴れて巧になること

熟音 [名] 五十音中のアイウエオを除きてその他すべて發聲と母韻と熟して成熟する音の稱

熟客 [名] なじみの客

熟計 [名] つらつらと計ること

熟察 [名] つらつらと察すること

淑人 [名] 品行よき人

淑德 [名] 婦人の令徳

淑慝 [名] 人品のよしあし

淑均 [名] よく平かなること

塾生 [名] 塾に居る生徒

塾頭 [名] 塾の取締をなす人

叔世 [名] 世のすゑ

出港 [名] 船の港を出ると

出格 [名] 掟に拘らぬこと。別格

出勤 [名] 勤めに出ると

出金 [名] 金銭を出すこと

出御 [名] 天皇の外に出でさせ給ふこと

出軍 [名] 戦場に向ふこと。出陣

出群 [名] 拔群に同じ

出火 [名] 火を出して家の焼くこと

出現 [名] あらわれ出るること

出獄 [名] 牢屋より出さること。出牢(シユツラウ)

出産 [名] 子供の生ると

出身 [名] 官に擧げ用ひらるること。身のなり出ること

出處 [名] でどころ

出精 [名] 精を出すこと。勤め勵むこと

出席 [名] その席に出であふこと

出來 [名] シユツライの連聲

**出庭** [名] 裁判所に出ること  
**出征** [名] 出て行きて他國を征伐すること  
**出典** [名] 書物の中的事柄の出處を示すこと  
**出兵** [名] 兵隊をくり出すこと  
**出門** [名] 門を出ること  
**出頭** [名] 自からその場所に出て向ふこと  
**出發** [名] いで立つこと。出で向ふこと  
**出帆** [名] 舟の帆をあけて港を出ること  
**出版** [名] 書物などを版本に刻りて世に出すこと  
**出品** [名] 品物を博覽會等に出すこと

**出沒** [名] 或はかくれ或は現れること  
**出奔** [名] かけおち  
**出役** [名] 出張のつとめ  
**出來** [名] 物事のできあがり  
**出藍** [名] 弟子の師より勝れること  
**出輦** [名] 出御に同じ  
**術計** [名] はかりごと。てだて。術策(ツエツサク) 術數(ジュツスウ)  
**述作** [名] 述べて作ること  
**恤兵** [名] 金銀物品などを戦地にある兵士にめぐみてなぐさめること  
**春暖** [名] 春のあたたかなる氣候

**春來** [副] 春になりてより  
**純益** [名] 純粹の利益。全くのまうけ  
**純粹** [名] まじり物のなきこと  
**純孝** [名] 極めて孝行なること  
**純潔** [名] 極めていさぎよきこと  
**順縁** [名] 情に隨ひて佛縁を結ぶこと  
**順應** [名] 生活物がその生うに自然力に應ずること  
**順養** [名] ならし養ふこと  
**順序** [名] しい。ついで  
**順講** [名] 輪講に同じ

**順當** [名] 道理に叶へること  
**順達** [名] 順順に達する廻り  
**順番** [名] 次第次第にその事に當ること  
**順繰** [名] 次第を追ひてなすこと  
**巡行** [名] めぐり歩くと  
**巡幸** [名] 天皇の御巡幸  
**巡察** [名] 巡廻して觀察すること  
**巡拜** [名] 神社佛閣をへ廻りて禮拜すること  
**巡禮** [名] 諸國の神社佛閣をへめぐりて禮拜すること  
**巡覽** [名] 歴廻り見まはること

**巡遊** [名] 歴巡りて遊ぶこと  
**巡檢** [名] あらためまはること  
**巡航** [名] 船にて諸所を巡り往くこと  
**巡警** [名] みまはりて非常を警むること  
**巡狩** [名] 支那にて天子が諸侯の國國を巡り歩くと  
**閏刑** [名] 本刑のかわりに鋼など主として老幼又は有罰者に用ふ  
**殉難** [名] 國難の爲に死すること  
**殉國** [名] 國家の爲に死すること  
**俊傑** [名] 才智のすぐれたること

**俊才** [名] 才智のすぐれたること  
**潤筆** [名] 他人の書畫などを言ふこと  
**潤澤** [名] うるほひ  
**瞬間** [名] またたくひま。瞬息(シユンソク)  
**醇朴** [名] 朴直に同じ  
**醇俗** [名] 世なれずして朴直なる風俗  
**竣功** [名] できあがること  
**俊改** [名] 法律の語、犯罪を改むること  
**駿刑** [名] きびしきおきて

循謹 [名] おとなしきこと

準據 [名] なぞらふこと

準的 [名] めあて

遵奉 [名] したがひたてまつること

遵守 [名] したがひまもること

峻拒 [名] きびしくこばむこと

峻酷 [名] きびしくむごきこと

峻絶 [名] けはしきこと

自若 [副] 物事に動ぜぬ状にいふ語

死殘 [自] 我のみ存命す

死後 [自] 死ぬべき時に後

死變 [自] 死にて形を變ふ

死別 [自] 他は死に我はなからへて相別る

鹽辛 [形] 鹽氣強し。しほ

閑雅 [副] 起居動止の落ちつきたる状に言ふ語

尻拭 [名] 他の爲損じたる後を治め整ふる

萎萎 [副] 勢を衰ひ氣を落せる状に言ふ語

鬢面 [名] しかみたる顔

叱付 [他] 聲を勵して戒む

序開 [名] 物事のはじまり

性惡 [名] アクシヤウ(惡性)に同じ

性無 [名] 性のなきこと

性合 [名] 物の性質

正札 [名] 商品にかけねなすの價をつけ置くこと

徐徐 [副] しづかに。おもむるに

障碍 [名] 邪覺に同じ。障害(シヤウガイ)

障翳 [名] 眼のくもり

蒸溜 [名] 液體を沸かしてその冷めたる露を滴らし溜らすること

蒸發 [名] 液體の熱にむされ湯氣となりて昇る作用

鐘聲 [名] かねの音

陞叙 [名] 位をのぼせ進むこと。陞任(シヨウニン)

摺伏 [名] おそれて從ふこと。摺伏(シヤウフク)

掌握 [名] わが物としたる

掌大 [名] てのひら程の大

尙早 [名] なほ早きこと

昇級 [名] 等級の昇ること

猖獗 [名] たげりくるふこと

讓國 [名] 天皇の故ありて位を皇太子に讓り給ふこと

祥瑞 [名] めでたき前兆

裝束 [名] よそはふこと。かさり

唱道 [名] 廣く言ひ告ぐる

徜徉 [名] うろつきまはること(逍遙)

獎勵 [名] すすめほげます

瘡癩 [名] はやりやまひ

省令 [名] 官省よりの命令

鐘愛 [名] めでいつくしむ

烝民 [名] 多くの人民

彰德 [名] その人の徳行を世にあらはすこと

彰善 [名] 善行を世にあらはすこと

攘斥 [名] はらひのくること

攘奪 [名] めすみうばうこと

攘除 [名] はらひのくること。攘辟(シヤウヘキ)

攘竊 [名] めすみむこと

誦讀 [名] 讀誦に同じ

誦梵 [名] 經を讀むこと

擾亂 [名] みだるること

繩墨 [名] 規則

聳動 [名] おそれ動くこと  
 叙述 [名] 思ひを述ぶること  
 庶出 [名] 妾腹に生れ出でたること  
 庶境 [名] 尤も妙味あるところ  
 食客 [名] かかりうどのぬさふらふ  
 飾言 [名] 言葉をかざること  
 觸目 [名] 目にふること  
 弱小 [名] 國の小さく兵の弱きこと  
 贖罪 [名] 罪をあがなふこと  
 溽暑 [名] むしあつきこと

囑託 [名] たのみ委すること  
 殖民 [名] 無人の地に民を移し住ましむること  
 屬目 [名] 目をつけること  
 蓐臥 [名] したれに臥すこと  
 適合 [副] 物事のしまりよくくひあふふ意に  
 品定 [名] 品の善悪などを論ずること  
 調役 [名] 取調を行ふ役目  
 津津 [副] 溢れ流るる状にいふ語  
 深長 [名] 深く長きこと  
 深深 [副] 夜の更け行くさまにいふ語

深閑 [副] ものしづかに  
 森森 [副] 森林の繁りて高く生ひ立ちたる状にいふ語  
 侵略 [名] 侵して掠め取ること  
 信從 [名] 信じて従ふこと  
 信憑 [名] まこととすること  
 身長 [名] 身の丈  
 身上 [名] 身の上。財産  
 盡忠 [名] 忠義をつくすこと  
 盡力 [名] ほれなること

滲出 [名] しみ出ること  
 進歩 [名] はかどること  
 進上 [名] 物を贈ること  
 寢食 [名] いぬると食ふこと  
 尋常 [名] よのつれ。あたりのりまへ  
 震恐 [名] ふるひおそるること。震悚(ヘシシヨウ)  
 震驚 [名] ふるひおどること  
 賑恤 [名] めぐみ施すこと  
 斟酌 [名] おしほかること。おしほすこと  
 忍逢 [名] 男女ひそかに相逢ふ

忍込 [他] しのびて入り込む  
 社會 [名] 同じ種類の人人の相頼みて生活する一團の人民  
 謝状 [名] わびをするためわびがみ  
 邪曲 [名] よこしまなること  
 若干 [名] いくらか  
 衆評 [名] 衆人の評  
 衆辱 [名] 衆人の中にて辱しむること  
 終宵 [名] よもすがら  
 秋涼 [名] 秋のすずしさ  
 秋穫 [名] 秋の頃穀物のとり入れ

秋色 [名] 秋の景色  
 收穫 [名] 作物のとり入れ  
 收縮 [名] ちぢこまること  
 收贖 [名] 金を出して罪をうぐのふこと  
 周回 [名] めぐりまはり  
 周章 [名] あわつること  
 柔滑 [名] やはらかなること  
 柔順 [名] すなほなること  
 柔弱 [名] よわよわしきこと  
 修飾 [名] かざりつくらすこと

愁傷 (名) うれひいたむこ

醜状 (名) みにくきありさ

醜怪 (名) みにくくあやしきこと

秀出 (名) わきんするこ

就職 (名) 職につくこと

集中 (名) 一箇所に集まること

集會 (名) よりあつまること

習慣 (名) ならばし。しきたり

習熟 (名) ならひてなるること

襲職 (名) 職をうけつぐこと

執着 (名) 佛教の語。執念に同じ

七五三 (名) 祝義に用ふる數。三五七九の奇數を端としその中より三ツをとつたもの

四角張 (自) 殊更に威儀を装ふ

躰方 (名) 禮儀作法の教へ方

死人色 (名) 青ざめたる色

洒落者 (名) しやれたる人。好みて身なりを飾る人

始末書 (名) 事の顛末をかきもの

趣意書 (名) 趣意を書きたるもの

守錢奴 (名) 金持の吝きふ語

修羅道 (名) 戰場など言ふ語

尸位素餐 (名) 才徳なしに居り功勞なくして祿を食むこと

死損 (自) 死なんとし得ずぬること

鹿爪 (形) もつともらし。容態ぶりてあり

新機軸 (名) 新工夫に同じ

食中 (名) 病の名多く物を食ひ又不消化物などを食つて胃に變を起し吐瀉するもの

從容 (副) 落ちつきて。ゆつたりと

章章 (副) あきらかなる状態にいふ語

上京 (名) 都へ上ること

上客 (名) 上座に就かしむる上客

上上 (名) 極めて上等なること

上衝 (名) のぼせ

上乘 (名) 佛教の語、最上なること

上聽 (名) 上聞に同じ

上述 (名) 上に述べたること

上略 (名) 上にある文句を省きて記さぬこと

常住 (副) つねに。ふだん

常食 (名) 常の食物

常職 (名) 常の職業

賞准 (名) 物事を發明したる功を賞してその允准を與ふること

賞翫 (名) もてはやすこと

償却 (名) つぐのひ返すこと。償還(シヤウ)

情願 (名) 情實を告げて請ふこと

情狀 (名) 情實に同じ

商況 (名) 商賣の景況

商量 (名) はかり考ふること

商略 (名) 商量に同じ

掌管 (名) つかさどりすること

掌中 (名) 手のうち

淨拭 (名) 清く拭ひ去ること

撐柱 (名) さそふること

證憑 (名) 證據となること

冗長 (名) いたづらになか

職掌 (名) つとめ。役目

食傷 (名) 食あたり

下働 (名) 他の手下につき働くこと

**舌嘗** [名] 舌にて唇をなめまはす

**忍歩** [名] 人目を忍びてあはるく

**歎歎** [名] 息を内へ引き込めて泣く

**灼然** [副] 明らかにひかる

**綽然** [副] ゆるやかに

**綽約** [副] たかをやかにしてゆく

**釋然** [副] わかりやすく

**積極** [名] 電氣の陽性なるもの

**弱冠** [名] 二十歳の異名

**酌量** [名] くみはかること

**倏忽** [副] たちまちに。倏然(シユセント)

**肅然** [副] おごそかに。いかめしく

**從順** [名] すなほにて逆はぬこと

**終局** [名] 事のをばり。とちめ

**宿願** [名] 久しくかけし願

**宿直** [名] とまりばん

**宿病** [名] 持病に同じ

**宿命** [名] 前世より定まれる命數

**出京** [名] 田舎より都へ出ること

**出會** [名] であふこと

**出願** [名] 願ひ出ること

**出生** [名] 出産に同じ

**出張** [名] であること

**出定** [名] 佛敎の語、經の行の爲に籠りたる場所より出づること

**述懐** [名] わが懐ふること

**順逆** [名] 順ふと逆ふとの正しきと正しき

**順熟** [名] 家内よくやばらぎ睦むこと

**順境** [名] 都合よき位置

**順廻** [名] 見めぐること

**純良** [名] 純靜にしてたらしよきこと

**純忠** [名] 忠義ひとすぢなること

**循良** [名] 性質のすなほなること

**循環** [名] めぐりめぐりて止まらぬこと

**春情** [名] いろけ

**潤色** [名] 飾りて色澤を添ふる

**逡巡** [名] あとすざり

**喋合** [他] 豫め知らせ置く

**仕方話** [名] まねにてはなす話

**勝負事** [名] 勝ち負けを争ふこと

**無所在** [形] つれづれな

**蒸發氣** [名] 蒸發により立ちのぼる氣

**初對面** [名] 初めて面會すること

**洒落臭** [形] なまいきな

**初一念** [名] 初めて思ひ立つた一念

**所有權** [名] 法律語、法にその物の使用處分などを自由にし得らるる權利

**叙情詩** [名] 心中に思をうたひたる韻文

**實歴談** [名] おのが實歴をつきての話

**思念力** [名] 心理學の語、念を得たる材料に基き慨念を作る精神作用

**人身權** [名] 法律の語、權自由權名譽權及眷族に對する權利などの稱

**新生面** [名] 新なるむき

**神通力** [名] 神の通力。由に出來得る力

**眞面目** [名] まじめ

**出世間** [名] 佛敎の語、を打ち捨て佛門に入ること

**白白明** [名] 夜の白白と明くること

**示威運動** [名] おのが示さんかための運動

**支離滅裂** [名] はなれなること



人事不省 [名] 全く感  
くなること

人為陶汰 [名] 人為に  
特性を變らしむること

自業自得 [名] 佛教の  
のがなしたる事にておのれ  
その報を得ること

自己感動 [名] 心理學  
自己の價値に關する感動そ  
其強きは求譽心傲慢心等と  
なり弱きは惰弱心となる

指名點呼 [名] 集會の  
にて姓名を呼びてその人  
在否をしらぶること

子子孫孫 [名] まごこ  
のすゑ

事事物物 [名] のすべて  
の物事

獅子奮迅 [名] 獅子の  
るが如く強く烈しきこと

自問自答 [名] 己れ自  
ひて己れ自から答ふること

自然主義 [名] 自然の  
自由ならしめ又それを獎勵  
するを目的とする主義

自然淘汰 [名] 進化論  
優りたるものが存して劣り  
たるものが亡ぶるは社會の  
原則なりと言ふこと

人口呼吸 [名] 假死者  
て呼吸をなさしむること

諄諄 [副] くりかへして告  
語。くどくどと

出色 [名] 他に勝れたると  
しゆつしよく

濛濛 [副] 小雨のゆるく降  
る状にいふ語

濕潤 [副] 眼の涙に濕りて  
ある状にいふ語

章章 [副] 明らかなる状に  
いふ語

灼灼 [副] 明かにひかる状  
にいふ語

死物狂 [名] 命限りに働  
くこと

精進物 [名] 蔬菜の類。  
肉類にあら

心中立 [名] 人と契りて  
守り通すこと

榊風沐雨 [句] 雨風を  
奔走勤勞すること

事後承諾 [名] その事  
げて後に初めて其始末を告

身代限 [名] 借財を償ふ  
るに能は

商賣上 [名] 藝妓など  
の素人とな

商賣敵 [名] 同じ商賣に  
の。相互に敵視すること

七顛八倒 [名] 堪へず  
してもがくこと

森羅万象 [名] 天地間  
無限なき萬物

杓子定規 [名] 一定の  
には應用するに出來ぬ譬

種種雜多 [名] いろいろ  
さまさま

縱横無盡 [副] 思ふさ  
【ひ】

非 [名] しかあらぬこと。道  
しまなること。きす。あや

庇 [名] おかけ

否 [名] よからぬと

比 [名] たぐひ。ならひ

秘 [名] かくしたる事。内密

美 [名] うつくしきこと

微 [名] かなること。す  
尾 [接] 魚を數ふるに用ふる  
語

尋 [接] 兩手をひろげて伸ば  
六尺位

放 [他] 體より外へ出す

干 [自] 乾の字、涸の字をも  
用ふ。水氣なくなる。

簸 [他] 箕にて穀類の殻をあ  
ふる

僻 [接] 實にあらぬ理に  
に用ふる語

直 [接] ひたすらなる、ただ  
るなどの意を示すに用ふる語

鄙 [名] 都の外の地の稱。ぬ  
な

平 [名] ひらかなること。たひ  
片 [名] 薄くて平らかなるも

品 [名] しな。くらゐ。品格

貧 [名] まづしきこと

便 [名] たより。たのみ。おとづれ

引 [他] わが方へ寄す。わが方へ近づけしむ。わが長きしるしをつく。除く。へらす

牽 [他] 後に従へ行かしむ

挽 [他] 後に従へ行かしむ。鋸にて切る

彈 [他] 樂器をかきならす。かなづ

彎 [他] 弓絃を張り開く

惹 [他] ひき起す

碾 [他] ひき臼を回して磨る

冷 [接] すべてひややかなる意を示すに用ふ語

隙 [名] 物と物との間に透きたるところ。すき間。中惡しきこと

彦 [名] 男子の美稱

匹 [接] 鳥獸虫魚の類を示す語布帛の類を示す語

姫 [名] 女子の美稱

姫 [接] すべて形状なく愛らしき意を示すに用ふる語(姫小松等の如き)

比 [他] くらぶ。なぞらふ

秘 [他] かくしてしらせず

裨補 [名] おきなひたすく

罷駑 [名] 役にならぬこと

劣等 [名] 最も下等なること。しり。けつ

非違 [名] 法にたがふこと

非理 [名] 非道に同じ

非企 [名] 謀叛に同じ

非義 [名] 義理に違ふこと

非毀 [名] そしること

非時 [名] 僧家にて午後の食事の稱

彼我 [名] あれとこれと

彼是 [名] かれとこれと

微瑕 [名] すこしのきず

微軀 [名] おのが身の謙稱

眉宇 [名] 眉のあたり

鄙野 [名] 田舎の土地。いやしくて禮義に習はぬこと

鄙語 [名] いやしきことば。卑語(ヒゴ)

卑下 [名] へりくだること

卑視 [名] みくだすこと

日賦 [名] 借金などを日毎に返すこと

飛語 [名] 根なしことば

誹毀 [名] そしること

誹議 [名] そしり論ずること

悲喜 [名] かなしみよろこび

比擬 [名] ひきくらぶこと。なぞらふこと

比喩 [名] たとへ

美味 [名] うまきあぢはひ

美辭 [名] 修辭に同じ

美事 [名] ほむべきことが

秘事 [名] かくしこと

日日 [副] 日ごとに

披靡 [名] ひらきなびくこと

庇護 [名] かばふこと

秀 [自] 茂る。榮ゆ。ぬきんす。まさる

弘 [他] ひろくなす。ひろく

弘 [他] ひろく行はれしむ。遍く知らしむ

廣 [形] 面積多し。狭からず

博 [形] 遍くわたれり。多く知れり

寬 [形] ゆるやかなり

拾 [他] 落ちたるものを取り上ぐ。あちこちより

一 [名] 同じこと。似たること

均 [形] 齊の字等の字も用ふ揃ひたり不同なし

**酷** (形) むごし。つよし  
**獨** (副) われのみにて。友な  
**控** (自) はばかりて進まず  
**僻** (名) ひがむこと。心れぢ  
**光** (自) 照る。かがやく  
**浸** (自) めれとほる  
**直** (副) 隔てなく。うちつけ  
**評** (名) 可否を論じ定むるこ  
**早** (名) 数日或は数十日の照  
**鬢** (自) 眉皺む。年老ひて口

**潜** (自) かくれてゐる。しの  
**拈** (自) 世の常に變りたる行  
**拈** (他) しまぐ。おしゆがむ  
**開** (他) 關、披、發などの字を  
**平** (副) ひたすら。なにとぞ  
**低** (形) 高からずあり  
**冷** (他) ひややかにす。つ  
**引** (自) 退散す。氣おくれす  
**久** (形) 時を歴ること長し  
**鄙** (自) めなかめく

**鬻** (他) 賣る。あきなふ  
**提** (他) 手にさげ持つ  
**拉** (他) 壓して潰す  
**拉** (自) 壓されて碎く  
**犇** (副) きびしく。はげしく  
**響** (名) ひびくこと。聲の長  
**餓** (形) うゑたり。腹へりた  
**歪** (名) ひずむこと。ゆがみ。  
**最負** (名) 力を添へて人を  
**屁蔭** (名) おかけ

**廣場** (名) ひろき場所  
**廣處** (名) 廣きところ  
**廣間** (名) 廣き座敷  
**鄙陋** (名) いやしきこと  
**鄙吝** (名) しかく。やぶさ  
**鄙劣** (名) 志行などの極め  
**鄙見** (名) おのが見込の謙  
**鄙言** (名) いやしき言葉  
**鄙諺** (名) ざいやしきことわ  
**鄙人** (名) ないやしき人。ぬ

**披見** (名) ひらき見ること  
**披露** (名) 文書を披きて見  
**被閱** (名) ひらきてよく見  
**被害** (名) 害を受くること  
**被選** (名) 他にえらばるる  
**被講** (名) 開きて讀み上る  
**尾擊** (名) おひうち  
**尾行** (名) あとをつけ行く  
**尾籠** (名) 禮を失ふこと。  
**疲勞** (名) つかるること

**疲弊** (名) つつかれよわるこ  
**疲羸** (名) つかるること  
**菲薄** (名) すこしのもの  
**非番** (名) 宿直ならぬこと  
**非望** (名) 謀叛に同じ  
**非凡** (名) なみならぬこと  
**非道** (名) 世の常ならぬこ  
**非命** (名) 天命ならぬ死ぬ  
**非禮** (名) 禮義にはづれた  
**非難** (名) 非を難ずること  
**非難** (名) 過失を詰ること

**非役** [名] 役目なくなるこ  
**非分** [名] 分際にあらぬこ  
**非業** [名] 佛教の語。その  
**非戦** [名] 戦争を非とする  
**批判** [名] 非を打ちて判決  
**批點** [名] 文章の添削など  
**微祿** [名] おちぶるること  
**微力** [名] ビリヨクを見よ  
**微妙** [名] 妙にして幽玄な

**微温** [名] なまぬるきと  
**微恙** [名] いささかなる病  
**微運** [名] ふしあはせ。つ  
**微動** [名] 微功(ビコウ)  
**微服** [名] 貴人などのやつ  
**微行** [名] しのびあるき  
**微細** [名] こまやかなるこ  
**微微** [副] 物事のつかすかな  
**微賤** [名] 身分のいやしき  
**微醉** [名] 少し酒に酔ふと

**微震** [名] 少しく震動する  
**否決** [名] 否なりと決定す  
**否定** [名] その事を否とし  
**否認** [名] その事を否とし  
**皮肉** [名] 人の身に直接に  
**皮相** [名] うはべの考  
**日乾** [名] 日光に晒せると  
**日指** [名] 日光の窓などに  
**日蔭** [名] 日ひ光のささぬ

**日掛** [名] 日毎に若干づつ  
**日數** [名] 日の數  
**日髮** [名] 日毎に髪を結ふ  
**日先** [名] 日光の直射すと  
**日柄** [名] 日數。日次。そ  
**日傭** [名] その日限に傭は  
**日間** [名] 數日の間  
**日和** [名] そらのけしき。  
**日暮** [名] 日のくれかかる

**日取** [名] その日を定むる  
**日闌** [自] 日高くのぼる  
**日向** [名] 日に向へる方  
**日並** [名] 日毎にものする  
**日延** [名] 日限をのばすこ  
**日目** [名] 日の光り  
**日増** [名] 食物など製して  
**日頃** [副] 數日このかた。  
**日脚** [名] 太陽の空を過ぎ  
**日限** [名] 日數の限り

**日日** [副] 日ごとに  
**日割** [名] 日數に割りて分  
**日着** [名] 旅行にその日の  
**火乾** [名] 魚を炙り乾した  
**火取** [他] あぶる  
**火手** [名] 火の燃へ上る勢  
**火先** [名] 燃えあがる火の  
**火保** [名] 火の消えずにあ  
**火元** [名] 火の起りたる所  
**火責** [名] 罪人を火にあぶ

干乾 (名) 食なくして瘦せ  
 干割 (白) 乾きて裂く  
 干割 (名) さげめ。われめ  
 飛報 (名) いそぎのしらせ  
 飛書 (名) いそぎの手紙  
 飛檄 (名) いそぎの檄文  
 飛札 (名) 飛脚にて寄せ來たる急ぎの手紙  
 彌望 (名) 見渡すこと  
 彌縫 (名) 一時のとりつくろひ  
 彌月 (名) 一ヶ月餘を経ること

彌漫 (名) はびこること  
 彌久 (名) 日數を経ること  
 秘本 (名) 秘藏の書籍秘書 (ヒシヨ)  
 秘方 (名) 秘密にする法。(多くは調薬に)  
 秘藏 (名) 大切にして藏め置くこと。珍重  
 秘文 (名) 秘密なる呪文  
 秘藥 (名) 大切な薬  
 秘結 (名) 大便の滞りて通ぜぬこと  
 秘訣 (名) 奥の手。奥義  
 秘傳 (名) 藝術などに秘密にして容易に傳へぬもの

秘密 (名) かくして人に知らせぬこと  
 誹謗 (名) そしること  
 人氣 (名) 人のけはひ  
 人手 (名) 他人のたすけ  
 人出 (名) 人の出て集まること  
 悲泣 (名) かなしみなくこと  
 人目 (名) 他人の見てあること  
 一手 (名) ただ一人の仕事  
 一日 (名) 日の數一つ。ある日。過にし日  
 一重 (名) 一つのみにて相重ならぬこと

一目 (名) 一度見ること  
 一夜 (名) 夜の數一つ。ある日の夜  
 一人 (名) 人の數一人  
 悲悼 (名) かなしみいたむこと  
 悲壯 (名) あはれを含みて勢つよきこと  
 悲憤 (名) かなしみいきどほること  
 悲歎 (名) かなしみながること  
 悲號 (名) かなしみさげぶこと  
 悲哀 (名) かなしくあはれること  
 悲惨 (名) ひどくあはれること

悲鳴 (名) 悲みて鳴くこと  
 悲戚 (名) かなしみいたむこと  
 比隣 (名) 軒並びのとなり  
 比類 (名) くらべとなるもの。たぐひ  
 比家 (名) いへなみ  
 比例 (名) 例を擧げてくらぶこと  
 比照 (名) てらしあふこと  
 比周 (名) 黨を結ぶこと  
 比熱 (名) 化學の語、水の熱量と他物の熱量を比べること  
 比肩 (名) 肩と並ぶこと。匹敵すること

比較 (名) くらべあはせること  
 比年 (名) 毎年  
 美音 (名) うるはしき音響  
 美學 (名) 美とは如何なるものなるかを研究する學問  
 美容 (名) うるはしきかたち  
 美談 (名) ほむべきはなし  
 美景 (名) うるはしき景色  
 美裝 (名) うるはしき装ひ  
 美美 (形) うつくし  
 美形 (名) くるはしき形。うるはしき女

美名 [名] ほまれある名  
 美文 [名] うるはしき文章  
 美政 [名] 善き政  
 美麗 [名] うつくしきと  
 鼻音 [名] 氣息の鼻にふれて發する音聲  
 鼻息 [名] はないき  
 比翼 [名] 翼をならぶるを縁のみ同じ帛にて着る着物  
 僻目 [名] 見違ふること。みそこなひ  
 避寒 [名] 冬期に寒さを避くること

避難 [名] 災難を避くること  
 避暑 [名] 夏暑さを避くること  
 費額 [名] 入費の高  
 費耗 [名] つひやすこと  
 費用 [名] つひやすこと  
 肥沃 [名] 土地の肥えたること  
 肥料 [名] 肥えて大なることをこやしとするもの  
 肥立 [名] 日を逐ひて生長す日を経るままに快く

乾死 [自] 餓えて死ぬ  
 乾反 [自] 乾てそりかへる  
 乾付 [自] かわきてつく  
 筆意 [名] 書きたる文字の趣。ふでづかひ  
 筆記 [名] 筆にて書き記すこと  
 匹夫 [名] 身分の輕きをとこ  
 匹婦 [名] 身分の輕き女  
 必死 [名] 力限りしものぐるひ  
 平手 [名] 掌を平らかに開きたること  
 糜爛 [名] つひえたること

便宜 [名] たよりのよきこと。たよりのよきなり  
 貧苦 [名] まづしさに苦しむこと。貧窶 (ヒョウ)

靡靡 [副] 物のなびく状に  
 菲菲 [副] 草の香はしき状に言ふ語  
 秕政 [名] 悪しき政  
 不績 [名] 大なるてがら  
 碑銘 [名] 石碑に書きつく  
 碑面 [名] 石碑のつら  
 碑文 [名] 石碑に彫る文章  
 賁臨 [名] 他のその場内に臨むこと。の敬稱  
 偏 [副] その事のみつきてひたすらひとすぢに  
 辣 [副] 烈しく辛き状にいふ語

兵 [副] 矢を射音の形容をいふ語  
 評 [他] 評をなす。しなさだめをなす  
 饑 [形] うゑたり。空腹なり  
 竊 [副] 窃、密の字をも用ふ人に知らせすに。こつそりと  
 潜 [自] ひそむやうになる  
 提 [他] 手に引きさぐ  
 平 [形] 平かなり。横に廣し。穩かなり。圓滑なり  
 廣前 [名] 神の前を敬ひて  
 廣庭 [名] 玄關の前の廣き庭  
 一荒 [名] 一しきり吹き荒るること

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一撃 [名] 一度撃つこと  
 一雨 [名] 一度降る雨  
 一足 [名] 一たびまたぐ足  
 一言 [名] 一たび物言ふこと  
 一風 [名] 一つのならばし  
 一嵩 [副] ひときは。一段  
 一廉 [名] 一つのふし。ひ  
 一際 [名] ひとしほ。一段  
 一段 [名] 一つのきざみ  
 一癖 [名] ひとつのくせ。癖  
 [名] なみならぬ様子

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一口 [名] 一たび口を開き  
 一度に物食ふこと  
 一聲 [名] 一たび聲を出す  
 一差 [名] いちど  
 一鹽 [名] 魚菜などに淡く  
 一入 [副] 一ときは  
 一連 [名] ひとつのつれ  
 一寝 [名] 二人にて同衾す  
 一時 [名] しばらく  
 一年 [副] あるとし  
 一吞 [名] 一口に呑むと相  
 [名] 手を凌侮する

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一花 [名] ただ一時。わづ  
 一節 [名] 一つのふし  
 一筆 [名] 手紙などに特に  
 書きつくること  
 一先 [副] 何はともあれ。  
 ちよつと  
 一先 [副] 何はともあれ。  
 ちよつと  
 一先 [副] 何はともあれ。  
 ちよつと  
 一先 [副] 何はともあれ。  
 ちよつと  
 一先 [副] 何はともあれ。  
 ちよつと  
 一先 [副] 何はともあれ。  
 ちよつと  
 一先 [副] 何はともあれ。  
 ちよつと

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一人 [名] 人の数。人とし  
 て數へらること  
 一人 [名] 人の品位。人品  
 のよきこと  
 一人 [名] 外の人に聞ゆる  
 こと。外聞  
 一人 [名] 他人のうはさ  
 一人 [名] 他人の事  
 一人 [名] 人のむらがる  
 こと  
 一人 [名] 人の聲  
 一人 [名] 人の住ふ里  
 一人 [名] 契約を破らぬ證  
 據にとて妻子な  
 どを質として他へ送り置  
 と  
 一人 [名] 人の群がり

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一人 [名] 人の往來を止む  
 幸の時人の往來を止むると  
 行  
 一人 [名] 他人と親しむ程  
 合  
 一人 [名] 他人に固りて言  
 ことを  
 一人 [名] 衆人中  
 一人 [名] 世の常の人の列  
 なるを世間なみ  
 一人 [名] 人の交際に馴る  
 人に馴れ親しむ  
 一人 [名] 人の見るとこ  
 一人 [名] うはべの見え  
 一人 [名] 人を寄せ集むる  
 こと  
 一人 [名] ヒトリモノに同  
 じ

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一人 [名] 妻もなく一人の  
 みにて寝ること  
 一人 [名] わづかなる  
 一人 [名] 勢力の劣る  
 分際のこと  
 一人 [名] すこしのきず  
 一人 [名] 小く弱きこと  
 一人 [名] 悲しみを帯びて  
 見る  
 一人 [名] 久しく留まる  
 こと  
 一人 [名] ひがみたること  
 あやまり  
 一人 [名] 聞きちがひ  
 一人 [名] 心のれぢたる

病氣 びやうき [名] やまひ病痾(ビヤウマ)

病家 びやうか [名] 病人のある家

病後 びやうご [名] やみたる後

病死 びやうし [名] やみて死ぬること

評議 ひやうぎ [名] 相談すること

評價 ひやうか [名] れぶみ

筆勞 ひつらう [名] 物を書く骨折

筆耕 ひつかう [名] 賃を取りて物を寫すこと

筆算 ひつさん [名] 西洋の算術

筆者 ひつしゃ [名] 筆を取りて記す人

筆勢 ひつせい [名] 書きたる文字の勢

筆蹟 ひつせき [名] 書きたる文字の風

筆道 ひつだう [名] 文字を書く法

筆端 ひつたん [名] 筆のさき

筆談 ひつだん [名] 言語の通ぜざる人と用事を文に書きて話と合ふこと

筆頭 ひつとう [名] ふでがしら。ふで

筆法 ひつぽう [名] 筆づかひの法

筆鋒 ひつぽう [名] 筆の勢

筆戦 ひつせん [名] 文に書きてただかばすこと

必要 ひつやく [名] 必ず用あることかなめなること

必用 ひつよう [名] 必ず用ふべきこと

必需 ひつじゆ [名] 必ず用なること(ヒツスウ)

必然 ひつぜん [名] 必ず然るべきこと

平押 ひらおし [名] 一途に押し進むこと

平伏 ひらふし [自] 身を平めて伏す

平詰 ひらづめ [名] 常に當直して非常なきこと

品行 ひんかう [名] おこなひ。みもち

品格 ひんかく [名] しながら。みえ。

品種 ひんしゆ [名] 品の種類

品性 ひんせい [名] ある一定の主義意志行為を守るもの

品質 ひんしつ [名] しながら

品類 ひんるい [名] 種類の品

品等 ひんとう [名] 品の等級

品藻 ひんそう [名] 評論すること

貧窮 ひんきやう [名] まづしきこと

貧血 ひんけつ [名] 病により血液不足になること

貧相 ひんさう [名] 貧しげに見ゆる人相

貧生 ひんせい [名] 貧乏なる人

貧賤 ひんせん [名] まづしくていやしきこと

貧乏 ひんぱふ [名] まづしきこと

貧困 ひんこん [名] まづしくてこまること

賓客 ひんかく [名] まらうど。きやく

敏速 びんそく [名] すみやかなること

敏腕 びんわん [名] 物事にすばしこと

敏才 びんさい [名] 物事にすばやき

敏捷 びんせう [名] しわざのすばやき

敏給 びんきつ [名] 口前の達者なること

敏達 びんたつ [名] 物事にさとして通ぜざること

敏膽 びんたん [名] 物事にさとしてひろく行渡る

敏慧 びんけい [名] 物事にさとして

黽勉 びんべん [名] 善く勉むること

憫笑 びんせう [名] あはれみ笑ふこと

憫察 びんさつ [名] あはれみておもひやること

頻繁 ひんぱん [名] こと多きこと。頻煩(ヒンパン)

頻數 ひんすう [名] しきりなること

擯斥 ひんせき [名] しりぞくること

紊亂 びんらん [名] みだるること

便船 べんせん [名] 他の船にたよりて乗り行く

火移 ひうつり [名] 火氣の移り行くこと



日入 ひのしち [名] 日の入る頃ほひ  
 日歸 ひがへり [名] その日の中に往きて歸ること  
 日増 ひましに [副] 日毎に増して  
 日中 ひるなか [名] 日の照る中。朝より夕までの間  
 火物 ひのモノ [名] すべて煮焼きしたる者  
 火番 ひのばん [名] ひごとを慎しむ爲におく  
 冷汗 ひやあせ [名] 甚だしく氣遣ひる時にしる汗  
 百味 ひやくみ [名] 數多の食物  
 百事 ひやくじ [名] 種種の事柄  
 百揆 ひやくき [名] 多くの役人

引上 ひきあぐ [他] 引きて上に擧る  
 引明 ひきあけ [名] 夜の明くる時  
 引當 ひきあて [名] 金を借るに質として品物を預け置くこと  
 引合 ひきあひ [名] かかりあひ  
 引入 ひきい [他] 誘ひて仲間とす  
 引受 ひきうけ [他] 他人のなしたる後を受けつぐ  
 引負 ひきおひ [名] 主人に對して負債となること  
 引搔 ひきか [他] 爪などにて搔く  
 引懸 ひきか [他] 掛けてつるす  
 引替 ひきかへ [名] 引きかふること

引切 ひきき [他] 引き張りて切る  
 引組 ひきくむ [自] とり組む。組合  
 引越 ひきこし [名] 移轉すること  
 引事 ひきごと [名] 事を證明するにりて合せて説く例證  
 引込 ひきこむ [自] 家にこもる  
 引込 ひきこむ [他] 誘ひて仲間とす  
 引込 ひきこむ [他] 列より下に置く  
 引下 ひきさぐ [他] 引きて下の方に置く  
 引摺 ひきず [他] 長く地上を曳きて行く  
 引出 ひきだし [名] ひきだすこと  
 引立 ひきたて [名] ひきたてること

引立 ひきたつ [自] 勇ましくなる。氣満ちばる  
 引繼 ひきつぎ [名] 譲り受けて後をつぐこと  
 引付 ひきつく [自] 氣絶す。目をまはす  
 引付 ひきつく [他] 側に來らしむ。先例にまかせて處分す  
 引裂 ひきさ [他] 引て裂く  
 引詰 ひきつむ [他] 間斷なく行く  
 引抜 ひきぬく [他] 引きて抜く。多くある中より抜きて出す  
 引留 ひきとむ [他] ヒキトドムに同じ  
 引吊 ひきつる [他] 上につりあぐ。ひきよす  
 引連 ひきつる [他] トモナフに同じ

引取 ひきとる [他] 退く。退散す。死ぬ  
 引張 ひきばる [他] 引き延す  
 引舟 ひきふね [名] 流に溯る舟に綱をつけて曳き行くもの  
 引寄 ひきよす [他] おのが方へ引き寄す  
 引分 ひきわく [他] 引きはなして分れしむ  
 引痛 ひきり [副] 刺すが如く痛む  
 乾枯 ひからぶ [自] 甚だしくかわく  
 乾涸 ひかわく [自] 日に照らされてかわく  
 扣目 ひかめ [名] ひかえ憚る。き  
 脆弱 ひやくじやく [形] もろくよわし。かよわし

拍子 ひやうし [名] 音樂歌舞の調子と。ほど。ころあひ  
 謬說 びやうせつ [名] 誤りたる説  
 謬見 びやうけん [名] あやまりたるみこみ  
 謬舉 びやうきよ [名] 誤りて人を用ふること  
 謬傳 びやうでん [名] あやまり傳ふこと  
 謬算 びやうさん [名] 誤りたる計算  
 只管 ひたすら [副] ひとむきに。ひとすぢに  
 逼塞 ひつそく [名] 徳川時代士分の門扉を鎖し白晝出入を禁じて謹慎すること  
 逼迫 ひつぱく [名] さしせまること。乏しくなること  
 匹儔 ひつちゆう [名] たぐひ。ことが

**匹敵** [名] 相手となること  
**畢生** [名] 一生。生涯  
**把玩** [他] 拵りてもてあそぶ  
**雛形** [名] 物を造る時にまづ試にその型を小さく象りて作れるもの  
**枚枚** [名] ひらひらとさがりたるもの  
**美観** [名] うるはしみも  
**美稱** [名] ほめていふこと  
**美術** [名] 工夫思考をこらして人の心を慰むる爲の術  
**罷官** [名] 官をやめらるること  
**飛錫** [名] 僧の行脚すること

**飛行** [名] 空中を飛び行くこと  
**謬誤** [名] あやまり  
**非常** [名] なみなみならぬこと  
**非情** [名] 木石等の心なきもの  
**菲食** [名] 粗末なる食物  
**秘術** [名] 秘めて容易に人に知らせぬ術  
**批准** [名] 可否を定めて許可すること  
**批評** [名] そのよしあしを品定めすること  
**靡然** [副] 靡々に同じ  
**廣** [副] ひろびろと

**翻** [他] 表をかへして裏を出す。うらかへらしむ  
**閃** [他] ひらめくやうにす  
**冷** [副] ひえて。つめたく。冷淡に  
**跪** [自] 膝を衝きて屈まり居る  
**一抱** [名] 両手をひろげて抱くほどの大きさ  
**一刀** [名] ひとつちに斬り殺すこと  
**一盛** [名] 暫し盛ること  
**一頻** [副] ひとさかりは  
**一筋** [副] ひとすらに  
**一揃** [名] 同じやうにそろふること

**束** [名] ひとつに束ぬること  
**一設** [名] 一度まうくること  
**一行** [名] 文書の一のくだり  
**一構** [名] 一つの組立  
**一騷** [名] 一度さわぐこと  
**一攫** [名] 一つの手につかむこと  
**一撮** [名] 一つの手にてつまむほど少きこと  
**一書** [名] 文書に一事件ごとく書くこと  
**一物** [名] おなじ物  
**一通** [名] よのつれ。つれなみ

**一握** [名] ひとつの手にて握るほどの大きさ  
**一睡** [名] 一度睡ること  
**一纏** [名] 一つにまとむること  
**一廻** [名] 一週間  
**一昔** [名] 十年を一昔と云ふ  
**一向** [副] ひとすらに。ひ  
**一應** [副] ひとたび。いち  
**一笑** [名] 一度笑ふこと  
**一懲** [名] 一度こらすこと  
**人心** [名] 人の心。なまげ。生きかへること

**人殺** [名] 非理に人を殺すこと  
**人少** [名] 人数の少きこと  
**人頼** [名] 他人の力を頼みにする  
**人違** [名] 人をみちがへること  
**人通** [名] 人の往來すること  
**人頽** [名] 群集の次第に押しなだれて頼れること  
**人拂** [名] 密談などする時に退くこと  
**人任** [名] 他人にのみ事を任せ置くこと  
**人助** [名] 人を助くること  
**獨旅** [名] 一人にて旅行すること

**獨斷** [名] 己れ一人の考にて定むること

**獨語** [名] 相手もなく獨りにて物言ふこと

**獨立** [名] 己れ一人の力にて事をなすこと

**書下** [名] 晝の少し後午後一二時ごろ

**書鳶** [名] 白晝に盗みをするもの

**晝休** [名] 晝飯後に仕事を休むこと

**閃閃** [副] 光り輝く状にいふ語

**乾固** [自] かわきてかたまること

**評決** [名] 評議して決定すること

**評判** [名] うばさ。とりざた

**評論** [名] 評して論ずること

**憑託** [名] たのむこと

**憑據** [名] よりどころとすること

**憑頼** [名] よりたのみにすること

**兵法** [名] いくさのみち。専ら劍術の稱

**兵糧** [名] 軍人に給する食料

**兵亂** [名] いくさのみだれ

**平等** [名] ひとしきること。不同なきこと

**氷結** [名] 氷のほりつめたること

**氷點** [名] 寒暖計にて水の氷となるべき溫度の稱

**病根** [名] やまひのもと。病源(ピヤウゲ)

**病毒** [名] 病の毒

**病身** [名] 病の多き身

**病者** [名] 病にかかれる人。病人(ピヤウニン)

**病體** [名] 病のあるからだ

**病難** [名] 病氣の災難

**病羸** [名] やみつかるること。病態(ピヤウハイ)

**額際** [名] 額髪のはえぎは

**額付** [名] 額のかたち

**左利** [名] 左手の右手より用ひること。酒を好むこと

**左前** [名] 衣の右の衽を左に着る。運の悪くなること

**左側** [名] 左の方

**密密** [副] しのびやかに

**適合** [副] ぐあひよく。しつたりと

**悄然** [副] 鎮まり靜かなる状に言ふ語

**喫驚** [副] 不意に驚きたる状に言ふ語

**筆力** [名] 筆の力

**筆誅** [名] 文章の上にてその罪を責め告むること

**必勝** [名] かならずかつこと

**必定** [副] かならず。きつこと

**畢竟** [副] つまるところ。終には

**開封** [名] 封をなさぬ手紙

**片片** [副] 紙旗などの風に飄る状にいふ

**彬彬** [副] 文と質との備れる状にいふ語

**頻頻** [名] しきりに

**繽紛** [名] 花などの散り亂るる状に言ふ語

**惘然** [副] いかたはしく。貧弱

**貧弱** [名] 貧しくて弱きこと

**敏活** [名] しわざのすばやかきこと

**品評** [名] 品の善惡の評。しなだため

**賓從** [名] 客となりてつき従ふこと

**頻蹙** [名] 眉の根に皺をよするること。しかむる

**惴惴** [副] 臆して恐るる状にいふ語

**百藥** [名] 數多の藥

**百雷** [名] 數多の雷

**百草** [名] 數多の草

**百穀** [名] 數多の穀類

**百毒** [名] 數多の毒

**百貨** [名] 數多の貨物  
**百般** [名] 種種なる計  
**百計** [名] 種種なる計  
**百方** [名] さまざまに關すること  
**百端** [名] 種種なること  
**暇潰** [名] ひまのかかること。暇費(ヒマツヒエ)  
**久久** [副] ヒサシプリニ同  
**引合** [他] 引き寄せて合す。二ツの者を乙とを對面せさす。  
**引出** [他] 引きて出す。預けたものを引出す。

**引起** [他] 倒れたるを起す。ひきたつ  
**引擔** [他] カツグに同じ  
**引返** [他] もどす。かへす。くりかへす  
**引括** [他] 一處にとりまとむ  
**引下** [自] 下方にさがる  
**引絞** [他] 弓を十分に引き張る  
**引續** [自] ツヅクに同じ  
**引直** [他] 元の如くす。ひきまはす  
**引廻** [他] とりまはす  
**引渡** [他] 長く引き張る

**引留** [他] しひてとどむ  
**引移** [自] ヒキコスルに同じ  
**引延** [他] 長く延す  
**緊緊** [副] きびしく。はげしく  
**日蔭者** [名] 世をしのびてある人  
**被害者** [名] 害を被りたる人  
**引出物** [名] 祝宴饗應等にひくるめに  
**一括** [副] 一つにとりまとめて  
**一塊** [名] 一つにかたまりたること  
**獨學** [名] 師につかず勉學すること

**水林水林** [副] 水の廣き狀に言ふ語。森然(ヒヨウセント) 森茫(ヒヨウバウト)  
**氷釋** [名] 氷解に同じ  
**評定** [名] 衆、相評議して決定せること  
**病中** [名] 病氣にかかりてある間  
**病症** [名] 病のたち  
**病床** [名] 病のとこ。病牀(ビヤウツヨク)  
**病狀** [名] 病のありさま  
**百官** [名] 朝廷のもろもろのつかさびと  
**百出** [名] 種種なる事の起ること  
**久振** [副] 久しく時日を経

**光輝** [自] ひかりにひかる  
**拍子拔** [名] まのぬけたこと  
**非常赦** [名] 國に吉凶祥有たる時罪人を悉皆赦すこと  
**裳** [名] 女の腰より下につくる衣  
**喪** [名] まがごと  
**諸** [接] おのおの。めいめい。用ふる語  
**本** [名] 元原基などの字をも用ふ。はじめり。おこり  
**下** [名] した。根のきは

**許** [名] 居るところ。がり  
**舊** [名] 故。字も用ふ。むかひ  
**元** [副] 故舊素などの字をも用ふ。はじめ。さきに  
**持** [名] もつこと。堪へ支ふること  
**盛** [他] 器に入れて満す。積みて高くす。薬を調合す  
**漏** [自] すきまより出づ。こぼる。はぶかる。はぶかる  
**漏** [名] ぬけ。おち  
**漏** [名] 液類のもるるこ  
**揉** [他] 手にて擦りて柔かに

**物** (名) 形の有無に拘はらずすべの五感にふれるもの  
**挽** (他) れぢて引き放す  
**燃** (自) 火つきておこりたつ  
**萌** (自) 芽を出す。めぐむ  
**若** (副) 如の字も用ふ。あるひは。萬一  
**摸擬** (名) なぞらへうつすこと。まねをす  
**求** (他) さがす。たづぬ。欲しとのぞむ  
**戻** (自) ともへかへる。はじめにかへる  
**基** (名) もとのすわり。どだい  
**用** (他) つかふ。採用す

**振** (他) れぢる。よぢる  
**擡** (他) モチアアの約  
**靠** (他) よせかく。たてかく  
**靠** (自) よりそふ。よりかか  
**默** (自) 口をつぐむ。だまる  
**悶** (自) 思ひ煩ふ。心いらつ  
**以** (接) 用ひて。にして  
**縛** (自) 入り雜りて亂る。こぐらがる  
**貫** (他) 贈物を受く。頼み願ふ  
**物** (他) 事をなす

**潜** (自) くぐる。下に入り込  
**舫** (他) 舟と舟とを繋ぐ  
**脆** (形) こはれやすし。かたからず  
**諸手** (名) ふたつの手  
**最寄** (名) 近きあたり  
**最中** (名) まんなか  
**最早** (副) いまとなりては。いまはや  
**膜拜** (名) 手を合せて拜むこと  
**摸範** (名) 物事ののりとするもの  
**摸倣** (名) うつしまぬること

**摸様** (名) 染物織物彫物などに作り出す種の形象  
**摸造** (名) 他の形に似せて造ること  
**摸型** (名) かた  
**摸糊** (副) 霧烟などにて影の分明ならぬ状態に  
**摸倣** (名) うつしまぬること  
**摸索** (名) てさぐり  
**摸寫** (名) 物の形をうつしとる  
**比擬** (名) 劣らじとしてそのさまに似するもの  
**持場** (名) 受持の場所  
**悶躁** (自) 苦しみて手足を動かす

**食滯** (自) 食物胃に滞りて消化せず  
**勿怪** (名) 不思議らしきこと  
**門下** (名) 師の門に在りて教を受くる者  
**門訴** (名) 貴人の門前にて直訴すること  
**門地** (名) いへがら  
**門派** (名) 宗旨の別れ  
**木目** (名) 材木の肉中のすぢ。もく。きさ  
**欸待** (自) してなさる (俗)  
**莫得兒** (名) 英語、かた。てほん  
**物日** (名) 節日祭日など常とかはれる日

**物見** (名) 祭禮などを見物すること。敵の動靜を探ること  
**目途** (名) めあて。あて  
**目下** (名) まのあたり。さしかかり  
**目次** (名) 目録に同じ  
**默視** (名) だまりて見ること  
**催合** (他) 人人物事を共になす  
**百夜** (名) あまたの夜  
**百世** (名) あまたの世  
**諸** (名) あまたなるもの。み  
**催** (他) うながす。せきたつ。行ふ。設け起す

齊もち [他] 持ちゆく

尤もちと [名] ことわりになへる

固もちより [副] 素の字を用ふ。ほじ

儘もちえ [名] モエノコリに同じ

尤もちと [接] ただし。しかしなが

專もちばら [副] ひとむきに。一途に

諸差もちろ [名] 雙方のうで

諸肌もちろ [名] 左右の肩

諸膝もちろ [名] 左右のひざ

元締もと [名] 元の取締りをな

焦躁もちあせ [形] 思ふ様にならず

持上もちあ [他] 高くあぐ。さし

持合もちあ [自] 雙方の力にて持

持口もちぐち [名] 身に引受けて持

持越もちこ [他] 残し送る

持出もちだ [他] 物を持ちて出す

持逃もちにげ [名] 人の物を持ちて

持馴もちなる [自] 常に持ちて馴る

持前もちまへ [名] うまれつき。た

持物もちもの [名] 持ちたるもの。

喪中もちゅう [名] 喪にこもり居る

勿論もちろん [副] 論するまでもな

守役もちやく [名] かしづき守る役

守立もちたつ [他] 守りて育つ

物體ものたい [名] 勿體とも書す。

門限もんげん [名] 夜門を閉づる時

門送もんそう [名] 門出を送ること

門閥もんぱつ [名] いへがら

門葉もんえふ [名] 一家一類

文盲もんもう [名] 學問せずして文

問糺もんきつ [名] とひただすこと

問罪もんざい [名] 罪を問ひただす

問訊もんじん [名] とひただすこと

問絶もんぜつ [名] もだへくろしみ

蒙塵もうじん [名] て天子の難を避け

蒙昧もうまい [名] 心のくらきこと

蒙蔽もうへい [名] 智の乏しきこと

蒙冒もうぼう [名] おほひかくすこ

文言もんげん [名] あざむきくらま

文書もんしよ [名] 文章の言葉。文

文段もんだん [名] 文章の段落

問答もんたふ [名] とひとこたへと

問題もんたい [名] 問ひかゝる事柄

無文もんなし [名] 錢の一文もなき

夢想もうそう [名] 思ひ煩ひて夢見

物事ものごと [名] 思ひ煩ひて夢見

物懲ものちり [名] すべて物と事

物言ものいふ [名] 物のごとに懲り

物音ものおと [名] 物の音をいふ。か

物真似ものまね [名] 物事の真似

物憂ものうれ [形] 心すすますあり

物言ものいひ [名] ことばづかひ。

物忌ものいみ [名] 身心を淨く穢れ

物入ものいり [名] 金錢の費ゆるこ

物識ものし [名] 博く物事に通じ

物好ものすき [名] 格段なる物事を

物取ものとり [名] 好むくせ

物成ものなり [名] 盜賊おひばぎな

物馴ものなる [名] 地より成り出る

物怪 (名) 死霊などのたたり

目論 (他) くはだつ。たく

目撃 (名) まのあたり目に

目今 (名) まのあたり

目算 (名) みつもり。みは

目前 (名) 目のまへ

目的 (名) 目ざすところ。

目禮 (名) めつきにて會釋

目送 (名) 見送ること

黙許 (名) 知らぬふりして許し置くこと

黙諾 (名) だまりて承知す

黙過 (名) だまりてすこす

黙讀 (名) だまりてよむこと

黙認 (名) 知らぬふりにて承認すること

沐浴 (名) 髪を洗ひ身をそ

燃出 (自) 火もえて炎盛に

持成 (他) とりなす。あへ

掬取 (他) れちて引き取る

揉出 (他) 揉出す

懶 (形) モノウシに同じ

玩 (名) 子供のもちあそぶもの。おもちゃ

諸共 (副) かれこれそろひ

戻掛 (名) 家に歸らんとす

戻路 (名) カヘリミチに

持合 (他) その時恰ど所持

持腐 (名) 所持せるままに

持堪 (他) こらへささふ。

持餘 (他) 力足らずして堪

持映 (他) ほめそやす

持馴 (他) 常に持ちて手馴

盛上 (自) 盛りたるが如く

守育 (他) まもりそだつ

貫泣 (名) 他の泣くに誘は

貫物 (名) 他より貫ひたる

門構 (名) 家の入口のかま

悶着 (名) いさかひ。あら

黙黙 (副) だまりて。口を

濛濛 (副) 雨霧などの暗き

朦朦 (副) 雨霧などのため

朦朧 (名) おぼろに暗き状

揉朽 (副) 揉まれて皺にな

蒙茸 (名) 草木のしげるこ

物祝 (名) 物事のいはい

物覺 (名) 心に忘れぬこと

物臭 (名) なまげもの

物思 (名) ものを思ふこと

物堅 (形) たつしみ深し。

物語 (名) 事を語ること。

物狂 (名) きちがひ

物心 (名) 世上に適したる

物越 (副) 物をへだてて

物寂 (形) 何となくさびし

物凄 (形) ものごと何とな

物遠 (形) まはりどほし。

物悲 (形) 物事何となくか

物習 (名) 物事の道を習ひ

物學 (名) 物事の道を習ひ

物忘 (名) 物事をわするる

物笑 (名) 世上の笑草

物吝 (名) 物ををしむこと

**物案** (名) 物事に心配すること  
**黙従** (名) だまりて他のなすが儘になること  
**物扱** (名) 物の取り扱へ  
**物疑** (名) 物事のうたがひ  
**物争** (名) 物事の争ひ  
**物騒** (形) 何となくさわがし  
**物柔** (副) 物事何となくやばらかに  
**無勿體** (形) 恐れ多し  
**紋切形** (名) 常の定まりたる仕方

【せ】

**瀬** (名) 湍の字を用ふ。川な歩けるところ  
**是** (名) 正しく善きこと  
**生** (名) いきてあること  
**性** (名) うまれつき。たち  
**姓** (名) かばね。苗字  
**精** (名) くはしきこと。たま  
**勢** (名) つきはも。ちから。  
**制** (名) さだめ。おきて。おほせ  
**製** (名) つくり。つくりかた  
**税** (名) れんぐ。運上

**筮** (名) うらなひ  
**零** (名) なにもなきこと  
**競** (他) きそふ。あらそふ  
**迫** (他) せきたつ。狭くなす。うながす  
**節** (名) 氣候の變るをり。ときをり。ころ  
**說** (名) 述ぶる意見。うはさ  
**拙** (名) つたなきこと  
**責** (他) 追まりて苦しましむ  
**攻** (他) 迫りて敵を撃つ  
**專** (名) もつばらなること

**詮** (名) しわざのしるし。かひ  
**餞** (名) はなむけ  
**先** (名) さき。おくれぬこと  
**線** (名) いとすぢ。すぢ  
**撰** (名) のぶること。著述する  
**善** (名) 正しく善きこと  
**前** (名) さき。まへ  
**全** (名) まつたく  
**漸** (名) 物事の次第あること  
**選** (名) えらぶこと

**鮮** (名) あざやかなること  
**咳** (自) せきをなす  
**急** (自) はやる。いそぐ  
**塞** (自) 堰の字をも用ふ。ふさぎ止む  
**堰** (接) 對なる物の一方の語を數ふるに用ふる語  
**世話** (名) 世のうはさげな。世の爲に力を盡して事を謀る  
**施與** (名) ほどこしあたま  
**世事** (名) 世の中の事。世渡りのいとなみ  
**是非** (名) よきとあしきと  
**制** (他) おきてを定む

**製** (他) つくる。こしらふ  
**征** (他) 謀叛人を討つ  
**旌** (他) あらはす  
**省** (他) はぶ。親の安否を問ふ  
**急** (他) いそがす  
**切** (副) しきりに。ひたすら  
**忙** (形) ことしげし。いそがし  
**節** (他) よきほどにす。ひかへめになす  
**接** (自) つながる。つつがる  
**攝** (他) その人の後見として事を行ふ。兼ね



**絶** (自) たちまさる。たちこゆ。たゆ。なくなる。  
**撰** (他) 文章又は書物を作る  
**借** (他) 分限を越えて目上の人をして君になぞらふ  
**煎** (他) いる。湯に煮出す  
**狭** (形) 幅少し。廣からず  
**迫** (自) 逼の字も用ふ。きびくなる。せつばつまる  
**迫** (副) 已むを得ず  
**閱** (他) あらそふ。うらみあ  
**鑿** (他) つつきほる。せせく  
**訐** (他) 人の非をあばく。せ

**正價** (名) かけれなきまことの價  
**正義** (名) ただしきすぢみ  
**正誤** (名) あやまりを正すこと  
**正比** (名) 反比を作るとききの原因となるべきもの  
**正路** (名) 廣き路。ただしきみち  
**生氣** (名) 氣息ありて生きてあること  
**生地** (名) 兵學の語、未だ得ぬ土地  
**生理** (名) 動物の生活しある機關のはたらき又はその道理  
**生路** (名) 未だ歩みなれぬ路

**世路** (名) 世の中の事。處  
**世紀** (名) 時代  
**世故** (名) 世の中のことがら  
**世事** (名) 世の中の凡ての事  
**世務** (名) 世の中のつとめ  
**成規** (名) 定まりたる規則  
**成語** (名) 定まりたる言葉  
**制止** (名) いましめとどむること  
**制度** (名) さだめ。おきて  
**制規** (名) さだまりたる規則

**制可** (名) 天皇の聽許し給ふこと  
**精氣** (名) 物の純粹なる氣  
**精査** (名) くはしくしらぶること  
**精粗** (名) くはしきとあらきと  
**精微** (名) くはしくてこまやかなること  
**精緻** (名) やかなること  
**精義** (名) こまやかなる道理  
**星使** (名) 天皇の派遣し給ふ使者  
**星羅** (名) 物の數多つらなること  
**聲價** (名) 評判に同じ

**聲譽** (名) ほまれ  
**政務** (名) 政事を行ふつとめ  
**聖旨** (名) 天皇のおほしめ  
**聖意** (名) 天皇の御意  
**聖謨** (名) 天皇の御謀  
**勢威** (名) いきほひ。いせ  
**製絲** (名) 絲をつくること  
**製圖** (名) 地圖をつくること  
**製紙** (名) 紙をつくること  
**誓詞** (名) ちかひの言葉

**誓紙** (名) ちかひの言葉を書きたる文書  
**整理** (名) 物事の正しくととのふこと  
**整備** (名) ととのひ備はること  
**誠意** (名) まごころ  
**盛事** (名) 盛んなる事  
**清和** (名) 寒暖の中和を得たる氣候  
**靜思** (名) しづかに思ふこと  
**是認** (名) 善しと認むること  
**世道** (名) 世の中の道  
**背負** (他) 背に負ふ

督促 [他] 絶て望む。迫り

背丈 [名] 身のたけ

世態 [名] 世の中のありさま

世俗 [名] 世の中のならば

折價 [名] 價をまげさせる

折挫 [名] をりくじくこと

折死 [名] わかじにするこ

節義 [名] せつと義と。み

節度 [名] のり。ほど。指

說破 [名] 他の議論を説き破ること

說諭 [名] ときさとするこ

說話 [名] ものがたり

設置 [名] つくり設くるこ

說備 [名] まうけ備ふるこ

雪肌 [名] 雪の如く白き肌

攝理 [名] すべをさむるこ

刹那 [名] 極めて短き時

切磋 [名] 玉をみがくこと

切齒 [名] はがみをするこ

絶家 [名] 戸主死亡して絶えたる家

絶無 [名] 絶えてなきこと

絶美 [名] 極めて美しきこ

絶佳 [名] 極めてよきこ

接枝 [名] 枝をつぐこと

泄痢 [名] 腹のくだること

先手 [名] すべてある事柄も先に始むること

先規 [名] 前方よりのおき

先途 [名] なりゆきのきはみ。進み行く先

先度 [副] さきごころ。さき

先非 [名] 過ぎしあやまち

先務 [名] さきになすべき

先夜 [名] 過ぎ去りたる夜

前記 [名] まへに記したる

前驅 [名] 騎馬にて行列の

前後 [名] さきとあとと。

前次 [名] まへの時

前知 [名] あらかじめ知る

前途 [名] ゆくさき。ゆく

前度 [名] さきの頃

前非 [名] 先非に同じ

前時 [名] さきの時

前議 [名] さきになしたる

前夜 [名] 前の日の夜

前古 [名] むかし

戦機 [名] 戦のかけひき

戦記 [名] 戦の事を記した

戦後 [名] 戦の終りたる後

賤家 [名] いやしきものの

賤價 [名] 價の安きこと

賤奴 [名] しもべ。やつこ

賤微 [名] 身分のいやしき

船尾 [名] 船の後の方。と

全家 [名] 一家のこらす。

全知 [名] 悉く知ること

全治 [名] 病の全く癒ゆる

全備 [名] 全く備はること

全部 [名] 一部全く揃ひた

遷移 [名] うつること

遷徙 [名] うつること

鮮美 [名] あざやかにてう

**宣布** [名] 官より人民へのべ傳ふること  
**宣旨** [名] 任官の勅を下さるること  
**宣下** [名] 定まれる除目の外に臨時に宣旨を下ること  
**僭踰** [名] 分限を踰えてほしひままにものすること  
**僭偽** [名] 臣の身にて君になぞらふこと  
**專恣** [名] わがままなること  
**專務** [名] 專一のつとめ  
**善事** [名] よきこと  
**善美** [名] うるばしくよきこと  
**善後** [名] 後の爲によきこと。後日のためにはかること

**淺膚** [名] あさはかなること  
**淺智** [名] あさはかなるち  
**踐祚** [名] 天皇の御位につきたまふこと  
**占夢** [名] ゆめあはせ  
**染汚** [名] けがすこと  
**謔語** [名] そらごと  
**詮議** [名] 評議して理を明人をとひたすこと。罪  
**僉議** [名] 大勢集りて評議すること  
**泉下** [名] 黄泉の下。めい  
**世運** [名] 世のまはりあは

**施藥** [名] 藥を施し與ふること  
**施米** [名] 施し米  
**世才** [名] 世の中の事情に通じたる才  
**世間** [名] よのなか  
**瀨踏** [名] 物事をなすに先づ試むること  
**瀨切** [名] せきとむ。さへぎりともむ  
**赤裸** [名] あかばだか  
**積威** [名] つもる威光  
**責苦** [名] せむること。くろしむること  
**強請** [他] 強ひて請ふ。れ

**是正** [名] なほしてよくすること  
**小子** [他] 他に對して己を卑しめていふ語  
**小事** [名] 些細なる事柄  
**小路** [名] こみち  
**小氣** [名] 小膽に同じ  
**少時** [名] しばし  
**焦眉** [名] 危急に迫ること  
**焦思** [名] 氣をもむこと  
**召募** [名] よびあつむること  
**消費** [名] つかひなくする

**饒多** [名] 多きこと  
**蕭疎** [名] 木の枝などのまばらなること  
**笑止** [名] 他人の人笑ひとに思ふこと。たばらいたきこと  
**燒死** [名] やけ死ぬこと  
**燒棄** [名] やきすてること  
**精出** [自] 勉強すること  
**生育** [名] おひそだつこと  
**生擒** [名] いけどり  
**生平** [名] ふだん。いつも  
**生誕** [名] うまると

**生口** [名] いけどり  
**生計** [名] くらしのしかた  
**生産** [名] 生活を立てゆく産業。なりはひ  
**生前** [名] 生きて居るうち  
**生來** [副] うまれつき  
**青眼** [名] 己が心に合ひたる人に對する喜ぶの目付  
**青年** [名] としわか。わかもの  
**青熒** [名] あをきひかり  
**精銳** [名] 強くするとき  
**精讀** [名] こまかに讀むこと

**精巧** [名] 極めて細かに巧なる細工  
**精覈** [名] くばしくただしきこと  
**精勤** [名] 職務を勵みつとむること  
**精根** [名] 精力。根氣  
**精妙** [名] くばしくたくみなること  
**精細** [名] 手際のくばしくこまかなること  
**精神** [名] 心のほたらき。  
**精製** [名] 念を入れて作り出すこと  
**精精** [副] 力の及ぶ限り  
**精選** [名] すぐりぬくこと

**精分** [名] 精神氣力のもと  
**精密** [名] くばしくこまかなること  
**精勵** [名] よく勤め勵むこと  
**精勤** [名] よく勵みつとむること  
**精通** [名] 物事にくばしきこと  
**精練** [名] よく練りきたふること  
**正解** [名] 正しき解釋  
**正確** [名] 正しくてたしかなること  
**正鵠** [名] めあて  
**正當** [名] ただしきこと

**正道** [名] ただしき道  
**正統** [名] 正しき血統  
**成算** [名] その事に當らぬ前に胸中に成れる考  
**成績** [名] できたるあと。  
**成人** [名] おとななること  
**成業** [名] 業の成就したる  
**成丁** [名] 法律の語、成人りたるを即ち二十歳なり  
**成童** [名] 年齢の十五歳に  
**成敗** [名] 成ると敗ると

**成分** [名] 物と物と結びつたるその體中の一部分  
**成功** [名] 物事のできあがること  
**成案** [名] できあがりたる案文  
**成立** [名] なりたち  
**成績** [名] 物事をなしたるできげえ  
**清瑩** [名] きよらかなること  
**清淺** [名] 清くて淺きこと  
**清鮮** [名] きよくあざやかなること  
**清徹** [名] 清くすきとほること  
**清書** [名] 丁寧な清く書くこと

**清絶** [名] 極めて清きこと  
**清潔** [名] 清くいさぎよきこと  
**清爽** [名] さわやかなること  
**清算** [名] 勘定の仕上げ  
**清貧** [名] 誂はす食らずして貧しく世間を渡ること  
**清廉** [名] 行の潔白なること  
**清間** [名] ひまなること  
**清穆** [名] 身の安らかなること  
**聲言** [名] いひふらすこと  
**聲望** [名] ほまれ

**聲息** [名] 消息に同じ  
**聲明** [名] 言ひ明すこと  
**聲名** [名] 世間へのきこえ(セイブン)  
**聲援** [名] たすけすくふこと  
**聖恩** [名] 天皇の御恩  
**聖算** [名] 天皇の御年齢  
**聖主** [名] かしこき君主  
**聖運** [名] 天皇の御運  
**聖明** [名] 天皇のかしこく  
**聖代** [名] 聖主のしろしめす御代

**聖徳** [名] 天皇の御徳  
**聖明** [名] さとくあきらか  
**聖慮** [名] 天皇の御考  
**聖斷** [名] 天皇の御英斷  
**聖裁** [名] 天皇の御裁定  
**聖猷** [名] 天皇の御謀  
**聖恩** [名] 天皇の御恩  
**聖顔** [名] 天皇の御顔  
**晴朗** [名] ほがらかなるこ  
**星霜** [名] とし月

**星發** [名] 朝早く發するこ  
**制御** [名] 下を抑へて統べ  
**制壓** [名] おさふるこ  
**制限** [名] 定められたる限  
**制裁** [名] おさへつけて取  
**制定** [名] おきてを定むる  
**制肘** [名] 物事につきその  
**世論** [名] 世上の人の議論  
**世變** [名] 世の中の變りた  
**西陲** [名] 西のはて

**政權** [名] 政事を行ふ權力  
**政體** [名] 政事のたてかた  
**政道** [名] 政治の道  
**政策** [名] 政事上のはかり  
**政論** [名] 政事上の議論  
**整骨** [名] ほれつぎ  
**整頓** [名] ととのひまとも  
**整齊** [名] ととのふこ  
**整列** [名] ただしくならぶ  
**誓言** [名] ちかひことば

**誓書** [名] ちかひの言葉を  
**誓盟** [名] ちかひ  
**誓約** [名] ちかひて約束す  
**製造** [名] つくりこしらふ  
**製法** [名] こしらへかた  
**性質** [名] うまれつき  
**性悪** [名] 性質の悪しきこ  
**性善** [名] 性質の善なるこ  
**性格** [名] うまれつきの品  
**性癖** [名] うまれつきのく

**誠實** [名] まごころ  
**誠心** [名] 眞實の心。まご  
**誠悃** [名] まごころ  
**征伐** [名] 謀殺人を攻め討  
**征服** [名] 征伐して服従せ  
**盛衰** [名] さかんなるとお  
**盛大** [名] 極めて盛んなる  
**盛徳** [名] さかんなる徳  
**盛舉** [名] 盛んなるくはだ  
**盛装** [名] 盛んなるよそほ

**盛典** [名] 盛んなる儀式  
**盛運** [名] 盛んなる時の運  
**盛代** [名] 盛んなる代  
**靜謐** [名] 世のおだやかな  
**靜默** [名] 靜に黙して居る  
**靜養** [名] 靜に身を養ふこ  
**靜穩** [名] かなること  
**靖獻** [名] 身の分際を盡し  
**勢焰** [名] 勢力の盛んなる  
**齊等** [名] ひとしきこと

**請托** (名) たのむこと  
**壅粉** (名) こなみぢんになること  
**省察** (名) ひかりみておもひやること  
**省慮** (名) 心配をやむること  
**腥蒼** (名) なまぐさきこと 腥羶(セイダン)  
**悽愴** (名) いたみかなしむこと  
**棲息** (名) すむこと  
**逝去** (名) 死ぬることの敬語  
**税額** (名) 税のたか  
**税則** (名) 税金徴集する規則

**税法** (名) 税金を取り立つる法  
**税率** (名) 租税物件の單位に對して賦課する税の割合  
**贅物** (名) 無益なるもの  
**贅澤** (名) 無益のおごり  
**贅言** (名) 無用の言葉  
**贅辯** (名) 無用のべん  
**噬嚙** (名) かむこと  
**競合** (名) 自きそひ合ふ  
**競賣** (名) 買人に價をきそへたるものに賣ること  
**高き價を唱へたるものに賣ること**

**競上** (他) 競争して價を高くす  
**迫上** (他) せまりて押上ぐ  
**迫込** (他) せまりて入り込む  
**迫出** (名) せりだすこと。舞臺へせりだすこと  
**迫立** (他) うながしせまる  
**迫詰** (他) せまりてなじる  
**困苦** (形) つかれてくるし  
**噪急** (名) 心のおちつかぬこと  
**折衷** (名) 取捨してよきほどをとること  
**折角** (副) ほねをりて。つとめて

**折檻** (名) 責めこらすこと  
**折半** (名) 半分わけにする  
**雪景** (名) 雪のけしき  
**雪天** (名) ゆきのそら  
**切開** (名) きりひらくこと  
**切望** (名) 連に希望すること  
**切諫** (名) 強く諫むること  
**切斷** (名) たちきること  
**切迫** (名) おしせまること  
**切腹** (名) 腹を切ること

**接戦** (名) てづめの戦  
**接續** (名) つづくこと。つなぐこと  
**接吻** (名) 唇と唇とを合せて相吸ふこと  
**接手** (名) 受け取ること  
**接待** (名) 客をもてなすこと  
**接近** (名) ちかづくこと  
**接見** (名) 對面に同じ  
**接伴** (名) 相伴に同じ  
**節儉** (名) 儉約に同じ  
**節減** (名) つづまやかにしつて入費をへらすこと

**節操** (名) みさを  
**節制** (名) ひかへめにする  
**節節** (副) ナリナリに同じ  
**節目** (名) 箇條に同じ  
**節用** (名) 費用をつづむること。節約(セツヤク)  
**拙工** (名) つたなきしわざ  
**拙者** (代) 他に對してわが身の謙稱  
**拙寓** (名) 己が住居の謙稱  
**拙作** (名) 己が作れる詩歌文章などの謙稱  
**拙筆** (名) つたなき筆跡。己が書の謙稱

**拙著** [名] 己が著述の謙稱  
**拙論** [名] つたなき議論  
**拙劣** [名] つたなくおとれ  
**拙陋** [名] 拙劣に同じ  
**拙速** [名] つたなげなれど  
**拙策** [名] つたなき謀  
**竊取** [名] めすみとること  
**攝生** [名] 養生をなすこと  
**攝行** [名] 兼れて行ふこと  
**說得** [名] 説き論して得心  
 さすること

**說明** [名] ときのついでのこと  
**說服** [名] としつゝいさすこと  
**說法** [名] 宗旨を信者に説  
 き明すこと。人  
**設立** [名] まうけたること  
**設計** [名] たくむこと  
**殺害** [名] ころすこと  
**絶崖** [名] きりたちたるき  
**絶交** [名] 交際を絶つこと  
**絶景** [名] 極めて好き景色  
**絶世** [名] 世にたちまさり  
 たること

**絶對** [名] 他と相對せぬこ  
 事ものなきこと  
**絶代** [名] 世に二つとなき  
 こと  
**絶大** [名] 極めて大なるこ  
 と  
**絶倒** [名] 倒れんとするば  
 かりに大笑ひす  
**絶望** [名] 失望に同じ  
**絶版** [名] 版木を毀ちて摺  
 出しを廢すること  
**絶念** [名] 思ひ切るること  
**絶叫** [名] はなはだしくさ  
 げぶること  
**絶筆** [名] 筆を絶ちて書き  
 止むること。死  
 際に書きたる筆跡

**絶命** [名] 命の絶ゆること  
**絶倫** [名] ひとり同類より  
 ぬきんでたるも  
**絶麗** [名] すぐれてうるは  
 しきこと  
**絶域** [名] 極めて遠く離れ  
 たる國  
**絶縁** [名] 縁を絶つこと  
**絶等** [名] 極めて好くて他  
 に比ぶべきもの  
**絶息** [名] 氣息の絶ゆるこ  
 と  
**絶滅** [名] たえほるぶるこ  
 と  
**絶妙** [名] すぐれて如なる  
 こと  
**媒近** [名] なれちかづくこ  
 と

**媒贖** [名] なれけがすこと  
**舌争** [名] 言葉争名し  
**舌耕** [名] しやべること  
**舌論** [名] くらあらしひ  
**詮術** [名] なすべきしかた  
**漸次** [名] だいに。だん  
 だんに  
**專要** [名] 極めて要とする  
 ところ  
**專制** [名] 政體に君主の意  
 のままに政事を  
 行ふこと  
**專斷** [名] 一人にて専ら決  
 断すること。ほ  
 しひままに取  
**專賣** [名] その人の手にて  
 のみうるこ

**專修** [名] ひとすぢに修む  
 ること  
**專門** [名] 一つの事を専ら  
 にすること  
**專横** [名] 我まま勝手なる  
 こと  
**專攻** [名] 一つの事を専ら  
 治むること  
**專念** [名] 一筋に思ひ込む  
 こと  
**專任** [名] 専らにまかせら  
 れたること  
**專心** [名] 心を專にするこ  
 と  
**專有** [名] 一人の手に所有  
 すること  
**纖細** [名] こまやかなるこ  
 と  
**纖手** [名] 細き手

織密 (名) くぼしくこまか  
なるを織悉(セ  
ンシツ)

專業 (名) 専らに營む業

遷延 (名) のびのびになる  
こと

遷幸 (名) 天皇の都をうつ  
し給ふこと

遷謫 (名) さすらふこと。  
おひやらるるこ

潜幸 (名) 忍びての御幸

潜行 (名) しのびあるき

潜藏 (名) ひそめかくすこ  
と

潜匿 (名) ひそむること

潜伏 (名) ひそみ居ること  
潜居(センキヨ)

先覺 (名) 他人より先にさ  
とれること

先見 (名) 事に先立ちて考  
へつくみこみ

先刻 (副) さきほど

先進 (名) 學問官途などに  
先に進める人

先生 (名) すべて技藝に長  
けたる人の尊稱

先前 (名) まへかた

先導 (名) さきだちて導す  
ること

先登 (名) 戦に第一番に敵  
城に乗り入ると

先陣 (名) さきぞなへ

先哲 (名) 先輩のかしこき  
人

先天 (名) 生れぬさき。う  
まれつき

先般 (副) さきごろ

先入 (名) 先に心に入りた  
ること

先番 (名) 先きになすべき  
番にあたること

先約 (名) 前の約束

先便 (名) 先きありたち音  
づれ

先例 (名) さきざきよりの  
しきたり

先鞭 (名) 人に先だちて事  
をなすること

占有 (名) ひとりじめ

占得 (名) しめうるること

占據 (名) しめとること

占斷 (名) うらなひて定む  
ること

鮮好 (名) あざやかなるこ  
と

鮮潔 (名) あざやかにきよ  
きこと

鮮明 (名) あざやかなるこ  
と

鮮艷 (名) すくなきこと

鮮麗 (名) あざやかにうる  
はきこと

戰功 (名) 戦争の手柄

戰國 (名) 世みだれて國國  
に絶えず戦争の  
あること

戰端 (名) 戦のはじまり

戰敗 (名) 戦にまけること

戰報 (名) 戦の様子を報告  
すること

戰沒 (名) 戦死に同じ

戰亂 (名) 戦のみだれ

戰法 (名) 戦のしかた

戰役 (名) たたかひ

戰慄 (名) ふるひおそるゝ  
こと

淺學 (名) あさやかなる學  
問

淺見 (名) あさやかなる意  
見

淺深 (名) あさきとふかき  
こと

淺短 (名) あさやかなるこ  
と

淺薄 (名) あさやかなるこ  
と

淺慮 (名) あさやかなる考  
え

選舉 (名) 人を撰び擧げて  
役につかしむこと

選擇 (名) えらぶこと

選抜 (名) えりぬくと

選任 (名) えらびて役に任  
ずること

煽惑 (名) そのかすこと  
おだつること

煽動 (名) おだつること

瞻仰 (名) あふきみること



**瞻望** [名] みわたすこと  
**瞻給** [名] めぐみにぎはすこと  
**宣告** [名] 裁判の言渡し  
**宣誓** [名] ちかひ  
**宣戦** [名] 開戦すべき理由を況く天下に告ぐること  
**宣言** [名] いひふらすこと  
**剪截** [名] はさみきること  
**剪断** [名] たうきること  
**剪伐** [名] きりばらふこと  
**洗濯** [名] あらひそそぐこと

**洗滌** [名] あらひそそぐこと  
**洗除** [名] あらひのぞくこと  
**洗足** [名] 汚れたる足を洗ふこと  
**僭越** [名] 身の分を越えて事を行ふこと  
**擅行** [名] きままに事を行ふこと  
**譎劣** [名] 學問などのあさはかに劣れること  
**施轉** [名] ぐるぐるとまはるること  
**薦引** [名] すすめいざなふこと  
**踐行** [名] 實地に行ふこと  
**銓衡** [名] しらべはかること

**儉巧** [名] 心のよこしまなること  
**染筆** [名] 物書くこと  
**穿鑿** [名] たづねもとむること  
**舛錯** [名] あやまり  
**霑濕** [名] うるほうと  
**羨望** [名] うらやむこと  
**阡陌** [名] 縦横の路  
**餞別** [名] はなむけ  
**嬋約** [名] あでやかなること  
**千萬** [接] 名詞に添えて甚しきなどの意を示す語

**全國** [名] 國の中のこらす  
**全數** [名] のこらすの數  
**全形** [名] 物の形のこらす  
**全通** [名] のこるところなく通すること  
**尠少** [名] すくなきこと  
**全敗** [名] まるまけ  
**全盛** [名] 極めて盛なること  
**全體** [副] もとより。もと  
**全然** [副] まつたく。すべて  
**全滅** [名] のこらすほろぶること

**全免** [名] すべてをゆるすこと  
**前進** [名] 前へ進むこと  
**前世** [名] まへの世  
**前程** [名] 旅路のゆくさきゆくすゑ。未來  
**前提** [名] 議論の基となる初めの文句  
**前兆** [名] 事の起るきざし  
**善謀** [名] よきはかりこと  
**善隣** [名] 隣國と親しむこと  
**善惡** [名] 善と惡と  
**善果** [名] 善き行のむくひ

**善言** [名] よきことば  
**善根** [名] 善景を受くべき所業善業(センゴフ)  
**善心** [名] よき心  
**漸進** [名] 次第に進むこと  
**急込** [自] いらだつ  
**急立** [他] うながす。いそがす  
**塞上** [自] むせかへりて泣く  
**石心** [名] かたき心  
**赤心** [名] まごころ  
**赤手** [名] 手に何も持たぬこと。からで

赤貧 [名] 極めてまづしき  
 赤面 [名] 恥ぢて顔を赤む  
 赤誠 [名] まごころ  
 赤族 [名] 一族を悉く散す  
 積年 [名] 年を積むこと  
 積聚 [名] つみかさねこと  
 積善 [名] 善行を積みかさねること  
 積悪 [名] 悪行をつみかさねること  
 積怨 [名] かさなるうらみ  
 積徳 [名] 徳を積みかさねること

積弊 [名] つもれる弊害  
 尺寸 [名] いささかなること  
 責任 [名] 引受けて務むべし  
 席卷 [名] 他を征服する如く  
 斥候 [名] ものみ  
 籍甚 [名] 評判の高きこと  
 積習 [名] 久しき間のならし  
 施行 [名] 物を施すと  
 喘急 [名] いきせばしきこと  
 性急 [名] 氣短くいそぐこと

責付 [他] いそがす。催促  
 捷徑 [名] ちかみち。はや  
 捷聞 [名] ちかみち。はや  
 捷報 [名] 戦に勝ちたるし  
 妾服 [名] めかけの生みたる子  
 妾宅 [名] めかけの住む家  
 小宴 [名] こざかもり  
 小康 [名] 世の少し穩かなること  
 小身 [名] 身分の卑き人  
 小人 [名] 無智の民。心狭く邪なる人

小成 [名] 物事の少し出来上りたること  
 小説 [名] 虚實を取雜せて戯作せる讀本  
 小心 [名] 心の小なること  
 小戦 [名] 烈しからぬ戦  
 小國 [名] ちひさきくに  
 小膽 [名] 氣のちひさきこと  
 小熱 [名] すこしの熱氣  
 小祿 [名] すくなき祿  
 少壯 [名] としわか  
 少憩 [名] しばらくいこふこと

少數 [名] すくなき數  
 少焉 [副] しばらく。少選  
 消閑 [名] ひまをつぶすこと  
 消化 [名] 食物の胃中にてよくこなれること  
 消散 [名] きえてなくなる  
 消息 [名] おとづれ。たよ  
 消毒 [名] 毒を除くこと  
 消防 [名] 火を消すと  
 消滅 [名] 消えて滅すること  
 消耗 [名] つかひてなくなること

消遣 [名] 氣晴しすること  
 召集 [名] よびあつむこと  
 照應 [名] 前と後と相應すること  
 照合 [名] てらしあはすこと  
 照映 [名] てらしみること  
 昭鑑 [名] てらしみること  
 昭覽 [名] 明かに見給ふこと  
 昭代 [名] 文化の開けたる世  
 昭穆 [名] 支那にて宗廟の配列の序次にいふ語として配列す  
 燒香 [名] 香をたくこと。佛にすすむこと

焼失 [名] やけてなくなる

焼點 [名] 光線又は熱の一點にあつたりたるところ。すべてめあてとなること

紹介 [名] ひきあはせ。な

紹績 [名] つぐこと

抄寫 [名] ぬきがき。かき

抄録 [名] ぬきがきするもの

抄譯 [名] ぬきがきして翻譯すること

招聘 [名] まれきたのむこと

招魂 [名] 死者の靈を招きて祭ること

招待 [名] 客などを招きて待ち受くること

招請 [名] 客などを請ひ招くこと

焦慮 [名] 思を焦すこと。心配すること

笑納 [名] 笑ひて受け納むること

笑覽 [名] 笑ひて見ること

笑談 [名] 笑ひながら話すこと。たばむれていふはなし

詔書 [名] みことのりのかきもの

詔令 [名] みことのり

逍遙 [名] 氣晴しに遊びあはるること

霄漢 [名] おほそら

蕭瑟 [名] ものさびしきこと

瀟洒 [名] さつぱりとしたること

嘯聚 [名] よびあつむること

憔悴 [名] やせおとろふること。やつると

饒舌 [名] おしやべり

俏扮 [名] 身ごしらへすること

噍類 [名] いきもの。人畜

囁嚅 [名] おしやべり

涉獵 [名] ひろくわたること

制聲 [名] 貴人の通行の時路行人を警む聲

勢揃 [名] 軍勢を集め揃ふること

青青 [副] あをあをと

正正 [副] 正しき状にいふ

正直 [名] 心所の直く正しきこと

棲棲 [副] 安からぬ状にいふ語

清清 [副] さわやかに心よく

清淑 [名] きよらかなること

清聽 [名] 他の聽くこと。敬語

清涼 [名] 清くすずしきこと

整整 [副] よくそろひて。整然

井然 [副] ただしくそろひ

悽然 [副] ものさびしく

萋萋 [副] 草の茂れる状にいふ語

生獲 [名] いけどること

生活 [名] 生きてはたらくこと。すきはひ。

生殖 [名] 生物の種屬を繁殖し行くべきは

請願 [名] こひねがふこと

成長 [名] 育ちあがること

盛會 [名] 盛んなる會合

盛觀 [名] 盛んなる見物

盛況 [名] 盛んなる景況

盛昌 [名] さかんなること

政略 [名] 政治の上のかけひき

精力 [名] 根氣に同じ

精良 [名] 極めてよきこと

靜肅 [名] 言行の靜かにて騒しからぬこと

盛熟 [名] よく熟すること

製出 [名] つくり出すこと

旌彰 [名] 人の善行などを世にあらはし示すこと

省略 [名] はぶくこと

勢力 [名] いきほひ

**脆弱** (名) もろくてよばきこと  
**誠忠** (名) 忠義一途なること  
**誠惶** (名) まことにおそるること誠恐(セキヨウ)  
**呀喘** (副) 類にむせぶ状にいふ語  
**切切** (副) れんごろに  
**浙瀝** (副) 雨の滴る状にいふ語  
**接着** (名) つづくこと  
**接觸** (名) ふるること  
**接壤** (名) 他の土地とつづきてあること  
**折傷** (名) くちぎいたむこと

**折衝** (名) 敵のほこさきをくちくこと  
**折辱** (名) はすかしむること  
**設色** (名) いろどること  
**絶食** (名) 食物を絶つこと  
**煎詰** (他) 水気のなくなること終局まで論じつむ  
**先達** (副) さきごろ  
**潺湲** (副) 水の流るる状にいふ語潺湲(セ)  
**嬋娟** (副) 容貌のうつくしき状にいふ語  
**閃閃** (副) きらきらと  
**戰戰** (副) 震ひ恐るる状にいふ語

**漸漸** (副) やうやくに。次第次第に  
**蠕蠕** (副) 虫などのうごめく状にいふ語  
**苒苒** (副) 草の盛んなる状にいふ語  
**戰競** (名) ふるひおそるること  
**選出** (名) えらび出すこと  
**選外** (名) 選びに外れたるもの  
**撰述** (名) 書物をあらはすこと  
**纖弱** (名) かよわきこと  
**占領** (名) 總てわがものとすること  
**占領** (名) うばひとることしめとること

**全快** (名) 病の全く癒ること  
**全力** (名) あらん限りの力  
**前借** (名) まへがり  
**前述** (名) 前に述べたること  
**善良** (名) 正直に温順に  
**咳嗽** (名) せきを發すること  
**寂寂** (名) ものさびしき状態(セキセント)寂莫(セキバクト)  
**戚戚** (名) 憂ふる形にいふ語  
**斥攘** (名) しりぞくること  
**責殺** (他) せまりて殺す

**少少** (副) すこし  
**少量** (名) いささかなる分量  
**消光** (名) 月日を送ること  
**消却** (名) けすこと。費すこと。返すこと  
**消長** (名) のびちぢみ  
**照會** (名) とひあはせ。かけあひ  
**照準** (名) てらしあはするめあて  
**照管** (名) てらしあはせてしらぶること  
**召喚** (名) よびいだすこと  
**責詰** (他) せまりてなじる

**政事向** (名) 政治に關すること  
**世智辛** (形) 世渡りかたきこと  
**世間並** (名) ひととほり  
**紹述** (名) 先祖の志をつぎて事を述ぶること  
**抄略** (名) かすめとること  
**抄出** (名) 書物の中より書き抜くこと  
**峭直** (名) きびしくますぐなること  
**譙讓** (名) 責むること  
**霄壤** (名) 天地に同じ  
**昭昭** (副) あきらかなる状態(セウセント)昭然

**小食** [名] 物食ふ量の少きこと  
**蕭條** [副] ものさびしくし (セウセウト) 蕭然 (セウセント)

**擾擾** [副] さわがしき状にいふ語  
**所詮** [接] 理を推して明らかにせむるに。しよせ

**呵責** [他] しっかりつつ責む  
**嘲笑** [名] あざけり笑ふこと

**切羽詰** [自] もはや施すべからざるなり  
**無詮方** [形] なすべきやせんかたなし

**全速力** [名] あらん限りの力

**無詮術** [形] なすべきやせんかたなし  
**絶體絶命** [名] ゆきつなすべき手術なきこと

**戰戰兢兢** [副] 恐れへて  
**千客萬來** [名] 客の多引續きて來ること

**千差萬別** [名] 種種様異なること  
**千秋萬歲** [名] 千萬年續くと

**千辛萬苦** [名] あまたの辛苦  
**千萬無量** [名] 何程とも量り知られぬこと。限りなきこと

**千變萬化** [名] いろいろいなること  
**千篇一律** [名] 物の同變化なきこと

**千慮一失** [名] 多くの中にてたまたま失策すること  
**前代未聞** [名] 前の世にその物事のありたることをきかぬこと

【す】  
**素** [接] 物事の被す飾らずあ語。うぶの。たまなるにいふの意として罵るに用ふる語

**爲** [他] なす。行ふ  
**令** [助] しむ。さす

**不** [助] 打消しの意をあらはすもの  
**數** [接] 物事のあまたある意を示す語

**粹** [名] 雜りなきこと。精しきこと。洒落にて花柳情に通すること。特に花柳界の事情に通すること

**術** [名] すべき手段。しかた  
**摩** [他] 擦の字も用ふ。物と物とを強く觸れしむ

**碾** [他] 磨臼にて物を碎きて粉にする  
**耗** [他] 用ひ盡す。費し果す

**摺** [他] 版木に墨などをうつして紙にこすりてうつしとる  
**剃** [他] ソルの轉訛

**爲** [他] スの變化  
**令** [助] スの變化

**滑** [自] すべるやうにしてうつりゆく  
**尙** [辭] なほ。やはり。にてさへ

**住** [自] 居處を定めて居る  
**澄** [自] 清の字を用ふ。清くなる。濁りなくなる

**据** [他] すわらしむ。置き定む  
**數** [接] 物事の數の分川ならざるに用ふ

**好** [他] このむ。嗜む。色を好む  
**鋤** [他] 鋤にて土を掘り返す

**漉** [他] 紙を製す  
**梳** [他] 髪をかきて櫛の齒にとほす

**結** [他] 絲にて綱を結び作る  
**透** [自] 物にすきま生ず。うつりとほる。まばらになる。ひまになる

**助** [名] 助くること。手傳ひ  
**助** [他] タスクに同じ

**過** [自] 通り行く。越えて行く。移り行く。過去となる。まさる。すぎる。程を超ゆ。度に餘る

**着** [他] さしこむ。はめこむ  
**直** [副] ただちに。まもなく

**吸** (他) 物を口へ引き入る

**統** (他) 總の字も用ふ。ひと  
せあつむ。支配す

**末** (名) 行末。をほり。子孫

**好** (名) このみ

**酸** (自) 飲食物腐りて酸くな  
る

**酸** (形) 酢の如き味あり

**數度** (副) たびたび

**拗戾** (他) 我意を張りて他  
に從はず

**怠慢** (名) するきこと

**素手** (名) 手に何物も持た  
ぬこと

**澄** (他) 水を觸りなくならし  
む。まじめなる顔つ  
きをなす

**濟** (他) 事をなし終ふ。遂ぐ。  
しほたす

**少** (副) 多くの反。わづかに  
いささか

**凄** (形) 恐ろしく氣味わるし

**既** (副) 已の字をも用ふ。早  
くより。前より。と  
もはや

**遊** (名) ながさみ。遊びこと

**解** (名) 解化せずして巢の中  
に残れる卵

**濯** (他) 水にて洗ひ清む。清  
くならず。汚名をさる

**涼** (形) 程よく冷かなり。輕  
く寒し。清らかなり

**數奇** (名) 風流文雅の技。  
特に茶會の技に  
心を寄すること

**推** (他) おしはかる。推量

**窄** (自) 末の方次第に細くな  
る

**滑** (自) なめらかに行く。と  
どほりなく走り行

**總** (副) 統。都。渾などの字  
を用ふ。残らずの字  
總じて。おしなべて

**坐** (自) 膝を折り曲げて席に  
おちつく

**透** (他) すくやうになす。み  
とほす

**賺** (名) 欺き誘ふ。たぶらか  
す。慰めなだむ

**姿** (名) おもむき。ありさま

**吵** (名) 片日常の如くならぬ  
もの。めづかし

**進** (自) 退くの反。さきへさき  
へと出づ。いさむ。

**勸** (他) 奨の字も用ふ。他を  
論してせさす。うな  
まゐらす。たてまつる

**薦** (他) 採り用ひらるるやう  
にす。取り持つ

**吸** (他) 氣息を内にひきて吸  
ひ込む

**水利** (名) 水を通すこと。  
みづはげ

**水路** (名) 船の行き通ふ路

**醉裏** (名) 醉中に同じ

**醉舞** (名) 醉て舞ふこと

**炊事** (名) 飯を炊くこと

**絶** (自) とりつく。頼りとし  
てとりつく

**廢** (自) 捨てらる。不用とな  
る

**摩** (自) 世馴れて狡猾になる

**直** (副) なほく。ゆがみなく  
眞直に。ただちに。

**救** (他) 濟、拯の字をも用ふ。  
力を添えて難を免れ

**抄** (他) しゃくふ。かきさら

**巢** (他) 鳥巢を構ふ

**竦** (自) かがみて動かす。ち  
ぢみて屈む

**選** (他) 數多の内よりその善  
きを取る

**勝** (他) 他に超ゆ。まさる。

**推理** (名) 道理を推して考  
ふること

**推歩** (名) 數へて推し測る  
こと

**推移** (名) 押し移ること

**垂示** (名) 告示に同じ

**衰微** (名) おとろへてかす  
かになること

**翠微** (名) すすかす遠方に  
見ゆる山を形容  
していふ

**睡魔** (名) れむけを催すこ  
と

**揣摩** (名) おしはかること

**出師** (名) 軍隊をくり出す  
こと

**綏撫** (名) やすんじしづむ  
ること

**遂志** [名] 志をとぐること  
**遂事** [名] 事をとぐること  
**隨喜** [名] ありがたがること  
**隨時** [名] をりをり。ときどき  
**隨意** [名] こころまかせ  
**瑞夢** [名] めでたきゆめ  
**瑞氣** [名] めでたき氣  
**素肌** [名] 衣なく肌のまま  
**驚破** [名] スハに感嘆辭の者  
**數人** [名] 多くの入

**放縱** [名] 物事にしまりなきこと  
**筋目** [名] すぢみちに同じ家  
**怠慢** [形] 務むべきことをつとめず  
**狡猾** [形] わるがしこし  
**末枯** [自] 末になりて盡きんとす。消えん  
**巢立** [自] 鳥の子生長してすより飛びたつ  
**摩目** [名] すれ損じたるあ  
**寸暇** [名] すこしの暇  
**寸志** [名] いささかの志  
**寸地** [名] 少しの土地。寸土(スンド)

**寸步** [名] すこしのおゆみ  
**樞機** [名] 物事のかなめのところ  
**透間** [名] すきたる間。忘るをり  
**透見** [名] 物のすきまより窺ふ  
**住處** [名] すむところ  
**納涼** [自] 暑さを避んとて身を涼しき空氣にあつ  
**索引** [名] 弓術の稽古などで弓の弦のみ引くこと  
**素面** [名] 假面などをかぶはぬ時の顔  
**素足** [名] 履物をはかぬ足

**素直** [名] 柔和にて人に逆らぬこと  
**素乾** [名] 日にも火にも當てずして乾すこと  
**銳** [形] 又、利くあり。勢はげし。たけし。さとし  
**即** [名] とりもなほさず。改めず。そのままに  
**漁** [他] 魚を求めて取る  
**廢** [他] スタルの訛  
**頗** [副] すこし。やや。はなはだ  
**水害** [名] 洪水いわざわひ  
**水瀉** [名] 水をそそぐが如く下痢すること  
**水勢** [名] 水の流るる勢

**水戦** [名] ふないくさ  
**水族** [名] 水に産する魚貝の類  
**水練** [名] およぎ  
**水濱** [名] 水のほとり  
**水泳** [名] 水をおよぐこと  
**水涯** [名] 水のほとり  
**水防** [名] 出水を防ぐこと  
**推考** [名] 推しはかりて考ふること  
**推敲** [名] 詩文を作るにさまたまに考へ練ること  
**推覈** [名] 推しはかりしらふること

**推定** [名] おし量り定むること  
**推薦** [名] 吹擧を見よ  
**推察** [名] おしはかること  
**推參** [名] われより推してまねり訪ふこと  
**推遷** [名] おしうつること  
**推測** [名] おしはかること  
**推尊** [名] 推しただき尊ぶこと  
**推戴** [名] おしただきと  
**推問** [名] 道理を推して問ふこと  
**推論** [名] 理を推して論ずること

**推度** [名] 推しはかること  
**酔眼** [名] 酒に酔ひたる時  
**酔臥** [名] 酒に酔ひて臥す  
**酔態** [名] 酒によひたる有様  
**酔倒** [名] 酒に酔ひて倒れ  
**醉吟** [名] 酒に酔ひて詩を吟ずること  
**衰世** [名] 衰へたる世  
**衰頹** [名] 衰へ行くこと  
**衰運** [名] 衰へたる運命  
**衰耗** [名] おとろふること

**衰老** [名] 年老ひて衰ふる  
**衰耄** [名] おいぼると  
**垂憐** [名] あはれと思ふと  
**垂涎** [名] よだれをだすこと  
**出納** [名] 金銭の出し入れ  
**吹擧** [名] 推擧とも書す。人を官途にすすむること  
**睡眠** [名] れむること  
**遂行** [名] 事を行ひ遂げる  
**炊烟** [名] にたきする爲か  
**炊爨** [名] 飯を炊くこと

**隨一** [名] 物事の第一。物  
**隨行** [名] 後に隨ひて行く  
**隨分** [副] 分際に従ひて。分相應に  
**隨伴** [名] つき従ふこと  
**瑞相** [名] めでたきさざし  
**瑞驗** [名] めでたきしるし  
**索性** [名] 血すぢの來歴  
**素早** [形] 手早し。氣轉は  
**素話** [名] 酒食なくしてす  
**素戾** [名] 用事を果さずして空く歸り來ること

**素通** [名] 立寄らずにその前を通り過ぐこと  
**筋合** [名] 事の趣き。事の條理  
**筋道** [名] 事の道理  
**磨出** [他] 磨りみかきて外面に現す  
**摩替** [他] ひそかにこれとあれとを取替ふ  
**摺出** [他] 印刷して世に出す  
**掏取** [他] すりて他の物を盗みとる  
**摩合** [自] 互にこするやう  
**悉皆** [副] ことごとく。全  
**一齊** [形] 連なり並ぶさま

**寸切** [名] 眞直に断ち切る  
**寸陰** [名] しばしのひま  
**寸毫** [名] 極めてわづかな  
**寸閑** [名] 寸暇に同じ  
**寸功** [名] すこしのでがら  
**寸刻** [名] 寸時に同じ  
**寸隙** [名] 少しのすき間  
**寸心** [名] 寸志に同じ  
**寸斷** [名] きれきれに切る  
**寸分** [副] 少しも。いささ

**寸進** [名] 少し進むこと  
**樞密** [名] 物事のかなめに  
**樞要** [名] 物事のかなめな  
**趨拜** [名] 赴きて拜すること  
**趨勢** [名] 走り行く勢  
**崇拜** [名] あがむること。尊び拜むこと  
**据置** [他] すゑておく。そのままにして置  
**据付** [他] 据ゑ定む  
**捨鞭** [名] 馬に乗りて逃ぐる時早く走らせんと鞭うつこと  
**素敵** [副] 非常に。甚だし



**荒涼** [形] 物すこし。おそ  
**漉出** [他] すきて紙となす  
**好好** [名] おのおのすきこ  
**生業** [名] 世わたりのしわ  
**隅隅** [副] この隅かしこ  
**住込** [自] 奉公の口にあり  
**住着** [自] 住みか定りてお  
**住馴** [自] 住みてその地に  
**鈴生** [名] 果實など神樂鈴  
**滑** [形] なめらかなり

**須** [副] 豫めなすべき方法を  
**速** [副] 極めて早く  
**健** [副] 身體にさはるとなく  
**滑** [他] すべらす  
**推讓** [名] おしゆつること  
**推稱** [名] ほむること  
**推重** [名] 推し重んずること  
**推量** [名] おしはかること  
**垂拱** [名] 何事もせずして  
**醉狂** [名] 酔ふて狂すること

**醉中** [名] 酔ひてある間  
**衰弱** [名] おとろへよわる  
**粹狂** [名] ものすき  
**隨從** [名] したがふこと  
**隨性** [名] 生れつきての運  
**隨所** [副] 至るところ。い  
**摩拔** [他] 衆人雑沓の中に  
**磨碎** [他] すりて碎く  
**磨研** [他] すりてみがく  
**播潰** [他] すりて細末にす

**透彫** [名] 刻物の細工に表  
**清清** [形] さわやかなり  
**廢物** [名] すたりて不用と  
**寸寸** [副] きれきれに  
**摩枯** [名] 人すれて悪しく  
**砂烟** [名] 馬蹄などのため  
**捨詞** [名] 去る時言ひ放し  
**透寫** [名] 薄き紙を書畫の  
**啜泣** [自] 鼻汁をすすりて

**透通** [自] 物より透きて向  
**漉返** [他] 古紙を洗ひ溶し  
**煤拂** [名] 歳の暮に家の内  
**進出** [自] 進みて前の方へ  
**素寒貧** [名] 極めて貧し  
**素破抜** [他] ダシマクに  
**數珠繫** [名] 数珠の球を  
**末始終** [副] 末の末まで  
**醉生夢死** [名] 徒に徒

**寸善尺魔** [名] 善事は  
**水蒸氣** [名] 水の日の熱  
**水平線** [名] 海面と天と

# 物名

【いぬ】

猪いのしし [博] ぬのしし

藺いん [博] 野の濕地に生ず刈りて蓆又笠などに編む

岩いす [博] 石の大なるもの

庵いほ [住] 草木を結びて作れる假住居

家いえ [住] 人の住む建物

院いん [住] 官の建物

井戸いど [雑] 天地門を看よ

衣架いか [器] 衣をかくる道具

居間いま [住] 平生起き臥する室

椅子いす [器] 腰をかくる具

烏賊いか [動] 海産の動物

鰯いな [博] 魚の名(ぼら)の小さなもの

稻いね [博] 米の實る草

薯いも [食] 薯類の總稱

圍碁いご [器] 碁を打つこと

筏いかだ [雑] 多くの木又は竹を組み合せ舟の如く水に組んで運ぶもの

碇いかり [器] 水中に沈めて舟のまを止とするもの

葺いらか [器] 屋根に葺く瓦

籩いげす [雑] 食用に供する魚を生けて畜ひ置くところ

醫院いげん [住] 病人を治療するに設けたる家

色繪いろま [雑] 彩色を施したる繪

岩屋いはや [住] 岩石を穿て作りたる家

位牌いはい [雑] 死者の諡を記して祀る木札

市場いちば [雑] 人の集まりて物を賣買する場所

衣類いるい [衣] 衣物

鑄型いそがた [器] 金屬にて物の形を鑄る時その液を注ぎ入るる具

板屋いたや [住] 板葺屋根の家

銀杏いんげん [博] 植物の一種。ぎんなんの樹

入籠いれこ [器] 匣文庫など一つのもの組合せるやうに造れるもの

遺物いぶつ [雑] かつみのもの

衣桁いかた [器] 衣服をかけ置く道具

鑄物いそもの [器] 金屬を鑄かし鑄形に入れて造りたるもの

鷓いさか [博] 鳥の名

鷓いさか [博] 鳥の名

鷓いさか [博] 鳥の名

莓いちご [博] 果の名

蝗いせむし [博] 稻に付く虫

稻荷いなり [雑] 神の名

巖いはは [博] 大なる岩

茨いばら [博] 刺ある木の總稱

鰯いし [博] 魚の一種

井桁いげた [雑] 井戸の椽を方形に組みたるもの

井筒いづつ [雑] 井戸の椽の圓きもの

家苞いへづと [雑] 家へのみやげ

絲入いといり [雑] 木綿糸に絹糸を交ぜ入れて織りたる布

絲織いとおり [雑] 絹のより絲にて織たる織物の名

絲卷いとまき [器] 糸を巻くもの

入船いりふね [雑] 港に乗り入る船

煎鍋いりなべ [器] 食物を煎るに用ふる鍋

煎豆いりまめ [食] 煎りたる豆

熬酒いりざけ [食] 醬油、鯉節、鹽などを古酒に加へて煮つめたるもの

板垣いたがき [雑] 板にて作れる垣

板槽いたかす [食] 板の如くしたる酒槽

板金いたがね [器] 金屬のべの板

板敷いたじき [雑] 床を板張りにしたるところ

板付いたづけ [器] 薄板を打付けるに用ふる釘

板間いたま [住] 板敷の間

**板橋** (雑) 板にて造れる橋  
**入物** (器) 物を入るる器の總名  
**稻扱** (器) 稻の穂を扱きとる具  
**印鑑** (器) 印形の見本。印を押したる手形  
**印材** (器) 印を彫刻する材料の器物  
**印肉** (雑) 印を押すに用ふるもの  
**印籠** (器) 小さき匣、初は今は薬を蓄ふ  
**衣冠** (衣) 衣と冠と  
**生垣** (雑) 立木を垣としたるもの  
**生花** (博) 花瓶に活けたる草木の花

**石臼** (器) 石にて造れる臼  
**石倉** (住) 石にて造れる倉  
**石灰** (博) 石灰石を焼きて粉末とせしもの  
**幽霊** (雑) 死人の霊、亡きの形に現はれて見ゆるもの  
**毬栗** (博) 栗の實、毬に包まれてあるもの  
**漁火** (雑) 漁獵に用ゆる炬火  
**衣裳** (衣) 俳優の伎を行ふ時に用ゆる衣服  
**市樂** (衣) 織物の名  
**飯蛸** (博) 海産の動物、蛸に飯粒の如きものあり

**疣鯛** (博) 鯛の一種  
**猪** (博) 「ぬ」に同じ  
**絲車** (器) 糸を繰り又よりる車  
**烏賊幟** (雑) 風のこと  
**碇綱** (器) 碇を付くる繩。又鎖をも用ふる  
**板圍** (雑) 板にて造りたる屏  
**伊丹酒** (食) 攝津の伊丹より産す酒  
**撓革** (雑) 練り固めて厚くしたる革  
**稻荷鮓** (食) スシ飯を、ラゲの中に入れてたるもの

**育兒院** (雑) 孤兒又は貧れて養育するところ  
**無花果** (博) 果の名  
**今戸焼** (器) 東京今戸の陶器  
**煎豆腐** (食) 豆腐を煎りたるもの  
**岩緑青** (雑) 緑青にて白色を帯びたる繪の具  
**一絃琴** (器) 絃一筋ある琴の稱。須磨琴  
**一膳飯** (食) 一膳づつ賣る飯  
**一本橋** (雑) 一本の木を渡したる橋

**田舎汁粉** (食) あんし汁粉  
**一閑張** (器) 紙を張りたる机其他の器具  
**磯馴松** (植) 略して「そとも云ふ、磯邊の松」  
**友禪染** (衣) 染模様の一種、彩色にて人物、花鳥等の模様を絹帛に染出す  
**郵便局** (雑) 書状其他の事務を取扱ふ所  
**隠居所** (雑) 隠居したるする家、隠宅に同じ  
**隠元豆** (食) 豆の一種

**〔ろ〕**  
**艚** (器) 船に用ふる具  
**紹** (衣) 絹地の織物の名  
**爐** (雑) 床を切りて火を入るるところ  
**樓** (住) 二階の家  
**鹵簿** (雑) 天子の行列  
**露店** (雑) 床張にて屋根なき場  
**轆轤** (器) 車井戸の釣瓶廻をかくる具。傘の骨を上下せしむるもの  
**爐縁** (器) 爐の縁とするもの  
**轆轤細工** (器) ロクロにて作りたる器物の總稱

【は】

**撥** (器) 三味線等を引くもの  
**杯** (器) さかづき  
**埴** (博) ればつち  
**針** (器) 布帛を縫ふ道具  
**箱** (器) 物を納むる器の蓋あ  
**鍼** (器) 鍼醫の用ふる金銀製  
**梁** (住) 柱の上にありて棟を  
**旗** (雜) 布帛又は紙にて製し  
**機** (器) 布帛を織る器械

**箸** (器) 食事の時物を挟むに  
**馬爪** (器) 馬の爪より製す  
**馬具** (器) 乗馬につくる道  
**羽根** (器) 器械に鳥の翼に  
**刷毛** (器) 毛を束れて造り  
**蜂** (博) 虫の名  
**鉢** (器) 植木鉢、火鉢の如き  
**鳩** (博) 鳥の名  
**薔薇** (博) 植物、香氣頗る  
**麩麩** (食) 小麥粉にて製す

**蠅** (博) 虫の名  
**墓** (雜) 人の死を葬りたる處  
**萩** (博) 秋の七草の一種  
**箔** (雜) 金銀を叩きて紙の如  
**猓** (雜) 支那にて想像せる獸  
**橋** (雜) 川、溝などへ架けた  
**雀** (雜) 鳥の口ばし  
**蓮** (博) 植物、池に生す  
**沙魚** (博) 小魚、淡水に生  
**牛酪** (食) 洋食に用ふ、パ

【は】

**帚** (器) 塵を拂ふ具  
**袴** (衣) 衣の上に腰より下に  
**秤** (器) 物の重量を計る器械  
**柱** (住) 建物の内外に直立し  
**鋏** (器) 物を挟み剪る道具  
**埴輪** (雜) 殉死の人を生き  
**春衣** (衣) 春の頃着る衣  
**羽織** (衣) 衣の上に着る短  
**拂塵** (器) 室内器物の塵を  
**端書** (雜) 一種の郵便用紙

**膚着** (衣) 肌につけて着る  
**晴着** (衣) 晴れの場所へ着  
**半被** (衣) 法被。上着とし  
**板木** (器) 厚板にて作りた  
**半紙** (雜) 日常の用とする  
**馬穴** (器) 水を入るるに用  
**馬車** (雜) 馬にひかする車  
**及物** (器) きれもの  
**帽子** (器) 頭に覆被ぶるも

【は】

**端唄** (雜) 俗謡の一種、文  
**褒美** (雜) 褒めて與ふる物  
**薄荷** (博) 藥草の名、葉よ  
**梯子** (器) 高き所に登る器  
**芭蕉** (博) 植物の一種  
**旅籠** (雜) 旅宿  
**賣藥** (雜) 商人の賣る出来  
**盃洗** (器) さかづきあらひ  
**背囊** (雜) 兵卒の背部に背  
**佩劍** (器) 腰にさす劍